

CD 英語音声  
付き

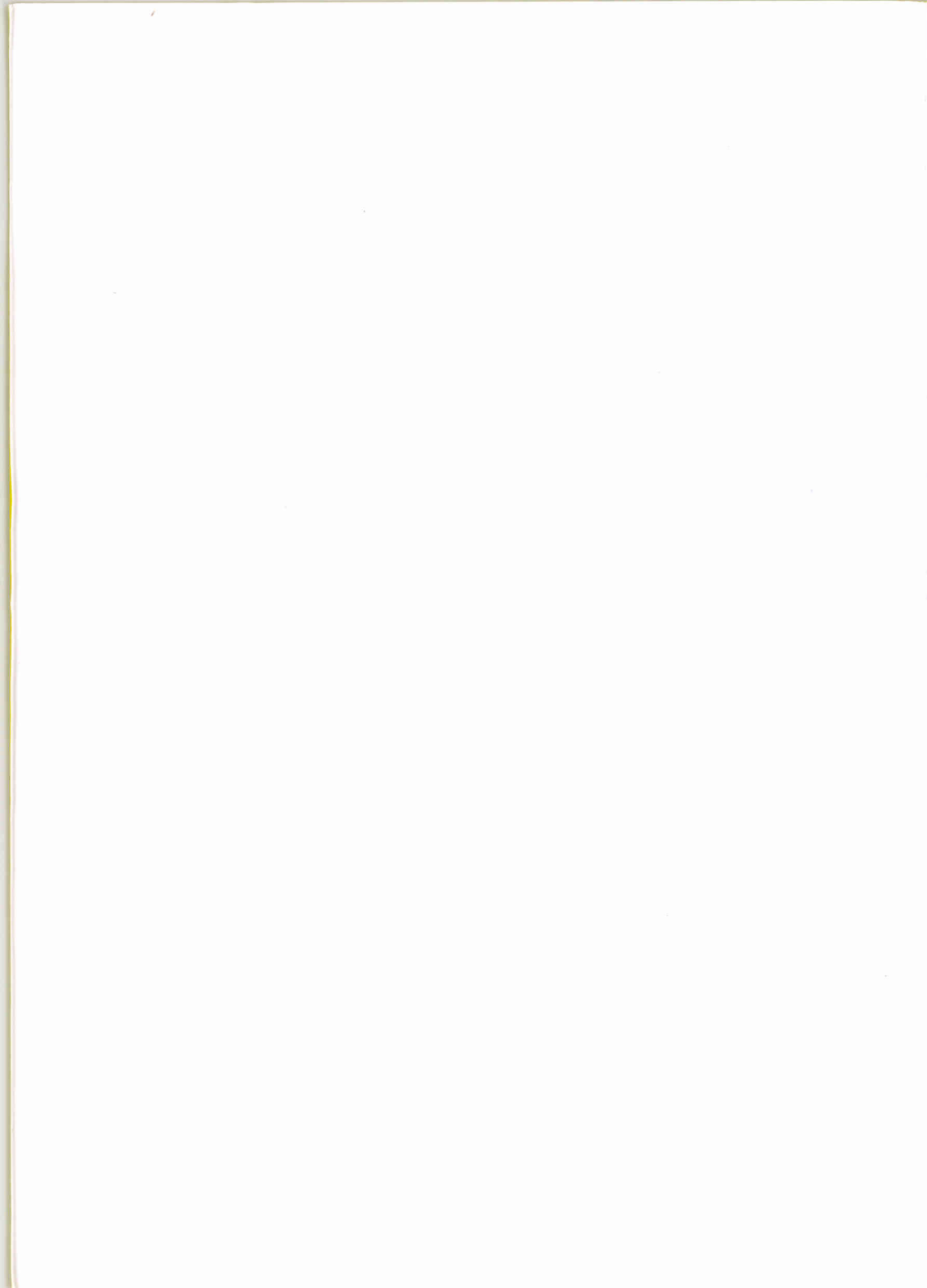
# ネイティブ英語の

# 壁

あなたは  
勘違い英語で  
損をして  
いませんか？

デイビッド・セイン著

indigo



# ネイティブ英語の

# 壁

あなたは  
勘違い英語で  
損をして  
いませんか？

デイビッド・セイン著



英語音声  
付き

indigo



イッ字<sup>®</sup>  
でわかる!  
シリーズ

# ネイティブ 英語の壁

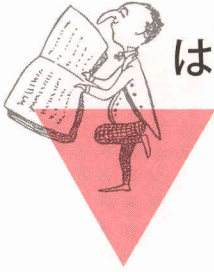
デイビッド・セイン [著]

CD

英語音声付き

indigo

株式会社インディゴ出版



## はじめに

正しい英語を話したはずなのに、いまいち伝わらない。ネイティブとの会話において、すれ違いが多い。など、英語と日本語の間に立ちただかる壁の高さを痛感した経験は誰でもあるはず。長年英会話の講師をしているとそんな悩みをよく聞きます。私自身もその「壁」を感じた経験がいくつもあります。

私が日本に来て間もない頃、日本人の友人が自宅での夕食に招待してくれました。そのとき友人は私に、” You'd better use chopsticks” と言いました。私は怒られた気分になり、食事中なれないお箸を必死に使って食べました。今となつては、彼が「お箸を使ったら食べやすいよ」と親切心で言ってくれたのだとわかりますが、当時は「箸を使わねーと、ただじゃおかねえ」と脅されているように聞こえてしまったのです。日本の学校では you'd better を「～したほうがいい」という意味だと教えるので、物をすすめる時につい使ってしまうようです。

でも、実はこの表現、「～しないとイヤなことが起きるぞ」という脅しのニュアンスが含まれるのです。

すぐに誤解だと気付けばいいのですが、そのままどんどん思わぬ方向に進んでいくこともよくあります。私もあのときこの誤解にすぐ気付けば、友人の奥さんのおいしい日本料理をもっとリラックスして堪能できたのにと思います。

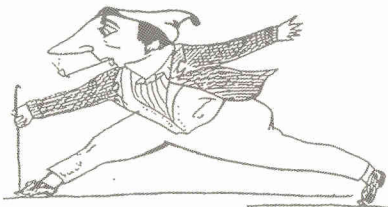
日本人のみなさんにとって英語は母国語ではないので、間違いや失敗をしてもいいし、発音だって完璧じゃなくていいと思います。ただネイティブに本意ではないことが伝わって、そのためにあなた自身が損してしまうのは、とてももったいないと思うのです。本書の目的は、みなさんの間違いを指摘して自信を失わせることではなく、その英語がネ

イティブにどう伝わるかを知ってもらい、正しいニュアンスを学んでもつと英会話を楽しんでいただきたいのです。フレーズに隠されたネイティブの微妙な心理を知っておけば、言いたいことがきちんと伝わって、よりスムーズにコミュニケーションがとれるようになるのではないのでしょうか？

みなさんも日本語を話すときには、状況に応じて、またその時の気分で言葉を使い分けているはずですよ。文法さえ正しければ何でもいいわけではありませんよね。これは英語でも同じこと。「気持ちを正しく伝えること」、これが大事です。

本書では、日本人が勘違いしがちなフレーズを、正しいネイティブのとらえ方と比較しながらご紹介します。またせっかく覚えたフレーズが相手にきちんと伝わるように、聴き取りおよび発声練習がついてますので、会話にも役立ちます。

本書を読み、みなさんがよく知っている英語フレーズに隠された、ネイティブの本当の気持ちを学んでください。「え?! そうだったの?」と意外に思うこともあるかもしれません。みなさんの前に立ちほだかる「言葉の壁」を崩すお手伝いが、少しでもできればと思います。



▼  
デイビッド・セイン  
David Thayne



# 壁 contents

まえがき—— 2  
目次—— 4  
本書の使い方—— 10

イキ字<sup>®</sup>  
でわかる!  
シリーズ

## 1 よく知っているつもりのも 章—— 11 フレーズの落とし穴

- 1 **I went to Okinawa to go swimming.** —— 12  
泳げたの? 泳げなかったの? はっきりしろ!と言いたくなる
- 2 **This is my company.** —— 14  
え? あなたは社長さん?
- 3 **I bought tofu.** —— 16  
知りたいのは量なのだ!
- 4 **When I was in junior high...** —— 18  
学年を言われても...
- 5 **That lady was helping the children.** —— 20  
that lady だと目の前にいなくちゃいけない
- 6 **Please help me.** —— 22  
Please help me. では誤解を招く
- 7 **Long time no see.** —— 24  
Long time no see. は社交辞令?
- 8 **I'm in trouble.** —— 26  
I'm in trouble. は「相手が怒って困った」
- 9 **I feel like dying.** —— 28  
まわりをドギマギさせるお騒がせな勘違い...
- 10 **Where's the capital of California?** —— 30  
日本人は「どこ?」と考え、アメリカ人は「名称は?」と考える
- 11 **I could eat caviar yesterday.** —— 32  
キャビアは食べれた? 食べれなかった?
- 12 **I like to shop here.** —— 34  
I like to... は楽しみにしている習慣を語るときに使う
- 13 **I think he's telling the truth.** —— 36  
I think の真実
- 14 **It is mine.** —— 38  
その英語、怒っているように聞こえます



## 2 丁寧に言ったつもりが失礼千万になる？

- 1 **I can't do it.** — 42  
英語はどこを強く言うかで意味が変わる
- 2 **The Americans spend a lot of money on cars.** — 44  
the が差別用語に?!
- 3 **From now on, we'll be careful.** — 46  
適当な奴と思われないうえに
- 4 **Work harder.** — 48  
「がんばって」を直訳するとひどい目に…
- 5 **Didn't I tell you to turn off the lights?** — 50  
人を不愉快にしてしまう質問の仕方

## 3 陥りやすい単語の誤解

- 1 **I tried to get to the airport in time.** — 54  
try は実はネガティブな言葉?!
- 2 **I bought some apple.** — 57  
some って本当はすごいのです!
- 3 **I fell down and I was so ashamed.** — 60  
embarrassed と ashamed は恥ずかしさの種類が違う
- 4 **Taro Suzuki drowned.** — 62  
“drowned” だったらもう手遅れ!
- 5 **That was smart.** — 64  
smart ass (賢いお尻) ってなんだ?
- 6 **You're not my boss.** — 66  
boss という語に対するあなたの印象は?
- 7 **I hardly think so.** — 68  
字幕訳者までも混乱させる hardly
- 8 **I want you to respect me.** — 70  
「尊敬」と respect とのギャップ
- 9 **The alarm went off.** — 72  
go off は意外と複雑…

HOW have you been?

**10 Let's play on Sunday.** — 75

play はお子ちゃま言葉？

コラム **problem と issue** 深刻なのはどっち？ — 78

コラム **approximately** ならズレはごくわずか — 80

## I will do my best.

### 4 学校英語の落とし穴

章 — 81

**1 You'd better not touch that.** — 82

教科書英語が脅し文句に！

**2 The report was so interesting.** — 84

so は大げさに語る時にどうぞ

**3 A father looked for his son's lost dog.** — 86

英語はシンプル・イズ・ベスト！

**4 I will go to Hawaii.** — 88

I will と I'll は別物

**5 May I look at your newspaper?** — 90

May I...? と行って許可を求めるのは子どもだけ

**6 Why were you late?** — 93

Why...? Because... は喧嘩の前兆

**7 For example.** — 96

For example を使い過ぎると嫌われる？

### 5 知らずに使うと赤っ恥

章 — 99

隠れた意味を持つ表現

**1 He said he finished on time.** — 100

He said ににじむ疑惑の思い

**2 I don't care.** — 102

関係をだめにするフレーズ

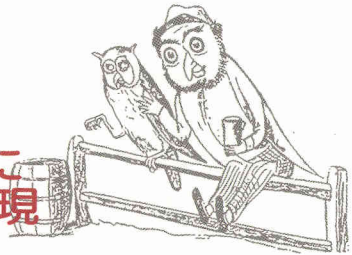
**3 He said something about you.** — 104

知らずに使うと相手が激怒しちゃうかも？！

- 4 **I'm satisfied with your work.** — 106  
ネイティブは satisfied では満足できない!
- 5 **And where did you put the book?** — 108  
問いつめるつもりはなかったのに…
- 6 **What's next?** — 110  
What's next? は怒りを表すひと言?!
- 7 **Would you like a drink?** — 112  
Would you like a drink? は成人だけに許されるセリフ
- 8 **I expect you to come.** — 114  
I expect you... は「期待」ではなく「強制」?!
- 9 **You always forget.** — 116  
You('re) always... は辛らつな非難の言葉
- 10 **I should go now.** — 119  
I should... は義務を語るだけ。実行に移すかどうかは別の話
- 11 **I'm a little hungry.** — 122  
控えめ表現の実態とは?!

## 6 ネイティブが無意識に 使っている表現

章—— 125



- 1 **You know, I might have to move.** — 126  
便利な you know、使い過ぎには気をつけて
- 2 **Well, that was fun.** — 128  
Well のネイティブ流使い分けを学ぶ
- 3 **Say nothing.** — 130  
You're welcome. ばかりじゃ脳がない
- 4 **I need to buy a new car, I think.** — 132  
I think の使い過ぎは優柔不断と思われる?!
- 5 **Let's start with a round of beers.** — 134  
「とりあえず」を英語にすると・・・
- 6 **Talk about busy, I didn't even have time to eat.** — 136  
「～といえば」は talk about...
- 7 **Guess what?** — 138  
相手を引きつけるイントロ表現を忘れずに
- 8 **The mobile phone is destroying the world.** — 140  
the は畏敬の念の現れ

- 9 **Would you like a drink or something?** — 142  
... or something は心配りの言い回し
- 10 **I would like to buy...え~と...two books.** — 144  
間違いは、すぐに正せば No problem!
- 11 **Maybe, I don't know.** — 146  
I don't know. でやんわりと
- 12 **Now I need to make an announcement.** — 149  
Now って意外と便利かも
- 13 **actually** — 152  
actually は謙遜の現れ
- コラム 父母は **father and mother** ではない — 155

## I'm thinking of you.

### 7 微妙な英語の使い分け

章 — 157

- 1 **I walked a hundred miles.** — 158  
a million と one million って同じじゃないの?
- 2 **I'm so glad you came.** — 160  
うれしさいろいろ。英語表現もいろいろ
- 3 **I was very hungry.** — 162  
very と really のネイティブ流使い分けを学ぶ
- 4 **I'm thinking of you.** — 164  
いとしい気持ちが含まれます。
- 5 **I'm sad.** — 166  
感情表現のバリエーションを増やしてコミュニケーションの達人に!
- 6 **I have to go.** — 168  
I have to go. と I need to go. は何が違う?
- 7 **I'm boring.** — 170  
退屈なのは、あなた? それとも私?
- 8 **Can anyone speak Japanese?** — 172  
any と some のネイティブ流使い分けとは?
- 9 **If it rains, we'll stay home.** — 174  
if を置く位置でニュアンスが変わる

**10 I watched a cat climb a tree.** — 177  
watch、look、see のネイティブ流使い分けを学ぶ

**11 I have to take my dog for a walk.** — 180  
I have to take my dog for a walk. は犬嫌いの人のセリフ

**12 We went to store.** — 183  
a の心理学

コラム **I might do that.** →する可能性 40%  
**I'll probably do that.** →する可能性 70%  
可能性は何%? — 186

コラム **僕ら、友だちじゃなかったの?** — 188

## 8 英語の意外な一面

章 — 189

**1 You're it.** — 190  
辞書には載っていない it の特別な意味

**2 He's not very good.** — 192  
good の意味は「よい」だけじゃない。

**3 I ain't going.** — 194  
ain't 実はけっこう使われています。

**4 I'd kill for a big steak right now.** — 196  
英語って野蛮かも…

**5 toilet** — 199  
なんでもズケズケとさえばいいものではありません

コラム **ネイティブを英語でぎゃふんと言わせるチャンス!** — 202



- 企画 / 執筆 / ナレーション デイビッド・セイン
- 執筆協力 田村・ティム・隆幸 小池信孝
- 編集 小松アテナ
- 編集協力 / ナレーション マイケル・ダイニンガー
- 校正 森田 修 井上 鴻 弘田春美  
エド・ジェイコブ
- 装丁 薬師 晶

## ●本書の使い方

日本のみなさんがよく使う英語フレーズに隠された、ネイティブ英語の裏の意味を一つひとつ分かりやすく説明していきます。ページの最後にイメ〜字を使った聴き取り&発声練習がありますので、CDを聴きながら練習してみましょう。

5

### That was smart.

勘違い 「賢かったね」

本当は 「まぬけ！」

#### ●勘違い

多くの日本人が誤解して解釈しがちな日本語訳。

#### ●本当は

日本の発想ではなかなか理解できない、ネイティブスピーカーの本当の気持ち。

#### ● Practice イメ〜字で聴き取り&発声練習

イメ〜字とは、英文の形そのものを音声にならって変形させ、正しい声の出し方を文字の形で表現した絵文字のこと。イメ〜字を見ながら読めば、フレーズの正しいイントネーションやアクセントの位置がわかります。

CDは2回流れますので、最初に聴き取り、次に音声が続いてイメ〜字を見ながら発声練習をしましょう。

#### ▼イメ〜字の読み方

大きい文字は強く発声する。

白抜き文字は、消えてしまいう音、はつきり聞こえなくなる音。

文字の上に見えている波の形で英語の「勢いと流れ」を表現。

尻上がりのフレーズは文字自体が右上がりになっています。

**Practice** イメ〜字で聴き取りと発声練習

**CD 24**

Are you trying to be smart?  
それ、自慢?

He's always a smarty pants.  
あいつはいつも威張ってる。

ネイティブ  
英語の

# 壁

# 1

章

よく知っているつもりの  
フレーズの落とし穴



# I went to Okinawa to go swimming.

**勘違い** 「泳ぎに沖縄に行っちゃった」

**本当は** 「沖縄に泳ぎに行ったけど、だめだったのよ」

## 泳げたの？ 泳げなかったの？ はっきりしろ！ と言いたくなる

次の文を見てください。

### I went to Okinawa to go swimming.

ここで問題。この人は海で泳いだのでしょうか、それとも泳がなかったのでしょうか？



一見、「泳ぎに沖縄に行った」と訳せそうですが、**I went to Okinawa in order to go swimming.** という文章を短くしたもの、と考えることも可能です。沖縄には行ったけれども何か都合の悪いことが起こり、泳ぎには行けなかったとも解釈できるのです。

では「沖縄に泳ぎに行った」というときはなんと伝えたいのでしょうか？

### I went swimming in Okinawa.

と言えば、泳ぎに行ったとはつきりわかります。

動詞の過去 + (in order) to という形の場合、しばしば「やろうとしていたことができなかった」「やろうとしていたことを諦めた」というニュアンスが伴います。実際にやったのか、やらなかったのか、よくわかりません。ですから、ネイティブはこの後に相手が理由を説明してくれることを期待します。例えばこんな具合です。

**We went to Kyoto to go see the cherry blossoms...** (花見のために京都に行ったが…) とここまでしか言われなくても、ネイティブの頭には自然に「それで、花見はできたの、できなかったの？」という疑問が浮かびます。その予想通りその先には ...but it was too



late. (既に花が散っていた) という文が続きます。つまりネイティブならば、前半部のみで花見ができなかったことをイメージできるのです。他にもいろんなシチュエーションを見ていきましょう。

車を買に行つたときに店員さんに、

**I came here to buy a car...** と切り出してしまうと、「この人買わないつもりで冷やかしかね」なんて思われかねません。

買う気があるなら、

**I'd like to buy a car.** 「車を購入したいのです」と言うのが自然です。

喧嘩してしまった恋人に、

**I called you to apologize...**

と言ってしまうと「こいつ開き直る気ね!」ととられる可能性大。

本当に謝る気があるなら

**I'd like to apologize.** 「謝らせて」と言いましょう。

なるほど!



## PRACTICE

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
1

# I went to Hokkaido to go skiing.

北海道にスキーに行ったけど(雪はなかった)。

# We went to the bank to get some money.

銀行にお金をとりに行ったけど(閉まっていた)。

# I called her to invite her.

彼女を招待したいと思って電話したけど(いなかった)。

## This is my company.

勘違い 「ここが私の働く会社よ」

本当は 「これがワシの経営する会社じゃ」

### え？ あなたは社長さん？

私が初めて日本を訪れたときに感じたのは、日本人は、自分の価値を働いている会社に見出す、ということでした。一般的なアメリカ人はそのような考えはあまり持たないと思います。両者の違いは使っている言語の中に見ることができます。

そうだったの



日本人はしばしば、**I work for ABC.**「私は ABC 社で働いています」と言いますが、アメリカ人なら、**I'm an accountant at ABC.**「私は ABC 社の会計士です」と言うことのほうが多いのです。また日本人と英語で話しているとよく、「my company うんぬん」という言い方をしますが、これも私を混乱させます。なぜなら、my company と言われれば、我々ネイティブは「その人が所有・経営している会社」を指していると考え、「その人が働いている会社」とは思わないからです。例えば、あるビルの前を通過し、**This is my company.** と言えば、その人が雇われている会社ではなく、「自分が所有している会社」という意味になります。ネイティブなら、my office と言ったり、This is where I work. 「ここが私の働いているところ」というような言い回しを用いるでしょう。

〜

ネイティブも時には “my company” を「自分の職場」という意味で使うことがありますが、それは、話の前後関係から雇われている会社のことを指しているとはつきりわかるときだけです。例えば、次のような場合がそうです。

**I heard my company is hiring.**

「うちの会社が社員を募集しているんだって」

**My company won't pay for my travel expenses.**

「うちの会社は旅費（出張費）は出してくれないんだ」

**I don't think my company cares about me.**

「うちの会社は私のことなんかどうでもいいと思っている」

なるほど!



「会社を辞める」というときにも、日本人はよく quit my company と言いますが、これも間違いです。I'm going to quit my company. と言えば、ネイティブの耳には「会社を辞めるつもりだ」ではなく、「会社を潰すつもりだ」と聞こえます。ネイティブなら、I'm going to quit my job. と言います。

**One More Hint**

より自然に聞こえるのは、A、B、または、AB 両方のどれでしょうか？

## 問題1

- A) This is my company. I've worked here for two years.  
B) This is my company. I started it five years ago.

## 問題2

- A) I have to go to my company today. I have a meeting with my boss.  
B) I have to go to my company today. I have to fire some people.

## 問題3

- A) My company is going out of business. I'll have to find a new job.  
B) My company is going out of business. I have to save it.

解答：問題1 B 問題2 B 問題3 AB 両方

**PRACTICE**

イメ～字で聴き取りと発声練習

CD  
2

**I'm an accountant at ABC.**

私はABC社の会計士です。

**I don't think my company cares about me.**

うちの会社は私のことなんかどうでもいいと思っている。

**I want to quit my job.**

もう仕事辞めたい。

## I bought tofu.

**勘違い** 「お豆腐を買いました」

**本当は** 「豆腐を大量に（またはほんのちょっと）買った」

### 知りたいのは量なのだ！

ある私の生徒がこう言いました。

#### I bought tofu.

本当に？

私はこのようなフレーズを聞くと、なんだかモヤツとしてしまうんです。なぜなら、豆腐を買ったことはわかるけれども、「いったいどれくらい買ったんだろう？」と考えてしまうからです。I bought a block of tofu. 「豆腐を1丁買った」とか、I bought five blocks of tofu. 「5丁買った」と言ってくれれば、モヤモヤ感もすつきりなのです。

I'd like water. と言われたときも同じです。これだと、ほしいのは水一滴なのかそれとも、バケツ一杯なのかわかりません。こういうときは、I'd like a glass of water. と行ってほしいものです。

へ～

逆に数量に重点を置かないときは、I bought some tofu. や I'd like some water. と言えばいいのです。これでネイティブは「いくらか」あるいは「適量」と解釈します。

「コーヒーはいかが？」

モヤモヤ： **Would you like coffee?**

スッキリ： **Would you like some coffee?**

「ちょっと時間ありますか？」

モヤモヤ： **Do you have time?**

スッキリ： **Do you have some time?**

「ピザでも食べよう」

モヤモヤ: **Let's get pizza.**

スッキリ: **Let's get some pizza.**

なるほど!



文書、特に公文書やビジネス文書では、あまり“some”にこだわる必要はありませんが、コミュニケーションでは、できるだけ聞き手をモヤモヤさせないようにしましょう。



1

よく知っているつもりの方のフレーズの落とし穴

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
3

**I bought some tofu.**

適切な量のお豆腐を買った。

**Why don't you buy some wine?**

ワインでも買ってきたら?

**Do you have some time?**

ちょっと時間ありますか?

**Could you lend me some money?**

ちょっとお金かしてくれないかな?

## When I was in junior high...

**勘違い** 「中学のときの話なんだけどね」

**本当は** 「わたくしが中学校に通っていたときのことです」

### 学年を言われても…

次の英文を見てください。

#### When I was in junior high, I went to Hokkaido.

まさか!

「中学生のころに北海道へ行った」と訳したでしょうか？

英文には文法上の問題はありません。伝えたいことも理解してくれるでしょう。しかしネイティブは、過去の話をするときはあまり学校の学年などを持ち出したりしないのです。ネイティブなら年齢や年ごろを告げます。例を挙げてみましょう。

**My daughter is an elementary school student.** 「娘は小学生です」

▶ **My daughter is 9-years old.** 「娘は9歳です」

**I went to America when I was a college student.**

「大学生のころ、アメリカに行きました」

▶ **I went to America when I was 20.**

「20歳のときにアメリカに行きました」

**A primary school boy got sick on the train.**

「小学生の男の子が電車で酔いました」

▶ **A little boy got sick on the train.**

「小さな男の子が電車で酔いました」



英語圏では、「今日午後、女子高校生の〇〇さんが何者かに連れ去られました」というニュースはあまり耳にしません。**A 17-year old girl was kidnapped this afternoon.** 「17歳の少女が何者かに連れ去られました」と言うのが自然です。アメリカでは20歳の高校

生がいてもなんの不思議もありません。ですから、学年を告げることはないでしょう。

そうだったの



またニュースでは、被害者および加害者の職業については触れない傾向にあります。例を挙げておきます。

**A 30-year old company employee was arrested at his home.**

「30歳の会社員が自宅で逮捕されました」

▶ **A 30-year old man was arrested at his home.**

「30歳の男性が自宅で逮捕されました」

**The 40-year old housewife was found innocent.**

「40歳の主婦は無実となりました」

▶ **The 40-year old woman was found innocent.**

「40歳の女性は無実となりました」

**The 80-year old unemployed man lived by himself.**

「80歳の無職の老人は独りで生活していました」

▶ **The 80-year old man lived by himself.**

「80歳の老人は独りで生活していました」

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD

4

**I went to America when I was twenty.**

20歳のときにアメリカへ渡りました。

**My cousin's about twelve-years old.**

いとこは12歳くらいです。

**I was good at math in junior high school.**

中学では数学が得意だったよ。

1

● よく知っているつもりの方のフレーズの落とし穴 ●

## That lady was helping the children.

**勘違い** 「その女性が子どもを救出しました」

**本当は** 「そこにいるその女性が子どもを助けていました」

### that lady だと目の前になくちゃいけない

ある生徒から、子どもたちが乗ったバスが車に追突し、1人の女性が子どもたちを救助した、という事故の話を聞きました。

まさか!

そのとき彼女は、**That lady was helping the children.** と言ったのですが、特に訂正はしませんでした。

しかし後から考えると、この文章は少し変だと思いました。おそらくその生徒は、「その女性は子どもを救助していた」と言いたかったのでしょう。

ネイティブなら、その本人が目の前にいて、その人を指差しながら話すとき以外、**That lady...** とは言いません。**The lady...** と置き換えることは可能ですが、それだと「**くそこにいる人のうち** 女性のほうは〜」というニュアンスになります。現場に男性と女性が1人ずついる場合はこれでもかまいませんが、そうでない場合は不自然に聞こえます。

「ある女性が / 1人の女性が〜」と言う場合、たいていのネイティブは **There was a lady there helping the children.**

と言うでしょう。これなら、「現場にいた女性が子どもたちを助けていた」となります。

〜

「〜がいて / あつて、〜していた」と言うとき、ネイティブはよく **There was a...there-ing...** という形を用います。しかし多くの日本人は、英語に堪能な方でも、この形を用いる人はほとんどいません。しっかり身につければ、よりネイティブに近い英語になります。

### That student ate an apple.

「その生徒がリンゴを食べた」

### There was a student there eating an apple.

「そこに(その現場に)リンゴを食べている生徒がいた」



**A bird ate an insect.**

「ある鳥が虫を食べた」

**There was a bird there eating an insect.**

「虫を食べている鳥がいた」

なるほど!



**That computer was cheap.**

「そのコンピュータは安かった」

**There was a cheap computer there.**

「そこに安いコンピュータがあった」

**A lot of people were there.**

「とても大勢の人がいた」

**There were a lot of people there.**

「そこに多くの人がいた」

\*どちらも意味はほとんど同じですが、最初の例文は“大勢の人がいた”ことを強調しています。

**No one was there.**

「まったく誰もいなかった」

**There was no one there.**

「そこには誰もいなかった」

\*意味はほとんど同じですが、最初の例文は“人が1人もいなかった”ことを強調しています。

**PRACTICE**

イメ～字で聴き取りと発声練習

**CD**  
**5**

**There weren't any teachers there.**

先生はいませんでした。

**There were a lot of people there.**

そこには多くの人がいた。

**There was no one there.**

そこには誰もいなかった。

## Please help me.

**勘違い** 「ちょっと手を貸してください」

**本当は** 「お願いします。助けてください」

### Please help me. では誤解を招く

私がまだアメリカに住んでいたころの話です。

ある日、日本人の友人と共に買い物に出かける機会がありました。

まさか!

彼は横にいる私に頼ることなく、自ら英語で店員に **Please help me.** と尋ねました。すると店員はちらりと私のほうに目をやり、やや困惑したような表情で **Of course.** と返答しました。店員は友人のアシストをしましたが、私とその店員の間にはなんとなく気まずい空気が流れていました。しかし当の友人はそんな事情を知る由もありませんでした。

楽しいはずの買物がなぜこんなことになってしまったのでしょうか?

問題なのは友人のひと言でした。 **Please help me.** と言ったら、「なんとかしてください。助けてください」というオーバーなニュアンスになるのです。つまり店員は、横にいる私が全くの役立たずで友人を困らせていると判断したのです。

なるほど!



少々まごついて困っているときは、ネイティブは、

#### Could you help me?

と言ってアシストを求めます。この表現には「どうか助けてください」のような大げさなニュアンスはありません。友人がこう言ってアシストを求めているら、気まずい思いをせずにすんだのです。

少なくとも友人の英語は通じ、目的を達成することはできました。しかし“通じればよい”というコミュニケーションでは、いつまでたつてもネイティブと同じ土俵には立てません。ぎこちなさのない自然なコミュニケーションを目指すなら、状況や場面に応じた正しい表現を身につけることが大切です。

## One More Hint

他人に何かを依頼するとき、ネイティブは favor という単語をよく使います。この語に関する細かい解説は辞書に任せるとして、簡単に言えば“小さな親切”を意味すると覚えておいてください。

Could you do me a little favor?

「ちょっとお願いがあるのですが？」

I have a favor to ask.

「お願いがあるんだけど」

Thanks for the favor.

「好意に感謝するよ」

I owe you a favor.

「恩に着るよ」

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
6

Could you give me a hand?

ちょっと手伝ってくれますか？

Could you give me a little help?

ちょっと手伝ってくれますか？

Could you help me a little?

ちょっと手伝ってくれますか？

Could you do me a favor?

ちょっとお願いしていい？

## Long time no see.

勘違い 「お久しぶり！」

本当は 「ずいぶんとごぶさただこと」

### Long time no see. は社交辞令？

まさか!

日本語の表現には英語にしにくいものがあります。「久しぶり」もそのひとつ。これにあたる表現として、**Long time no see.** という英訳があてられているのをよく見かけます。これでも通じないことはありませんが、気持ちが込もっていない社交辞令のように聞こえます。つまり、これでは「久しぶりに会った喜び」は表れていないのです。ネイティブはこの表現を単なる挨拶として、また時には皮肉として使うことすらあるのです。例えば誰かが数日間許可なく仕事を休んだとします。その人間が出社したときに皮肉を込めて、**Long time no see.** などと言ったりします。イヤミたらたらで「おやおや、久しぶりに誰かさんの登場だよ」といったニュアンスでしょうか。

なるほど!



久しぶりに会えた喜びを伝えたいなら、

**How have you been?**

という表現を使うとよいでしょう。同じく、**It's been a long time.** という表現もよく使われます。

A: **John!**

B: **Midori! How have you been?**

A: **Great. It's been a long time.**

B: **Yes, it has.**

A: 「ジョン！」

B: 「ミドリ! 久しぶり！」

A: 「元気よ。本当に久しぶりね」

B: 「うん、そうだね」

「久しぶり」を文中で表すのもやや手間取ります。例えば、「久しぶりに富士山に行った」と言うとき、英語ではどう言えばいいのでしょうか？こ

のような場合は、for the first time in... という構文を用います。「～の期間で初めて…」という直訳ですが、これで「久しぶりに」という意味になります。

へ～

1

●よく知ってる人もラズベリーの落とし穴●

**I went to Mt. Fuji for the first time in a long time.**

「久しぶりに富士山に行った」

**I went to Mt. Fuji for the first time in years.**

「しばらくぶりで富士山に行った」

**I went to Mt. Fuji for the first time since I was a child.**

「子どものとき以来、久しぶりに富士山に行った」

## One More Hint

空港で日本人の男性とアメリカ人と思しき男性が再会する場面に出くわしたことがあります。その日本人の男性は、相手に **I missed you.** と言いました。このひと言で、私はこの2人はゲイのカップルに違いないと思ったのですが、それを聞いたアメリカ人の男性はなんだか微妙な表情。どうやらこの2人はゲイではなく、単なる同僚のようでした。

その男性は単に「会えなかったので寂しかったですよ」という程度の軽い意味で言ったつもりだったのでしょ。それならば、主語は I ではなく We を使って **We missed you.** と言っておくべきでした。これなら、相手の男性が怪訝な表情をすることはなかったでしょう。

**I missed you.** は、恋愛関係にある者の間で交わされることが多い表現なのです。例えば、遠距離恋愛中の愛し合う2人が、「会えなくて寂しい」というときに、電話で **I miss you.** などと言って慰め合います。

**PRACTICE**

イメ～字で聴き取りと発声練習

CD  
7

# HOW have you been?

元気だった？

# I was just thinking about you.

どうしてるかなって思っていたところ。

# I'm SO glad you called.

電話してもらえてうれしいよ！

# I'm in trouble.

勘違い 「困ってるんだ」

本当は 「相手がカンカンなんだよ」

## I'm in trouble. は「相手が怒って困った」

まさか!

**I'm in trouble.** はよく、「困った」と訳されています。たしかに、その通りなのですが、ネイティブ的感覚だと、これは「叱られて困った」という状態で使うことが多くなります。つまり、この表現には「誰かを怒らせてしまった」という含みがあるのです。例えば、結婚している友人がスーツケースを片手に訪ねてきて、

### **I'm in trouble.**

たとえば、ネイティブなら「奥さんに叱られて家から追い出されたな」と解釈するのが普通です。

また、日ごろから危ない橋を渡っているような友人が突然電話をかけてきて、**I'm in trouble.** と言ったとしたら、「違法行為で逮捕される」と容易に解釈できます。これは **I'm in trouble with the law.** と言っているのと同じことです。「かなりまずいことになった」という場面で使われます。

通常「困った」というときは **I'm in trouble.** ではなく、以下のような表現を使うとよいでしょう。

**I don't know what to do.** 「どうしたらいいんだ=困ったぞ」

**Good grief.** 「なんてこった=困ったな」

**Oh, brother.** 「やれやれ=困った」

なるほど!



このほか、trouble という単語を使わずに「困った」を表現するパターンをいくつか紹介しましょう。trouble を使ったありがちな間違いと合わせて見てください。

「困ったことになった」

○ **This is a mess.**

× **I got into trouble.** =不正をやって大変なことになっている。

「彼は困った人」

○ **He's a headache.**

× **He's a troubled person.** = 彼は精神が不安定だ。

「彼を困らせないで」

○ **Don't bother him.**

× **Don't get him in trouble.** = 彼に不正行為をさせるな。

そうだったの



## One More Hint

ある生徒と歴史について話していたときのこと。彼女に **I'm not interested in history.** と言われたときはちょっとビックリしてしまいました。これは「歴史なんぞにまったく興味はないわ」と言っているのと同じことなのです。「そんなにぶつきらぼうに言わなくてもいいのになあ」とちょっとショックでした。

でも、よくよく考えたら、彼女はきっと「歴史にはあまり興味がないのです」と言いたかったのですね。こういうときには、very を加えて、**I'm not very interested...** と言いましょ。これで「あまり興味がなくて…」といったニュアンスの、ずいぶん控えめな言い方になります。

## PRACTICE

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
8

# I'm in trouble with my bosses.

上司にしかられちゃって。

# I don't know what to do.

どうしたらいいんだ。

# This is a mess.

困ったことになったぞ。

# Don't bother him.

彼を困らせないで。

# I feel like dying.

**勘違い** 「もう死にそう」

**本当は** 「自殺してやる」

## まわりをドギマギさせるお騒がせな勘違い…

まさか!

日本人の友人たちと長距離ドライブに出たときのこと。不運にも道は大渋滞、おまけに猛烈な熱波のためか、車のエアコンはあまり効いていませんでした。すると、友人の1人が、**I feel like dying.** とひと言…。私はギョッとして彼のほうを見ました。**I feel like dying.** は「もう死にたい」「自殺してやる」という意味だからです。でも本当はそうではなくて、「(暑くて) 死にそう」と言いたかったのだとわかりました。それなら、

**I feel like I'm going to die.**

とすべきでした。

なるほど!



「～しそうな気分」と言いたいときには、**I feel like I'm going to...** と言わなければなりません。

同じように誤解しやすい例をいくつか取り上げてみましょう。

**I feel like passing out.**

「気絶したいな」

**I feel like I'm going to pass out.**

「気絶しちやいそう」

**I feel like falling in love.**

「恋をしたいな」

**I feel like I'm going to fall in love.**

「恋に落ちちやいそう」



## One More Hint

I'm dying to... もよく間違っ使われる言い回しです。これは「ひどく～したい」という意味の言い回し。dying が「死ぬこと」だと思っていると、この文は訳せなくなります。ただし、これは楽しみにしていることにしか使えない言い回しなので要注意です。例えば、「すぐトイレに行きたい」を **I'm dying to go to the toilet.** とは言えません。

**I'm dying to see this movie.**

「この映画は是非でも観たい」



**We're dying to meet your parents.**

「あなたのご両親にはぜひお会いしたいと思っています」

**She's dying to see your paintings.**

「彼女、君の絵をととも見たがってるよ」

**PRACTICE**

イメ～字で聴き取りと発声練習

CD  
9

# I feel like I'm going to pass out.

気絶しちゃうそう。

# I feel like going shopping.

ショッピングに行きたいな。

# I feel like a nap.

昼寝がしたいな。

# I feel like eating.

何か食べたいな。

## Where's the capital of California?

**勘違い** 「カリフォルニアの州都は？」

**本当は** 「カリフォルニアの州都はどこに位置していますか？」

**本当に?**

**日本人は「どこ?」と考え、  
アメリカ人は「名称は?」と考える**

ある日私の生徒の1人が、

**Where's the capital of California?**

と尋ねました。私は彼が何を尋ねているのかすぐにわかりましたが、ちよつといじわるな考えが浮かび、にっこり笑ってこう答えました。

**It's in California.** 「カリフォルニア州の中ですよ」

彼はぼかんとした表情をしていました。

彼は「カリフォルニアの州都はどこですか?」という質問をそのまま英語に直訳し、**Where's the capital of California?**と尋ねました。しかしこれは日本人が間違えやすい表現のひとつです。

〜

日本語では、「どこ?」と場所を尋ねても不自然ではありませんが、ネイティブは場所や位置ではなく、その「名称」について考えます。ですから、このような質問をする場合、Where is...?ではなく、**What is...?**と尋ねるのがふつうです。

彼が **What is the capital of California?**と尋ねていれば、私はいたずら心を起こすことなく、**It's Sacramento.**「サクラメントです」と答えていたでしょう。

**A: What's the biggest city in America?**

**B: It's New York.**

A: アメリカでいちばん大きな都市はどこ？

B: ニューヨークさ。

## One More Hint

アメリカの首都といえば？

そうだったの



正解はワシントン。正式には Washington, District of Columbia (ワシントン、コロンビア特別区) と呼ばれています。

しかし、実はごく短期間でしたが、ニューヨークが首都に定められていた時代もありました。最初はニューヨーク、次にフィラデルフィア、そして 1800 年にワシントンへと移転します。ワシントン D.C. は首都移転のために建設されました。

首都ワシントンはワシントン州と混同されることがありますが、ワシントン州は太平洋側、一方ワシントン D.C. は正反対の大西洋側にあります。

首都ワシントンは連邦直轄地で、他州のアメリカ市民同様、居住者は連邦税と地方税を納め、軍役につき、連邦法を遵守する義務がありますが、州ではありません。居住者の大統領選挙権が認められたのは 1961 年、現在も完全な投票権を持った上下院議員の選出は認められていません。また予算や特別区内の法に完全な自治権はなく、最終的な決定権は議会 (D.C. の議員は除く) に委ねられています。

PRACTICE

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
10

# What's the biggest city in Japan?

日本で一番大きい都市は？

# What's the capital of Nevada?

ネバダ州の州都は？

# What's your favorite city in Europe?

ヨーロッパではどこが好き？

## I could eat caviar yesterday.

**勘違い** 「昨日、キャビアを食べることができた」

**本当は** 「昨日、キャビアを食べれたかもしれない」

### キャビアは食べれた？ 食べれなかった？

本当に？

昨日は給料日。そこで自分へのごほうびだとばかりに、フレンチ・レストランに行き、はじめてキャビアを食べました。

「昨日は、キャビアを食べることができた」を英語にする場合、次のようにするのは、英語として少しおかしいのですが、どこがおかしいかわかりますか？

### I could eat caviar yesterday.

まさか！

日本語で「～できた」と言う場合、頭の中で、オートマチックに **can** を過去形にして **could** を用いがちです。ところがこれが、英語らしくない英語のもとになっていることが多いのです。

まず、**could** には「～かもしれなかった」「～だっただろう」「～でありうる」のような意味もある上、仮定法として「～できるだろうに」などの意味で用いることもあります。このように意味が多岐にわたっていて紛らわしいため、「～できた」という意味を表すときに **could** を用いることは実はあまりないのです。

その上、**could** を「～できた」という意味で用いる場合、「以前は～できていたが、今はできない」というニュアンスを含みます。例えば、こんな感じです。

### I could speak French when I was younger, but I can't now.

「小さいころはフランス語を話すことができたが、今はできない」

そのため、日本語で「～できた」という場合、**could** ではなく、**be able to** を過去形にして用いることが多いのです。

**I worked through lunch and was able to go home at 7:00.**

「昼休み返上で仕事したから、7時には帰宅できた」



けれど、口語では be able to の代わりに、よく got to do という表現を用います。そこで、「キャビアにありつけた」は次のような表現にすると自然な感じになります。

**I got to eat caviar yesterday.**

単に過去形で表すこともよくあります。caviar を強調して、

**I ate caviar yesterday.**

たとえば、十分通じます。

**PRACTICE** イメ～字で聴き取りと発声練習

CD

11

**I ate caviar yesterday.**

昨日、キャビアを食べました。

**I could have done it.**

私ならできはずだった。

**She was able to finish on time.**

彼女は時間通りに終わることができた。

**He could have tried harder.**

彼ならもっとがんばれたのに。

## I like to shop here.

勘違い 「ここでの買い物は楽しいな」

本当は 「ここで買い物するのが好きなの」

### I like to... は楽しみにしている習慣を語るときに使う

なるほど!



テレビの英会話番組を観ていたときのことで、日本人と外国人の2人が買い物をしているという設定のスキット内で、外国人が、最近アメリカに来たという日本人を初めてデパートに連れて行きます。すると日本人が、**I like to shop here.** と言い、字幕では「ここでの買い物は楽しい」となっていました。私は少し変だと思いました。**I like to shop here.** はその店に頻繁に来ていて、そこで買い物をするのが楽しいというときに使うフレーズです。

ネイティブが、**I like to...** と耳にすると、「この人は頻繁にその行為を行っているんだな」と考えます。

#### **I like to take long walks in the park.**

「公園で長い(距離の)散歩をすることが好きだ」

#### **I like to go to the beach with my family.**

「家族と海岸に行くのが好きだ」

#### **I like to get up early.**

「早起きするのが好きだ」



これらの例文には、過去に何かを行い、未来もまたそれを行いたいというニュアンスが含まれています。別の角度から見ると、**I like to...** と言うときには、その時点ではその行為は行っていない、ということになります。例えば、実際に公園を散歩しているときなら、ネイティブは、**I like to take long walks in the park.** とは言わず、**I like taking long walks in the park.** と言うでしょう。

「週末に何をするのが好きか」と尋ねられ、「家族とビーチに行くのが好き」と答えるなら、**I like to go to the beach with my family.** と返答するのが自然です。しかし、実際にビーチにいる場合は、**I**

**like going to the beach with my family.** と言うほうが自然です。

話を冒頭のテレビの英会話番組に戻しましょう。スキット中の日本人女性は初めてそのデパートへ行き、買い物の中でした。**I like to shop here.** ではなく、**I like shopping here.** と言うべきだった理由がこれでおわかりになったと思います。

そうだったの



## One More Hint

問題 1 あなたは友人とスキーを楽しんでいます。正しいのは A、B のどちらでしょうか？

- A) I like to ski here.
- B) I like skiing here.

問題 2 あなたはヨーロッパ旅行の計画を立て、旅行会社の人と話をしています。正しいのは A、B のどちらでしょうか？

- A) I like to go to museums.
- B) I like going to museums.

問題 3 満員電車の車中にいます。正しいのは A、B のどちらでしょうか？

- A) I don't like to ride crowded trains.
- B) I don't like riding crowded trains.

解答：問題 1：B 問題 2：A 問題 3：B

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
12

# Do you like living in London?

ロンドンでの生活は気に入っていますか？

# I don't like listening to her.

彼女の話はもう聞きたくない。

# I like shopping here.

ここで買い物するのは楽しいですね。

# I think he's telling the truth.

**勘違い** 「彼は本当のことを言っているかもしれない」

**本当は** 「彼は本当のことを言っているような気がする（彼は本当のことを言っているよ）」

## I think の真実

こんな状況をイメージしてみてください。

あなたの友人が不正を働いたと疑われたものの、当人はそれを否定しました。事情を知ったネイティブに「どう思うか?」と尋ねられ、「私は彼が本当のことを言っていると思う」と言うつもりであなたは、**I think he's telling the truth.** と答えました。

本当に?

しかしこの言葉を聞いたネイティブは混乱したような表情をしています。さて、なぜでしょう?

それは、**I think he's telling the truth.** というひと言が、

- ①彼は本当のことを言っているかもしれない。
- ②彼が本当のことを言っていると信じて疑わない。

どちらにも解釈できるからです。

〜

**I think he IS telling the truth.** と、is の部分を強めることで、相手に②だと解釈してもらうことができますが、それよりももっと確実に効果的な言い回しがあります。

I'm not sure, but... という表現を文頭に加え、

**I'm not sure, but I think he's telling the truth.**

と言うと、「100%ではないけど、強く信じている」というニュアンスが出せます。

I'm not sure...「よくわからないが」と think「そう思う」は相反しているのにおかしい、と思われたかもしれませんが、この2つを並べると、



think が「固く信じている」というニュアンスになります。ネイティブは日常会話でこの言い回しを非常によく使っています。

なるほど!



## One More Hint

相手に 100% 自信を持って、自分の意見や考えを強く述べたいときは、I think... あるいは I believe... という言い回しは避けたほうがいいでしょう。

**I think we need to change the company name.**

「社名を変更したほうがいいのでは」

**We need to change the company name.**

▶ 「社名を変更すべきだ」

**I believe it'll work.**

「うまくいくと思いますよ」

**It'll work.**

▶ 「うまくいくだろう (はずだ)」

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
13

# I think this is the best plan.

この計画が一番じゃないかな。

# I think this is the best plan.

こちらのほうが一番だと思います。

# I think this is the best plan.

この計画が一番いいと思います。

# I think this is the best plan.

この計画は最高にいいよ。

## It is mine.

**勘違い** 「それは私のものです」

**本当は** 「それはオレのだ。盗むなよ！」

### その英語、怒っているように聞こえます

次の表現を見てください。さて、共通点がわかりますか？

**I am not interested.**

**It is mine.**

**You are not my teacher.**

**I do not want to go.**

**I can not do it.**

まさか!

なんと、これらはすべて怒ったときの言葉なのです。be 動詞や助動詞を短縮せずにフルスペルではっきり発音すると、語勢が強まり、なんだか怒っているような口ぶりになります。

### ネイティブの耳にはこう聞こえている!

**I am not interested.**

「うるさいな=興味はないよ!」

**It is mine.**

「それはオレのものだぞ=盗むなよ!」

**You are not my teacher.**

「あなたは私の先生じゃない=おせつかいやくな!」

**I do not want to go.**

「行きたくないんだつてば!」

**I can not do it.**

「できないって言ってるだろ!」

本当に?

上記の表現、例えば、**I can not do it.** を **I can't do it.** と省略すると語勢が弱まります。これで、ふつうに「それはできません」と断わる

ニュアンスに。ネイティブは発音を容易にするという目的だけでなく、語勢を弱めるためにフル・スペルでの発音を避けているのです。

そうだったの



**I'm not interested.**

「ちょっと興味はないです」

**It's mine.**

「それは私のものです」

**You're not my teacher.**

「あなたは私の先生ではないですよ」

**I don't want to go.**

「行きたくないな」

**I can't do it.**

「それはできませんよ」

さらに **Um...**、**uh...** などを加えれば、より語勢が弱まり、やんわりとした口ぶりになります。日本語の「う〜ん…、え〜と…」といったニュアンス。



**Um, I'm...uh...not interested.**

「う～ん… 私はあまり興味はないんですけど…」

**Um, It's...uh...mine.**

「あの～、それはその…私のです」

**Um, you're...uh...not my teacher.**

「でも、あなたは…その…私の先生ではないわけで…」

**Um, I...uh...don't want to go.**

「う～ん、私はその…行きたくないんですが…」

**Um, I...uh...can't do it.**

「う～ん…ちよつと私はできないんですよ」

へ～

ただし、いつもこのような曖昧な言い方をしていると、「優柔不断なヤツ」と思われてしまうのでほどほどに。

**PRACTICE**

イメ～字で聴き取りと発声練習

CD  
14

**I am not interested.**

うるさいな、興味はないよ!

**Um...I'm, uh...not interested.**

いやあ、ちよつと興味なくて。

**Um...I can't go.**

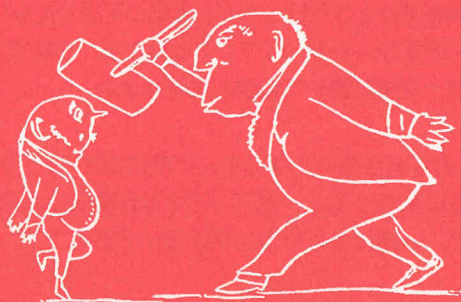
いやあ、ちよつと行けなくて。

**I'm, uh...going to be busy.**

そのう、実は忙しくて。

ネイティブ  
英語の **壁** 2 章

丁寧にしたつもりが  
失礼千万になる?!



## 1

## I can't do it.

勘違い 「それはできない」

本当は 「それはできない。わかったのか」

## 英語はどこを強く言うかで意味が変わる

本当に?

ネイティブ・スピーカーは、立腹しているときにしばしば各語をはつきりと区切って発音します。例えば、**I can'T go with you.** と、can't の最後でことさらはつきりと区切って言ったなら、「あんたなんかと行くもんですか。わかった?」となります。これでは誘いを断わる言葉としては、あまり適切ではありませんよね。

ca の部分を強め t はほとんど音に出さず、I [kyan] go with you. のように発音すると、若干ソフトな印象になります。日本語では、「悪いけど、一緒には行けないの」という感じです。

〜

ネイティブは、I can'T go. とは言わずに、I [kyan] go. と言っていることに驚きましたか? ネイティブが can't というとき、“t” の部分は弱くなるのではなく、ほぼ消えてしまいます。その代わりに c の後に「や」に近い音を加え、[きやん]と言っています。can というときは母音を落とし、[kn]ということもあります。[きやん] (= can't) と、[kn] (= can) ではかなり違いますから、t の音が聞こえなくてもネイティブはこの2つの区別に戸惑うことはないのです。

もうひとつ例を挙げます。

例えば、**I think that is too much.** を特に区切ったりしないで意識せずにサラリと発音すれば「それはちよつとやり過ぎじゃないか」という意味になります。では、このセンテンス中の that の最後ではつきり区切って発音するとどうなるでしょう。この場合は、「それはやり過ぎてことだ。わかったか」となり、より強い口ぶりになります。

## One More Hint

また相手に **Yes.**、**No.** と言うときも注意しましょう。はっきりと **Yes.**、**No.** と言うことは礼になつていないと思うかもしれませんが、これもネイティブには怒っていると誤解されることがあります。例を挙げてみましょう。

A : **Do you live in Japan?**

B : **Yes.**

A : 「日本に住んでるの?」

B : 「当然よ」(なんでそんなわかりきったことを聞くの?)

A : **Would you like to come with me?**

B : **No.**

A : 「一緒に来る?」

B : 「いやだね!」

印象をやわらげたいとき、ネイティブはよく **Yes** の代わりに **Yeah**、**No** の代わりに **Nah** と答えます。ネイティブと会話しているとこれらを頻繁に使っていることがわかります。

ここで取り上げたのはほんの一例に過ぎません。しかしたいていどんな言葉でもあなたがはっきりと区切って発音すれば、怒っているように聞こえます。はっきりと発音するより、むしろさらりと流れるように発音できるようにしてみましょう。あなたの英語がより丁寧に聞こえるようになります。

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
15

# I can't go with you.

一緒に行けないんだ。

# I can do it.

できますよ。

# I can't do it.

私にはできません。

# I can't do it.

できないって言ってんだろ!

2

●丁寧になつたつもりが失礼千万になる!?

## The Americans spend a lot of money on cars.

**勘違い** 「アメリカ人は車にお金をかける」

**本当は** 「我々と違って、アメリカ人ってのは車に金かけるからね」

### the が差別用語に?!

次の例文を見てください。

**A: The Americans spend a lot of money on cars.**

**B: Americans spend a lot of money on cars.**

まさか!

例文 A には “The” がついていて、B にはありません。“the” はとても不思議な語です。ネイティブに A と B の違いを尋ねても、おそらくほとんどの人が特に違いを意識してないでしょうし、文法にもさほど影響はないと言うでしょう。でも実は微妙に違うのです。例文のような場合アメリカ人なら、B を使い、A はほとんど使いません。

そうだったの



“The Americans” と言うとき、「我々と違ってアメリカ人は…」という心理が働きます。それに対し、“Americans” のほうは、「一般的なアメリカ人のほとんどが…」という心理状態なのです。“the” は、個人の違いは一切考慮せず、「アメリカ人という人種はこういうものだ」とひとまとめにしてしまっているのです。ですから、The Americans... という言い方は、多くのアメリカ人を怒らせてしまいます。

余計なトラブルを招かないためにも、ある人種やある国の人々の前に “the” を加えるのは控えたほうがいいでしょう。しかし特定のグループを指す場合など、文法上必要になる場合もありますが、その場合には差別的なニュアンスはありません。例えば、

**The Koreans in my class did well.** 「同じクラスの韓国人は勉強ができた」などと言う場合などです。

反対に特定の人を指さない場合、**The Koreans like hot food.** と言ってしまうと「韓国人てやつは辛い料理が好きだ」となってし



まうのです。

**Koreans like hot food.**「韓国人は辛い料理を好む」と言えば most のニュアンスになり、一般論を述べることになります。

また、必要以上に人種について口にするのもあまりスマートとは言えません。そんなときは **I met a man from England.**「英国人男性と会いました」、**She has a friend from Iran.**「彼女にはイラン人の友だちがいます」といった具合に国名を伝えるようにしましょう。

なるほど!



**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD

16

**Americans spend a lot of money on cars.**

アメリカ人の多くは車にたくさんお金をかける。

**The Japanese student passed the test.**

その日本人学生はテストに合格した。

**The American I met gave me a ride.**

出会ったアメリカ人が家まで車で送ってくれた。

**The family from China has two children.**

中国から来た家族は2人の子持ちだ。

## From now on, we'll be careful.

勘違い 「今後気をつけます」

本当は 「今までは適当だったけど、これからは気をつけます」

### 適当な奴と思われないために

まさか!

「これから（今後は）気をつけます」と言うとき、「これから」の部分を from now on としている例をよく見かけますが、実はこの表現も意外な含みを持っています。なんと、これが原因で喧嘩になった場面を見たことがあります。

私が通訳・翻訳者として自動車工場で働いていたころのこと。そこはアメリカの大手自動車メーカーに部品を供給している会社。あるとき、納品している部品の品質管理に問題が起き、担当の日本人が納品先のアメリカ人の責任者に、**From now on, we'll be careful.** と言ったのです。「これからは気をつけます」という謝罪のつもりだったのでしょ。ところが相手は表情を曇らせ、**You said you were being careful.** 「気をつけているといつも言っていたじゃないか?!」と怒りました。

なるほど!



from now on という表現には、「今までは適当だったが今後は～する」というニュアンスがあるのです。だからアメリカ人の責任者は「今までは適当に仕事していたのか!」と怒ったわけです。誤解される例を見ましょう。

#### **From now on, I'll be honest.**

「今までは不正直でしたが、今後は誠意を尽くします」

#### ▶ **From now on, I'll be more honest.**

「今後はより一層誠意を尽くします」

#### **From now on, please be on time.**

「これまで遅刻ばかりだったんだから、これからは遅れないで」

▶ **From now on, please try to always be on time.**

「これからは時間通りに来られるようにね」

日本人担当者がもし、

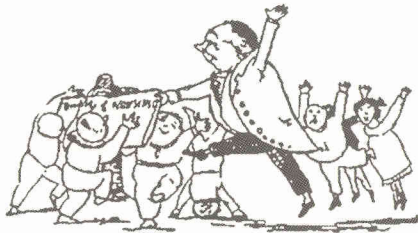
**We'll be more careful in the future.**

あるいは、

**Starting now, we'll be more careful.**

と言っていれば、相手は納得してくれたはずです。

そうだったの



**PRACTICE**

イメ～字で聴き取りと発声練習

CD  
17

**From now on, we'll be careful.**

これまでと違って、今後は気をつけます。

**From now on, I'll be honest.**

今までは不正直でしたが、今後は誠意を尽くします。

**Starting now, I'll be more honest.**

今後はより一層誠意を尽くします。

**I'll be more honest in the future.**

今後はより一層誠意を尽くします。

## Work harder.

**勘違い** 「がんばってください」

**本当は** 「もっと努力しろ！」

### 「がんばって」を直訳するとひどい目に…

私が自動車製造工場で働いていたころの話。

あるとき、アメリカ人の工員が油だらけになり、不備の修繕にあたっていました。その様子を見ていた日本人が「がんばって」と声をかけると、隣の日本人の通訳者がすかさず **Work harder.** と訳しました。

**まさか!**

次の瞬間、そのアメリカ人は激昂し、ツールを地面に叩きつけました。そして、What do you think I'm doing!? 「俺がどんな苦労をしていると思ってやがるんだ」と、大声でひと言。

彼が怒ったのも無理はありません。額に大汗流し、油まみれで車と格闘しているというのに、**Work harder.** 「もっと努力しろ」と言われたのですから。

あなたならこの状況で「がんばって」というひと言をどんな英語に直しますか？ 日本語の日常会話で毎日必ず耳にする「がんばって」「お先に」というフレーズ。

これらを英語で表現するのはとても難しいのですが、“がんばって” 英語におきかえてみようと思います。

**そうだったの**



私なら、「仕事、大変ですね。でもそんなに気張らないで」という思いを伝えるため、**Take it easy.** と声をかけます。誰かが骨の折れる仕事をしているとき、ネイティブはよく **Take it easy.** と声をかけ、相手の労をねぎらうのです。

先ほどの通訳者が **Take it easy.** と訳していたなら、工員に怒鳴ら

れることはなかったはず。それどころか、相手はにっこりと微笑み、Thanks。「どうも」と返していたでしょう。

次に、会社で先に帰宅するときの「お先に」というひと言を英語にしてみましよう。これは「申し訳ありませんが、先に帰ります」という、“詫びの気持ち”を含んだ典型的な日本語の言い回しです。実はこれも英語にすると、Take it easy. ですんでしまうのです。英語でも「先に帰って悪いけど、残って仕事をするんだからあまり気張らないで」という思いがこもっています。

なるほど!



英語って意外と使い回しがきく表現が多いと思いませんか。

**PRACTICE** イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
18

# Take it easy.

がんばってください。

# You're doing a good job.

ご苦労さまです。

# Thanks for your hard work.

ご苦労さまです。

# You really worked hard today.

今日はよくがんばってくれたね。

## Didn't I tell you to turn off the lights?

**勘違い** 「電気を消してと言いませんでしたか？」

**本当は** 「とっとと電気を消しやがれ！」

### 人を不愉快にしてしまう質問の仕方

まさか!

言葉には様々な使い方がありますが、相手を攻撃するのもそのひとつ。相手を妙な名で呼んだり、大声で怒鳴りつけるなど、色々な攻撃方法がありますが、相手に質問することで目的が達成できることもあります。

### Didn't I tell you to turn off the lights?

Didn't I tell you...? という形は、「言いませんでしたか？」と相手に聞いているのではなく、「私あなたに言わなかったっけ? = いや、言ったはずよ!」と、相手をなじるときの表現なのです。つまり、「電気を消してと言いませんでしたか？」と言っているのではなく、「電気を消せと言ったはずだ!」と攻撃していることになります。

そうだったの



**I told you to turn off the lights!** 「電気を消してと言ったでしょ!」と言われたら、無視することもできます。しかし Didn't I tell you...? のような質問の形で問われたら、無視するのは困難です。どうしても、Yes, you did. 「うん、確かに言ったよ」というような返答をせざるを得ません。そして答えた後には、まるで母親に叱られた子どものように、ばつの悪い思いをすることでしょう。

次の例も見てください。

### Don't you know how to use this printer?

「このプリンターの使い方も知らないの?」

この場合は、相手の無知や能力不足を攻撃するニュアンスがあります。

**Do you know how to use it?** と肯定の疑問文にすると、相手を攻撃するニュアンスや嫌味は含まず、「使い方知ってますか?」という

意味の単なる質問になります。

次のような質問の形の言葉も、相手を攻撃するニュアンスを含んでいます。

### Is something wrong with you?

「君、ちょっと頭おかしくない?」

### Do you ever use your head?

「おまえ、頭を使うことあるのか?」

### Don't you know anything?

「君、何も知らないの?」

これらの質問型の言葉は、特に答えを期待しているわけではなく、相手を見下すときに使います。なお、with you を使わない、

### Is something wrong?

は、「何か悩みでもあるの?」という思いやりのひと言になります。



上記のような言葉で相手を怒らせるようなことをした場合は謝罪したほうがよいでしょう。しかし相手がこう言うときは喧嘩も辞さないという場合が多いので、何も言わずにその場を立ち去るのが一番かもしれません。



## One More Hint

You で始まり次に形容詞がくる文は、相手を叱る、あるいは罵るとき言葉と違ってまず間違いないでしょう。この場合 You の部分を強く発音します。例えば、次のような具合です。

**YOU stupid idiot.**「この大バカ者！」

**YOU nut.**「おまえはバカだ」

**YOU lazy bum.**「この怠け者め」

\* bum = 役立たず

You の後の形容詞はどれもネガティブで、この you は「おまえ、この野郎、てめえ」といったニュアンスになります。

反対にポジティブな形容詞をつけ、**You nice person.** とか、**You hard worker/smart boy.** とすることはありません。これだとネイティブにはしっくりこないのです。

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
19

**Didn't I tell you to turn off the lights?**

電気を消してって言ったでしょ。

**Do you know how to use it?**

これの使い方がわかる？

**Is something wrong with you?**

君、ちょっと頭おかしくない？

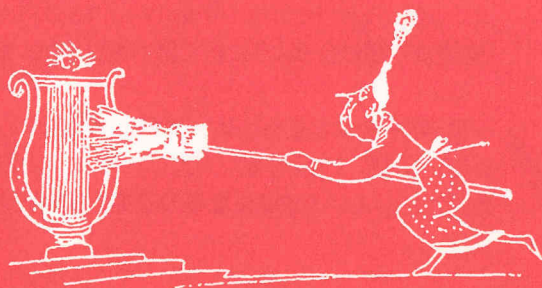
**Is something wrong?**

何か悩みでもあるんですか？



ネイティブ  
英語の **壁** 3 章

陥りやすい単語の誤解



## I tried to get to the airport in time.

**勘違い** 「空港に間に合うように努力したのよ」

**本当は** 「空港に間に合うように行こうとはしたけど、無理だったわ」

### try は実はネガティブな言葉 ?!

次の例文を見てください。

**I tried to get to the airport in time, but I couldn't.**

「空港まで間に合うように行く努力をしたが、無理だった」

本当に?

一見、何も変なところはない文章に見えます。しかし実は意味が重複しています。I tried to... で、「～しようと試みた / 努力したが、だめだった」という意味になるのです。したがって **but I couldn't.** は不要。

例えば、**I tried to study.** と言えば、「勉強しようとしたが、できなかった」ということです。

**I tried to make reservations.** なら、「予約を取ろうとしたが、だめだった」になります。

ですから例文を正しく直せば、

~

**I tried to get to the airport in time.** 「間に合うように空港に着くよう努力しましたが、だめでした」になります。

間に合ったのなら、**I managed to get to the airport in time.**

「空港には時間までに行くことができた」と言います。

ところで、try はあまりポジティブな言葉ではありません。例えば、誰かが、

**Can you come at 7:00?** 「7時に来られる?」と聞いたとします。あなたがもし **I'll try.** と返答したなら、「がんばってみます / 努力します」という意味ではなく、「まあ無理だろうけど、一応やってみますよ」と聞こえるのです。

でも次のように返答すれば、前向きな気持ちを示すことができます。

**I'll do my best.**

「がんばります」

**That shouldn't be a problem.**

「問題ないでしょう」

**I will if I can.**

「可能であればそうします」

## One More Hint

次の例文を見てください。

**I tried going to the airport.**

**I tried to go to the airport.**

なるほど!



どちらも「空港に行こうとしたけどだめだった」と考えるでしょう。しかし両者はかなり違います。どちらも「努力したものの失敗した」という点は変わりありませんが、最初の例文の try ~ ing は、「ために（実際に）～してみる（しかし問題の解決には至らなかった）」、2番目の try to... は「～しようとする（しかしだめだった）」という意味です。ですからそれぞれ、

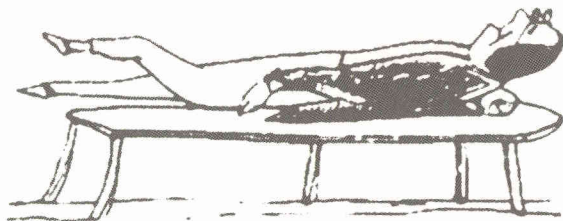
**I tried going to the airport.**

「空港に行くことを試してはみたが（問題の解決には至らなかった）」

**I tried to go to the airport.**

「空港に行こうとした（しかし行くことができなかった）」

となります。1番目は、空港に行つてはみたが、待ち合わせの相手には会えなかった」というような場合で使われます。



**I tried taking vitamin C.**

「ビタミン C を試した (が風邪は治らなかった)」

**I tried walking to work.**

「会社まで歩いてみた (が痩せなかった)」

**I tried finding a job.**

「仕事を見つけた (がそれでも彼女は私のことを好きにならなかった)」

上の例文を try to... の形にすると意味が変わってしまいます。

そうだったの



**I tried to take vitamin C.**

「ビタミン C を飲もうとした (けどすばくて飲めなかった)」

**I tried to walk to work.**

「会社まで歩こうとした (けどつらくて無理でした)」

**I tried to find a job.**

「仕事を見つけようとした (が就職できませんでした)」

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
20

**I tried to get to the airport in time.**

空港まで間に合うように行こうとした (でも無理だった)。

**I managed to get to the airport in time.**

なんとか時間通りに空港に着くことができた。

**I tried to make reservations.**

予約をしようとした (でもだめだった)。

**I'll do my best.**

がんばります。

# I bought some apple.

**勘違い** 「いくつかのリンゴを買った」

**本当は** 「すっげ〜立派なリンゴを買ったぜ」

## some って本当はすごいのです!

私は一度日本人の大学教授と英文法について口論になったことがあります。彼はこう言いました。「**I bought some apple.** というのは正しい。なぜならリンゴジュースやアイスなどと同様、some apple はリンゴ味を指すこともあるから」

しかし私はこう反論しました。

「その文は間違っています。**I bought apple ice cream.** あるいは **I bought apple juice.** と言うことはあつても、英語を母国語とする人間は決して I bought some apple. とは言いません」。

本当に?

こう言った後で私は重大な間違いに、はたと気づきました。ネイティブも、I bought some apple. と言うことがあるのです。

I bought some apples. のように、数えられる名詞に “some” がつく場合、「いくつか」という意味になることはご存知でしょう。

**I bought some sugar.** のように、数えられない名詞につく場合は、「いくらか」という意味です。

ところがこの “some” には「すごい」という、隠された意味があるのです。ネイティブが、I bought some apple. などと言った場合、何かとてつもなく美味、あるいは巨大であるとか、通常とは異なる、“すごいリンゴ” を意味します。またこの some は、ポジティブなことだけでなく、ネガティブなことにも使われます。

まさか!

例えば、**You're some friend.** と言う場合、

- ①あなたは本当にすごい (特別な) 友人だ。
- ②あなたはとんでもない (悪い) 友人だ。

と2通りの解釈ができます。文脈や、相手の表情で判断しましょう。



特に②の「とんでもない」「ひどく悪い」という意味で **some** を用いる場合、ネイティブはしばしば **soome** (サーム) と伸ばして発音します。このポイントはおさえておきましょう。

次の例をごらんください。

### **I had some day.**

①今日は最高の1日だった。

### **I had <sup>サーム</sup>some day.**

②今日は最悪の1日だった。

### **This is some weather.**

①今日は本当に素晴らしい天気だ。

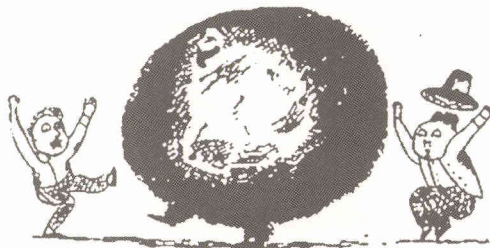
### **This is <sup>サーム</sup>some weather.**

②今日は最悪の天気だ。

そうだったの



正確に言うと、**some** の後には、**wonderful** (素晴らしい)、**terrible** (ひどい)、**incredible** (信じられない) などの形容詞がつくのですが、それらがついていなくても、ネイティブは文脈から理解しています。



## One More Hint

最近、ある日本人の学生の論文をチェックする機会がありました。文章中に“some”が使われていたのですが、私は“several”に変更しました。その学生に両者の違いの説明を求められましたが、それについて説明している文献を見たことがないし、自分も考えたことがなかったので、「このほうがより知的に聞こえるから」とだけ説明しておきました。

しかし改めて考えてみると、それには理由があることがわかります。ネイティブは、対象がそれほど重要なものではないときに some を用い、それ以上説明することを避けます。some には、これ以上詳しく話したくないというニュアンスがあるのです。

例えば誰かが、**I bought some book.** と言った場合、相手はおそらく本のタイトルさえ口にしないでしょう。しかし **I bought several books.** と言う場合は、本のタイトルだけでなく、内容についても触れるでしょう。

ですから論文で大事なものを詳しく説明するときは some ではなく、several のほうがよい選択といえます。

3

● 陥りやすい単語の誤解 ●

PRACTICE

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
21

# I bought some sugar.

砂糖を買いました。

# We had some party.

とんでもないパーティを開いたよ。

# That was some day.

最高の日だった。

# This is some weather.

素晴らしい天気だね。

# I fell down and I was so ashamed.

勘違い

「転んじゃって恥ずかしかったわ」

本当は

「私としたことが転ぶなんて、ああ、自分が情けない」

## embarrassed と ashamed は 恥ずかしさの種類が違う

- ① I was so embarrassed.
- ② I was so ashamed.

何かにつまづいて転んだとき、あなたなら①と②のどちらを使いますか？ 正解は①。I'm so embarrassed. と言えば、「(つまづいて)かっこ悪いところを見られて恥ずかしい〜」というニュアンスになります。でも I'm so ashamed. と言ったら、どうでしょう？ こちらは、「なんてことをしてしまったんだ！ 反省しなければ」という大きなニュアンスになるので、たかがつまづいて転んだくらいで、なぜそんなに真剣にとらえているんだろう？と周りは不思議に思うでしょう。

embarrassed や ashamed はどうも日本人には区別しにくい語のようですが、ネイティブには両者の違いがはっきりしています。embarrassed は、あなたにふりかかった恥ずかしいできごとを誰かが見ていたときに使います。誰も見ていなかったら、あなたが恥をかくことはありませんから、embarrassed とは言いません。それに対し ashamed のほうは、あなた自身が自分を恥じるときに使います。他人が見ていたかどうかはあまり問題ではありません。

なるほど！



もうひとつ例を挙げます。あなたが誰かにうそをつき、相手にばれたとしましょう。このとき、I'm so ashamed. と言うと、「自分のしたことを恥じて反省する」というニュアンスになります。I'm so embarrassed. なら、「ばつの悪い思いをする」というニュアンスです。しかしこちらは、「人前」でうそがばれてしまったというシチュエーションで使われます。



## One More Hint

恥をかいたとき、日本語でよく「穴があれば入りたい」と言いますが、この表現は英語でも同じです。直訳で **If there were a hole, I'd want to crawl into it.** でも通じますが、他にも色々な表現方法があります。

まさか!

If there were a hole big enough, I'd climb in it.

I wish I could climb into a hole.

I'm now looking for a hole to climb into.

Are there any holes around here big enough for me to climb into?

「入る」は通常、「登る」という意味で知られる “climb” を使って表現します。

PRACTICE

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
22

He embarrassed me in front of everyone.

みんなの前で彼に恥をかかされた。

I'm ashamed of my sister for lying.

妹がうそをつくなんて情けない。

She embarrassed herself at work.

彼女は職場で赤っ恥をかいた。

I'm so embarrassed.

ああ、恥ずかしかった。

## Taro Suzuki drowned.

勘違い 「鈴木太郎さんが溺れた」

本当は 「鈴木太郎さんが溺死した」

### “drowned” だったらもう手遅れ!

私は以前、東京のあるテレビ局で夕方のニュースの翻訳を担当していたことがあります。原稿をもらったら、すぐに訳さなければならなかったので、大変苦労しました。当時の日本語はまだつたなく、すべてが手書きだったため、失敗も1度や2度ではありませんでした。ときには、日本語で聞いている人と英語で聞いている人では、内容が全く違う、なんてこともありました。今でも覚えているとんでもない失敗例があります。

まさか!

「鈴木太郎さんが溺れて…」という箇所を、

### Taro Suzuki drowned.

と英訳してしまったのです。これでは「溺死した」という意味になってしまいます。言ってしまうから気づいたのですが、急いでいたので訂正する時間はありませんでした。本当は **Taro Suzuki almost drowned.** と言うべきだったのです。



鈴木さんの家族が英語の放送を聞いていなかったことを祈るばかりです。

そうだったの



「海で溺れた」と誰かに話しているときは、当然話者はまだ生きています。「溺死した」と言っているのに、生きてるのはなぜ？」とネイティブに変な顔をさせないように、溺れただけのときは“almost drowned”になると覚えておきましょう。

**I almost drowned in the ocean last year.**

「去年海で溺れかけたんだよ」

PRACTICE

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
23

**Taro Suzuki drowned last year.**

鈴木太郎さんは去年溺死しました。

**A child almost drowned in the river.**

1人の子どもが川で溺れそうになりました。

**I thought you had drowned.**

溺れちゃったかと思った。

**She's drowning in debt.**

彼女は借金でアップアップだ。

## That was smart.

勘違い 「賢かったね」

本当は 「まぬけ！」

### smart ass (賢いお尻) ってなんだ？

一見さほどネガティブではなくとも、辛らつなニュアンスを持つ語があります。smart もそのひとつです。大変ポジティブな外来語としてそのまま日本語の中に溶け込んでいますが、ネイティブの耳にはいつもポジティブに聞こえるとは限りません。

本当に？

例えば、**You're smart.** というひと言は、「あなたは自慢ばかりして威張っている」という意味にもなるのです。また smart が形容詞として使われるときは、ほぼネガティブな言葉になります。

いくつか例を見てみましょう。

#### **You're a smart ass.**

「あなたは賢いお尻だ」 = 「おまえは生意気だ」

#### **Don't get smart.**

「生意気言うな」

#### **He's a smarty pants.**

「あいつは生意気だ」

#### **Don't be a smart alec(k).**

「賢いアレクサンドラになるな」 = 「偉そうなやつだ」

\* alec(k) は、Alexandra の愛称。一般名詞化しているため、smart alec(k) という形で用いるときは通常小文字で綴る。

なるほど！



また、皮肉としてもよく使われます。例えばあなたが何か失敗をし、相手に **That was smart.** と言われても、「賢明なことだ」ということではなく、「何やってるんだ=まぬけ」という意味になるのです。

**Smart move.**

「あ～あ、やってしまった」

**You're so smart.**

「しょうがない(まぬけな) やつだなあ」

なるほど!



面白いことに **smart** の部分を、同じような意味を持つ **intelligent** に置き換えると、皮肉になることはありません。

**That was intelligent.**

「賢明だ」

**Intelligent move.**

「賢明なやり方だ」

**You're so intelligent.**

「君は本当に頭がいいなあ」

**One More Hint**

**smart** は動詞としても使え、この場合、「傷がうずく」「ズキズキ痛む」「薬がしみる」など、ほとんどネガティブな意味になります。

**The wound smarts.**

「傷がずきずきする」

**Does this smart?**

「これ(=この薬) しみる?」

**PRACTICE**

イメ～字で聴き取りと発声練習

CD  
24**Are you trying to be smart?**

それ、自慢?

**He's always a smarty pants.**

あいつはいつも威張ってる。

**You're so intelligent.**

君は本当に頭がいいなあ。

## You're not my boss.

**勘違い** 「あなたは私の上司ではありません」

**本当は** 「余計なお世話！」

### boss という語に対するあなたの印象は？



この言葉をブランド名に冠した飲料もあるぐらいですから、日本人は boss という語に対して一般的にポジティブな印象を持っているのではないのでしょうか。「頼りがいがある」「タフでたくましい」というイメージがあるのだと思います。

しかしネイティブ感覚では、ちょっと違います。例えば自分の「上司」を紹介するときは boss ではなく、**This is my supervisor.** と言って紹介します。あまり会社での地位を持ち出さないアメリカ人は、**This is John, John Smith. We work together.** 「一緒に働いています」などと言って、名前だけで紹介することもあります。

**そうだったの**



ネイティブにとって boss という語は、抑圧的で押しが強いという印象があり、多くの人が boss と呼ばれることをあまり好みません。また boss を含んだ表現はネガティブなものが多いのです。

### You're not my boss.

「あなたは私の上司ではない」＝「余計なお世話だ」

### Who died and made you boss?

「誰が死んで、あなたを上司に据えたのだ？」＝「どうして君の指図を受けなきゃいけないんだ？」

bossy という形容詞もあります。これも「威張り散らす」「親分風を吹かす」と極めてネガティブな意味を持っています。

## One More Hint

まさか!

boss と似たような意味を持つ語に honcho、あるいは head honcho という語があります。語源はなんと、日本語の「班長」なのです。第2次世界大戦後に英語の中に入っていったと言われています。

honcho も、「小さな権力を振り回して他人をこき使う人」といったネガティブな印象を与える語です。



3

● 陥りやすい単語の誤解 ●

PRACTICE

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
25

# my boss is a big bully.

うちの上司は偉そうで嫌なやつなんだよ。

# Stop acting like the boss.

偉そうにするな。

# His wife is bossy.

彼の奥さんは彼をアゴで使ってるって。

# You're not my boss.

余計なお世話だ。

# I hardly think so.

**勘違い** 「強くそう思う」

**本当は** 「そうは思えない」

## 字幕訳者までも混乱させる hardly

そうだったの



ある映画を見ていたとき、役者の1人が言った **I hardly think so.** というセリフが、字幕では「絶対にそう思う」となっていました。訳を担当した方は **hard** (固い / 強力な) の副詞と勘違いしたのでしょうか。これはまったく逆で、正しくは「絶対にそう思わない」となります。**hardly** は、「ほとんど～しない」という意味です。

**This computer hardly works.**

「このコンピュータはほとんど動かない」

**I hardly agree.**

「まったく賛成しかねます」

**That's hardly true.**

「そんなことはありません」

**He's hardly my friend.**

「彼が友だちだなんて、とんでもない」

**I hardly know him.**

「彼のことはほとんど知りません」

**I can hardly hear you.**

「ちっとも聞こえません」

なるほど!



「絶対に～だ」「よく～している」と言うときは以下の例のようになります。

**This computer works great.**

「このコンピュータはよく動く」

**I fully agree.**

「大いに賛成です」

**That's really true.**

「本当にそうですね」



**He's my close friend.**

「彼は親友ですよ」

**I know him well.**

「彼とは深いつき合いです」

**I can hear you well.**

「よく聞こえます」

ちなみに「絶対にそう思う」と言いたいなら、**I really think so.** というような表現を使います。


 そうだったの
**One More Hint**

ネイティブはこの **hardly** を使って、**Are you working hard or hardly working?** と、挨拶代わりに声をかけることがあります。

この場合、「一所懸命仕事をしてるのか、それともさぼっているのか」と文句を言っているのではなく、ユーモアたっぷりに「調子はどうだい?」と尋ねているのです。

こんなフレーズが使えるようになれば、ネイティブ英語にまた1歩近づいたという気がしませんか。

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
26**I hardly think so.**

そうは思えないな。

**I hardly think it's going to SNOW in July.**

7月に雪が降るなんてありえない。

**I've hardly slept at all.**

ぜんぜん寝てないよ。

**I can hardly hear you.**

ほとんど聞こえないよ。

# I want you to respect me.

**勘違い** 「私を尊敬してほしい」

**本当は** 「私を人として同等に扱ってほしい」

## 「尊敬」と respect とのギャップ

私は辞書には限界があると考えています。辞書を引くたび、そこに記されている解説だけでは足りないな、と思ってしまうのです。

例えば、「尊敬」という語を国語辞典で引くと、“相手の行為や業績などを、すぐれたものと認めうやまうこと”とありますが、ほとんどの和英辞典には respect が訳語として当てはめられています。

本当に?

日本語で「私を尊敬してほしい」などと言うと尊大に聞こえますね。それは国語辞書の解説にもあるように、「私は尊敬に値するのだから、敬意を払ってほしい」というニュアンスがあるからでしょう。

しかし英語で、**I want you to respect me.** と言っても、「私を尊敬してほしい」ということではないのです。この場合、「あなたと同じ人間として扱ってほしい、人間以下の扱いはやめてほしい」という意味になるのです。

そうだったの



こんなエピソードがあります。アメリカ人の友人が、日本でアパートの入居を断られ、理由を尋ねたところ、彼が単に「外国人である」ということだったそうです。悔しさのあまり、幾度も心の中で、**I want you to respect me.** と繰り返したそうですが、英語で抗議すればますます大家が彼を邪険に扱うと思い、じつとがまんしたそうです。

これがきっかけで友人は、日本人から距離を置くようになってしまい、次の引っ越し先が見つかるまで悶々と過ごしていた様子をよく覚えています。その不動産屋が全ての日本人を代表しているわけではない、と考えられるようになるまで、かなり長い時間を要したそうです。

彼と同様の経験を持つ中国人の青年と出会った際も、同様に **All I**

**expect is respect as a human being.**「人として同等に扱ってほしいだけだよ」と言っていました。

なるほど!



このように、英語で **respect** という場合、たいてい「同じ人間同士、ただ互いに同等に扱ってほしい」という意味です。しかし残念ながら、「尊敬」と **respect** とのギャップについて補足説明がなされた和英・英和辞書はあまり見かけたことがありません。両者のギャップが理解できれば、コミュニケーションはもっとスムーズにいくはずですよ。

## One More Hint

書き言葉、または話し言葉で、**Respecting the budget, it will have to be reconsidered.** というフレーズをよく見かけます。この **respect** は「尊敬」ではなく、「～に関しては」という意味です。似た意味の言い回しには次のようなものがあります。

With regards to...  
Regarding...  
As for...  
Concerning...

ただ、このようなもつたいぶつた言い方を避け、

**The budget will have to be reconsidered.**

と言ってしまったほうが印象としては良くなる場合が多いですね。

**PRACTICE**

イメ～字で聴き取りと発声練習

CD  
27

# I want some respect.

もっと同等に扱ってほしい。

# We need to respect her.

彼女を1人の人間として認めなければ。

# I lost all my respect for him.

彼はまったくの期待外れだったよ。

3

● 陥りやすい単語の誤解 ●

## The alarm went off.

**勘違い** 「目ざましのアラームが止まった」

**本当は** 「目ざましのアラームが鳴った」

### go off は意外と複雑…



私の生徒たちが「イディオム(熟語)は難しい」とこぼすのを耳にします。彼らが第一に挙げるのが、「意味がいくつもあつて全部覚えるのが大変だから」という点です。

イディオムには複数の異なる意味を持つものだけでなく、文脈によってはまったく反対の意味になるものすらあります。

今回はその中でも特に生徒に“不評”の go off に焦点をあててみます。次の例を見てください。

- ① **The gun went off.**
- ② **The rocket went off.**
- ③ **We heard a bomb go off.**

そうだったの



この3つはどれも「爆発する、発射する」という意味です。しかし単に爆発するのではなく、ネイティブは「突然爆発する、いきなり何かが発射される」というイメージを持っています。

ですから順に、

- ① 「突然、銃が暴発した」
- ② 「いきなりロケット弾が発射された」
- ③ 「突如、爆弾が爆裂するのが聞こえた」

となります。

それでは次の例はどんな意味になるでしょうか。

**The alarm went off.**

**The light went off.**

この2つの例文は、互いに反対の意味を持っています。最初の例文は（目覚まし時計が鳴った）という意味です。2番目は（電気が消えた）という意味になります。

**go off and + 動詞**

の形もよく使われます。

なるほど!



**Don't go off and start screaming.**

「いきなりどなるのはやめてほしい」

**She went off and told everyone.**

「いきなりみんなに言ってしまった」

**They might go off and get married.**

「あの2人はいきなり結婚するかも」

## One More Hint

英語は面白いもので、当たり前に使っている単語にも意外な意味があつたりします。

● 反対の意味のようで実は同じ意味になるイディオム

**The house burned up.**

「家は全焼した」

**The house burned down.**

「家は全焼した」

「燃え上がって」も「焼け落ちて」も、結果はどちらも「全焼」です。

**Could you fill in this form?**

「この用紙にご記入願えますか？」

**Could you fill out this form?**

「この用紙にご記入願えますか？」

inでも outでも、「空欄を記入する」ことに変わりはありません。

●同じ語を使っている意味が反対になるもの

The lights are out.

「電気が消える」

The stars are out.

「星が出る」

なるほど!



He clipped the photographs.

「写真をくつつけた」

He clipped his nails.

「爪を切った」

Could you overlook this problem ?

「この問題は見逃してくれませんか？」

Could you overlook this situation ?

「この状況について詳しく調べてくれませんか？」

●主語によって意味が変化するもの

I'm suspicious.

「私は怪しいと思っている」

He's suspicious.

「彼は怪しい」

**PRACTICE**

イメ～字で聴き取りと発声練習

CD  
28

**my alarm clock didn't go off.**

目覚ましは鳴らなかった。

**The lights in this town go off at nine.**

この街では9時に電気が消えます。

**Why did the alarm go off?**

どうしてアラームが鳴ったの？

**She went off and told everyone.**

彼女はいきなりみんなに話してしまった。

# Let's play on Sunday.

**勘違い** 「日曜にどこかへ遊びに行こう」

**本当は** 「日曜に、お遊びちまちよ」

## play はお子ちゃま言葉？

日本語の「遊ぶ」という言葉は、大人も子どもも様々な状況で使えますが、英語では大人が play という語を使うのは、スポーツや楽器を弾くときにほぼ限定されます。それ以外の状況で使われるととても子どもっぽく聞こえてしまいます。例えば、次の表現は子どもだけが使います。

まさか!

### Let's play on Sunday.

「土曜日に遊ば」

### Can I play at your house tomorrow?

「明日、君んちで遊んでもいい?」

### I want to go play today.

「今日は外で遊びたいな」

### Do you want to play with us?

「一緒に遊ぼうか?」

そうだったの



最近アメリカでヒットした “Desperate Housewives” という番組の中で、“play date” という言葉が使われていました。これは子どものいる親が別の親子の家に子どもたちを連れて行き、面倒を見てもらっている間、自分たちは子どもたちから解放されて自由な時間が持てるという意味です。

では大人が「遊ぼう」と言うときはどんな言葉を使えばいいのでしょうか? ネイティブの大人は次のような表現を使います。

**Let's do something tomorrow.**

「明日はどこか遊びに行こう」

**Let's go to a hot spring.**

「温泉に行こう」

**Come by anytime.**

「今度、遊びに来てください」



## One More Hint

面白いなぞなぞをひとつ。以下の2つの文の違いは何でしょうか？

**Let's do some things tomorrow.**

**Let's do something tomorrow.**

“some things” は、やろうとしていることが決まっていて、そのリストがあるように聞こえます。それに対して “something” のほうは、単に「何かしよう」という意味になります。

これに似た例を取り上げてみます。

● **any way** 「どの道、やり方、方法」 **anyway** 「とにかく」

**Is there any way to do it?**

「これをするのに、何か方法がある？」

**Anyway, I'd better go.**

「とにかく、もう行かないと」

● **any time** 「少しの時間」 **anytime** 「いつでも」

**I don't have any time today.**

「今日は少しも時間がない」

**Please come anytime.**

「いつでも来てください」

● **any one** 「どれでも1つ」 **anyone** 「誰でも」

**You can use any one of these lines.**

「どの電車に乗ってもいいよ」

**You can ask anyone.**

「誰に聞いてもいいです」



● some way「どれかの道」 someway「なんとか」

**We need to find some way to get home.**

「家にたどりつく道をどれか見つけないと」

**I'll call him someway.**

「なんとか彼に電話する」

● some thing「何かある物」 something「何か」

**There's some thing crawling up your leg.**

「何か脚を這い上がっているものがあるよ」

**There's something on your leg.**

「脚に何かついてるよ」

● some time「いくらかの時間」 sometime「いつか」

**Will you have some time next week?**

「来週ちょっと時間ある？」

**Let's do it sometime next week.**

「来週いつかやろう」

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
29

**Let's let the children play outside.**

子どもたちを外で遊ばせましょう。

**I always play baseball on weekends.**

週末は野球をします。

**stop playing around and do your homework.**

遊んでいないで宿題しなさい。

**Let's do something tomorrow.**

明日はどこかへ遊びに行こう。

## problem と issue、深刻なのはどっち？

私は生徒からよく、「problem, issue, matter はどれも“問題”という意味ですよね？何か違いがあるんですか？」という質問を受けます。

表面的にはこの3者はどれも同じに見えます。例えば、**This is a serious problem.** という文では、issue でも matter でもかまいません。ほとんどのネイティブはどれを入れても自然だと言うでしょう。

しかしネイティブはこの3語の違いを理解しており、無意識のうちに使い分けています。

簡単に言えば、problem は「誰もが悪いと思えること」を指します。犯罪は誰の目にも問題であることは明らかですから、ネイティブは **Crime is a serious problem.** 「犯罪は問題だ」と言います。

issue は、善悪問わず「みんなが関心を寄せること」を話題にするときに使います。例えば、**How to reduce crime is a serious issue.** 「犯罪を減らすにはどうしたらよいか？」という具合。**How to reduce crime is a serious problem.** とは言いません。

matter は、「批判や議論の対象となるもの」を指します。例えば、勤めている会社の社長が問題を起こし、その去就が注目されているという場合、ネイティブは、**Our CEO's resignation is a matter of time.** 「社長の退任 / 辞任は時間の問題だ」と言います。

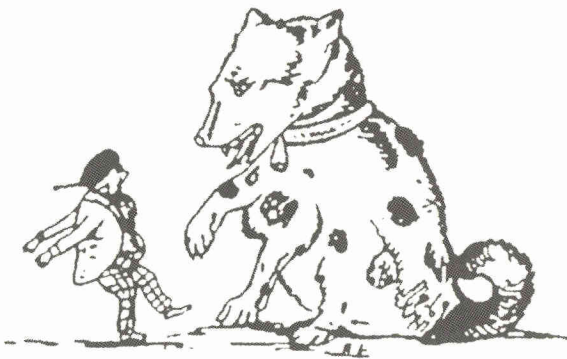
また、problem には日本人があまり知らない用法があります。例えば、ネイティブが、**What's your problem?** と言うときは「あ

「あなたの問題は何ですか?」と尋ねているわけではありません。「なんか文句あるのか?」と、喧嘩を売っているのです。これは、**What is your problem with me?**「私のどこに問題があるのだ?」という文章を短縮したものです。

相手からこう言われたら、**Nothing.**「いや、何もない」と言って引き下がったほうがいいでしょう。

また「精神的な問題」というときに、そのまま英語に置き換えて **mental issues** にすると、「頭がおかしい」という意味になってしまいます。例えば、**He has mental issues.** と言えば、「あいつはちょっと頭が変だ」ということに。

「精神的な問題がある」と述べるとき、ネイティブは **He has issues.** と言います。**mental** はつける必要はありません。**He has some issues.** と言う人もいますが、これで「精神的な問題が大きい」という意味になります。



## approximately ならズレはごくわずか

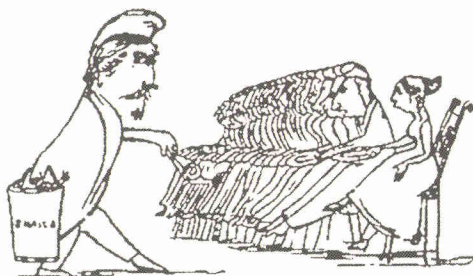
some, approximately, about、この3つは日本の辞書ではどれも「だいたい、およそ」という意味を持つと説明されています。でもネイティブは3者の間に明確な違いを感じていて、「正確に近くズレは少し」なら **approximately**、「だいたい、およそ」であれば **about**、そして「おおまかに」というときは **some** を選びます。個人差はありますが、ネイティブの感覚を数字で表してみました。「だいたい 300 人ぐらい出席した」という場合で見てください。

**Approximately 300 people attended.** (+ 5 人)

**About 300 people attended.** (+ 30 人)

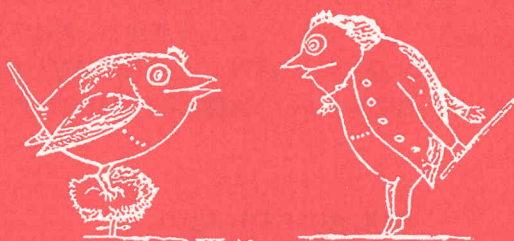
**Some 300 people attended.** (+ 50 人)

しかし **some** は比較的大人数のときにしか使いません。**Some seven people attended.**「だいたい7人ぐらい出席した」とは言わないのです。注意してください。



ネイティブ  
英語の **壁** 4 章

学校英語の落とし穴



# You'd better not touch that.

**勘違い** 「それには触らないほうがいいですよ」

**本当は** 「てめえ、それに触ったらただじゃおかねえ！」

## 教科書英語が脅し文句に！

～

### You'd better not touch that.

という英文、あなたならどんな日本語にしますか？「それは触らないほうがいいよ」と訳しますか？ 実はこれ、ネイティブには“脅し文句”に聞こえるのです。「もし触れでもしたら、ただじゃおかないぞ=ぶん殴るぞ」という物騒なひと言なのです。次の例文も同様です。

### You'd better be on time.

「時間通りに来ないとクビだ」

### You'd better take off your shoes.

「靴を脱がないと怒るぞ」

### You'd better leave now.

「今出て行ったほうが身のためだ」

ただし、明らかにアドバイスだとわかっている状況なら、You'd better... という言い方をしても余計な含みがあるようには聞こえませんが、例えば、以下のような文であれば問題なしです。

### You'd better go to the hospital.

「病院へ行ったほうがいいですよ」

### You'd better leave early.

「早退したほうがいいですよ」

### You'd better take an umbrella.

「傘を持って行ったほうがいいですよ」

まさか！

誤解による余計なトラブルを避けたいなら、頭に Maybe を付けて、Maybe you'd better... という言い回しを使いましょう。どのような状況でも、こう言っておけば、とげとげしい印象はなくなります。

**Maybe you'd better be on time.**

「時間通りに来たほうがいいんじゃない？」

**Maybe you'd better take off your shoes.**

「靴は脱いだほうがいいですよ」

**Maybe you'd better leave now.**

「今は、出て行ったほうがいいんじゃないかな」

なるほど!



強く提案するつもりで You'd better... と言っていることが、はっきり相手にわかる場合は、Maybe を付けなくてもいいかもしれませんが、軽く提案するなら How about ... を使ったほうが無難かもしれません。

**How about we meet on monday.**

「月曜日に会いませんか？」

I'd better... / She'd better... / We'd better... などと言っても、相手を脅すニュアンスはありません。You'd better... と言うときだけ「脅し文句」になるのです。

**PRACTICE**

イメ～字で聴き取りと発声練習

CD  
30**You'd better be on time.**

時間通りに来ないとクビだ。

**Maybe you'd better talk to him.**

彼と話をしたほうがいいんじゃない。

**Maybe you'd better not.**

やめておいたほうがいいと思うよ。

**Maybe you'd better think about it.**

考えてみたらどう。

## The report was so interesting.

**勘違い** 「そのレポートは実に興味深いものでした」

**本当は** 「そのレポート、すげえ〜おもしろかったよ！」

### so は大げさに語るときにどうぞ

本当に?

so + 形容詞 = 「とても〜」という意味だと思っていませんか？ 実際には、そんなに単純なものではありません。実はこの言い回し、もつと長い文の省略形とも言えるのです。

例えば、上の文なら、

**The report was so interesting that I couldn't put it down.** 「レポートがもうとにかくおもしろくて、読み出したら止まらなかった」や、**The report was so interesting that I read it 100 times!** 「レポートがすげえおもしろくて 100 回も読んだよ」といった文を短くした形と言えます。

ネイティブは何かを特に強調するときや、わざと大げさにものを言うときに、この so...that~ という言い回しをよく使います。お腹が空いたときに使う **I'm so hungry I could eat a horse.** という、なんとも大げさな決まり文句もあります。

that 以下を省略するのはまったく問題ありませんが、省略しても大げさなニュアンスはそのまま残ります。そうとは知らずに so... という表現を使ってしまうと、ネイティブには妙に大げさに聞こえて、不自然に響くことがあります。

**The new part was so delicate.**

「その新しい部品、すげえ壊れやすくてまいつちゃつてさ」

**The shipping expenses are so high.**

「送料がとんでもないぐらい高くてさ」

なるほど!



このような場合は、次のように言い換えれば、大げさなニュアンスがなくなり自然な言い方になります。



**The new part was extremely delicate.**

「その新しい部品は本当に壊れやすいよ」

**The shipping expenses are quite high.**

「送料がかなり高くて」

本当に?

## One More Hint

「かなり疲れていたの寝た」という日本語を英語にしてみましょう。

**I was so tired that I went to sleep.**

のような英文にした方がいるでしょうか？

「かなり疲れていたの寝た」と言う場合、ネイティブなら、

**I was tired, so I went to sleep.**

と言うでしょう。ネイティブは、so...that~ という形を、普段では考えられないような極端な状況のとき以外はあまり使わないのです。

PRACTICE

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
31

**I was so tired I fell asleep at work.**

疲れちゃって、仕事中に寝そうになったよ。

**She was so hungry she ate a whole melon.**

腹ぺこすぎて彼女はメロンをまるごと食べた。

**The price is quite low.**

値段はかなり安いよ。

**Yesterday was so hot.**

昨日は本当に暑かったね。

## A father looked for his son's lost dog.

**勘違い** 「父親は、息子のいなくなった犬を探した」

**本当は** 「どこかの父親が、息子の迷子犬を探したのである」

### 英語はシンプル・イズ・ベスト!

「父は息子のいなくなった犬を探した」という日本語を英訳してみてください。

#### A father looked for his son's lost dog.

とした方もいるでしょう。



ネイティブはこの文章をどこも直したりはしないでしょうし、特に文法の誤りも見当たりません。しかしネイティブなら、こう述べることはないでしょう。

a father の部分は日本語にすれば、「世界のどこかにいる1人のお父さんが」となってしまいます。なんだかとても不自然ですね。

それでは“父” はどのような語で表せば自然でしょうか？

A father looked for his son's lost dog. という文の his son's dog から、犬を探しているのは誰だか容易に想像がつかます。ですから“父” にこだわらず、He と置き換え、**He looked for his son's lost dog.** とすればいいのです。

**本当に?**

さらに厳密に言うなら、“いなくなったから犬を探している” わけですから、lost dog (いなくなった犬) の lost は重複します。単に、

#### **He looked for his son's dog.**

でじゅうぶんです。

ネイティブの英語に近づくには、日本語思考を捨て、英語のロジックで文章を作ることが大切です。文法や語彙にばかりこだわっていると、自然な英語はいつまでたっても身につけません。

## One More Hint

「あのデパートなら欲しい靴があるだろうと当たりをつけて行ってみたが、見つからなかった」という場合について考えてみましょう。

教科書的な英語なら、

I went to that department store thinking that they would have the shoes I wanted, but I couldn't find them.

というような文章になるでしょうか。こちらの文も同様に、間違いではありません。しかしネイティブがこのように表現することはないでしょう。ネイティブなら、

**That department store didn't have my shoes.**

ですませてしまうでしょう。

もしそのデパートの近くにいたのなら、そちらを指差して、they (彼ら=あそこの店) の1語ですみます。

**They didn't have my shoes.** 「あの店には欲しい靴がなかった」

### PRACTICE

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
32

# He looked for his son's dog.

父は息子のいなくなった犬を探した。

# Fathers are important.

父親は重要な存在です。

# Dogs make good friends.

犬は最良の友になれます。

# They didn't have my shoes.

あの店には欲しい靴がなかった。

# I will go to Hawaii.

**勘違い** 「ハワイへ行くつもりでいます」

**本当は** 「なんとしてもハワイへ行く！」

## I will と I'll は別物

多くの人は「I will と I'll にそれほど違いはない」と思うかもしれませんが、ネイティブは状況によってまったく違う使い方をしています。あることに関して強い気持ちを抱いている、あるいは何かをすると決めているときなど、特に強調したいときに I will... を用います。例えば、

**I will go to Hawaii.** という表現の適切な使い方を例に挙げてみます。

**A: You can't go to Hawaii!**

**B: I will go to Hawaii. You can't stop me!**

A: 「ハワイには行けっこないつて！」

B: 「ハワイには絶対行く。止めても無駄だ！」

なるほど!



**I will go to Hawaii.**

は、「何があってもハワイに行くのだ」と、断固として言い張っているような口ぶりになります。

それに対して I'll は「今決めた未来のこと」を述べるときに使います。

**I'll go to Hawaii.** は、「ハワイに行くって今決めた」というニュアンスに。他にも例を挙げてみます。

**I'll have the spaghetti.**

「それではスパゲティにしよう」

**I will have the spaghetti.**

「絶対にスパゲティを食べるんだ」

**I'll close the door.**

「ドアは閉めることにするよ」

**I will close the door.**

「ドアを必ず閉めるよ」

それでは普通に「ハワイに行くことになっている」と言いたいときはどのように表現すればいいのでしょうか？

### **I'm going to go to Hawaii.**

とえばいいのです。未来に何かを行う予定だと言うときに通常ネイティブが用いるのはこの表現です。

他の例も見ておきましょう。

そうだったの



### **George will go shopping.**

「ジョージは絶対買物に行くよ」

### **George is going to go shopping.**

「ジョージは買物に行く予定だ」

### **I'm going to do my best.**

「がんばってみようかな」

### **I will do my best.**

「絶対がんばる！」

**PRACTICE**

イメ～字で聴き取りと発声練習

CD  
33

## **I will finish on time.**

時間通りに絶対に終わらせてやる！

## **I'll look in the refrigerator.**

冷蔵庫の中を見ってみるよ。

## **I'm going to cook dinner.**

夕食を作るよ。

## **I will do my best.**

絶対がんばるよ！

## May I look at your newspaper?

**勘違い** 「新聞を見せてもらってもよろしいですか？」

**本当は** 「新聞を見せてよ」

### May I...? と言って許可を求めるのは子どもだけ

学校の教科書で次のような例文をよく見かけます。

A: **May I look at your newspaper?**

B: **Yes, you may.**

**本当に?**

これは「～してもよろしいですか？」と、許可を求めるときの表現だと教えられたと思います。

文法上はどれも間違いはありませんが、私は実生活の中でこのような会話は久しく交わしたことがありません。最後にこのようなやりとりをしたのは、10歳ぐらいのときだったでしょうか…。

**まさか!**

May I...? と言って許可を求めるのは、たいてい子どもが大人に対してです。大人がちょっとした頼み事で、May I...? を使うと、子どもがおそろおそろ許可を求めているように聞こえてしまうので、やや不自然。

大人は一般的には次のような形で許可を求めます。

● 少し丁寧

**(Do you) Mind if I...?**

「～してもかまいませんか？」

**(Do you) Mind if I leave early?**

「早退してもかまいませんか？」

**(Do you) Mind if I have a bite?**

「ちょっと味見しても（食べてても）いいですか？」

## ● 丁寧

**Could I...?**

「～してもいいですか?」

なるほど!

**Could I go a few minutes early?**

「ちょっと早めに出てもいいですか?」

**Could I use your desk?**

「あなたの机を使ってもいいですか?」

## ● 最も丁寧

**Would it be all right if I...?**

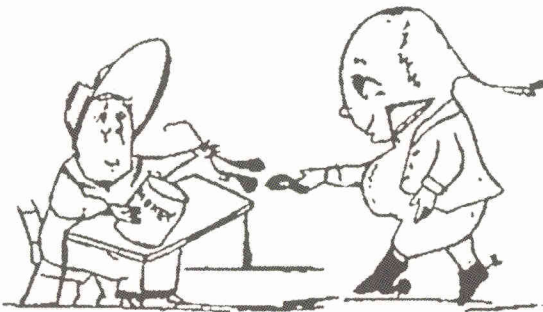
「～してもよろしいですか?」

**Would it be all right if I try?**

「ちょっと試しても / やってみても / 食べてもよろしいですか?」

**Would it be all right if I use your phone?**

「電話をお借りしてもよろしいですか?」



## 大人が May I...? を使うとき

しかし、レストランなどでは大人も May I...? を用い、給仕に対して、**May I have a cup of coffee?** などと言います。しかしこれは許可を求めているのではなく、「コーヒーをいただけますか?」（＝コーヒーを持ってきてください）と、丁寧に依頼をしているのです。

### May we have our check now?

「会計伝票をお願いします」

### May I have a non-smoking table?

「禁煙席をお願いします」

なるほど!



ちょっとしたお願いごとで May I...? と言って許可を求めるのは、子どもっぽく聞こえてしまうことがあるので気をつけましょう。

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
34

# May we have our coffee after the meal?

コーヒーは食後にしていただけますか?

# May I have a non-smoking table?

禁煙席をお願いします。

# Could I have a room with a view?

眺めの良い部屋にしてください。

# Would it be all right to wait here?

こちらで待たせていただいてもいいですか?



## Why were you late?

勘違い 「どうして遅れたの？」

本当は 「なんで遅れたんだよ！」

### Why...? Because... は喧嘩の前兆

次のような会話を聞けば、喧嘩の前兆かもしれません。

A: **Why did you...?**

B: **Because...**

A: 「どうして～したんだ？」

B: 「だって、～だったから…」

一方が **Why...?** と尋ねて、もう一方が **Because...** で答えたときは、たいてい喧嘩になります。しばしば **Why...?** には相手を非難し攻撃するニュアンスがあるのです。例えば次のような感じです。

まさか!

#### **Why is this book on my desk?**

「なんでこの本が僕の机の上にあるんだ？」

#### **Why were you late?**

「なんで遅れたんだよ？」

#### **Why didn't you call me?**

「なんで電話してくれなかったんだ？（電話してくれたらよかったのに…）」

この言葉に対し相手が **Because...** で答えたなら、会話が喧嘩に発展する可能性大。まさに、「ああ言えば、こう言う」状態ですね。

#### **Because you need to read it.**

「だって、読まなきゃならないだろ」

#### **Because I was busy.**

「だって、忙しかったんだ」

#### **Because I didn't want to.**

「（電話を）かけたくなかったからだよ」

博物館などで係員に質問するような場合に Why...? と尋ねるのであればまったく問題ありません。このような状況で相手が Because... と返答することはまずないですよ。

**A: Why is this painting so small?**

**B: It was made for a postcard.**

A:「どうしてこの絵はこんなに小さいんですか?」

B:「はがき用なんです」

もし係員が、**Because it was made for a postcard.** と返答したなら、「はがき用に描いたからだよ。見ればわかるでしょう」と言っていることになります。これはちよつと考えられませぬ。

なるほど!



理由を尋ねるときネイティブは、相手を非難する Why...? ではなく、How come...? という形を無意識に使っています。こちらも非難するニュアンスがまったくないわけではありませんが、親しみがありややソフトな印象です。答えるときも Because... ではなく、'cause... と、Be の部分を落とすと、少しソフトになります。あるいは Because... を使わずに返答してもいいでしょう。

**You need to read it.**

「だって、読まなきゃならないでしょ」

**I was busy.**

「だって、忙しかったんだもん」

**I didn't want to.**

「(電話を) かけたくなかったんだ」





## One More Hint

理由を尋ねられているわけでもないのに、Because... をつけて返答するのはとても不自然なので、むやみやたらと使うのは避けるべきでしょう。本来 “because” という単語は、論理やものごとの筋道を導き出すときに使う語。「どうしてか」という日本語が最も英語に近い訳といえます。

例えば、

**I left early because I had to go to the dentist's.**

「早く帰りました。どうしてか」というと歯医者に行かなければならなかったからです」

訳してみると不自然さがよくわかりますね。「歯医者に行くので、早く帰った」と言いたいときは、

**I had to go to the dentist's, so I left early.**

あるいは、

**I left early to go to the dentist's.**

と言うのが自然です。

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
35

# why were you late?

なんで遅れたんだよ?

# why did you lie to me?

どうしてウソなんてついたのさ?

# why didn't you come?

どうして来てくれなかったのよ?

# You said that to her?

なんで彼女にそんなこと言ったの?

## For example.

勘違い 「例えば」

本当は 「例を挙げて説明するならば…」

### For example を使い過ぎると嫌われる？

へ～

ネイティブはほとんど使わないのに、日本人が口ぐせのようによく使う語句があります。そのひとつが for example... というフレーズ。言いたいことはわからなくもないのですが、ネイティブからすると、できればやめてほしい話し方なのです。

日本語では、「例えば…」と言って話を始めたり、話題を変えたり、例を挙げたりします。様々な場面で使えるのでとても重宝します。しかしネイティブは、論文、スピーチ、報告書などで、何か論理的な説明するときにはしか for example... とは言わないので、「例えば…」のつもりで for example を使うとやや堅苦しく感じることもあるのです。

×よくない例

**This problem can be solved in several ways. For example, we could put another inspector at the end of the production line.**

「この問題の処理にあたってはいくつかの方法が考えられる。例えば、生産ラインの端に検査官をもう1人加える、ということも可能だろう」

**If, for example, the meeting were held on Friday, our costs would be lower.**

「仮に…例えばの話だが…金曜日に会議を開いていたなら、経費をもっと低く抑えることができただろう」

どちらも、for example があるために、くどく聞こえます。特に2番目の例文では If...were...could... という構文が既に「仮の話 / 例えの話」を意味しているので、いちいち for example などと言う必要はないですね。

そうだったの



## ● 適切な例

**This problem can be solved in several ways. We could put another inspector at the end of the production line.**

**If the meeting were held on Friday, our costs would be lower.**

また、未来の出来事やまさにこれからしようとしていることを話題にする場合はどうでしょうか。

## ×よくない例

**I went to a lot of places. For example, Paris, London, Rome, etc.**

「いろんな所に行ったんだよ。例えば、パリ、ロンドン、ローマとかね」

この例文には2つの問題点があります。第一にカジュアルな会話なのに、for example を加えたため大きめに聞こえるということ。第二に、for example... に etc. を加えると意味が重複するということです。日本語では、「例えば～など…」などと言ってもさほど不自然さを感じませんが、英語では続けて用いるのは印象がよくありません。



それでも、何か「例えば」にあたる語を入れないとすつきりしない、というときは、他の表現を使います。特に会話では以下の例文のほうが自然に聞こえます。

## ● 適切な例

〈like〉

**I went to places like Paris, London and Rome.**

「例えば、パリ、ロンドン、ローマとか、いろんな所に行ったよ」

**She wanted to go to places like museums and art exhibits.**

「彼女は、例えば博物館や美術館などに行きたがっていた」

**I don't like meat like hearts and gizzards.**

「肉でも例えば心臓とか臓物なんかはいやだな」

〈...and that kind of thing〉

**He likes basketball, soccer, karate, and that kind of thing.**

「例えば、バスケ、サッカー、空手などが好きみたい」

**We need desks, tables, chairs, and that kind of thing.**

「机、テーブル、椅子とか、例えばそういうものがあるね」

**She has magazines about movie stars and fashion and that kind of thing.**

「例えば、映画スターやファッション関連の雑誌を持っているらしいよ」

〈...and some other...〉

**I went to Paris, London, Rome and some other places.**

「例えば、パリ、ロンドン、ローマなんかに行ったよ」

**I bought some desks, tables, chairs, and some other things.**

「例えば、机、テーブル、椅子なんかを買った」

**We talked to Bill, Mike, and some others.**

「例えば、ビル、マイクといった連中に話した」

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

**CD  
36**

# we COULD ask George.

例えばジョージに頼むとか。

# I went to places like Paris, London and Rome.

例えば、パリ、ロンドン、ローマとかいろいろな所に行きました。

# We need desks, tables, chairs, and that kind of thing.

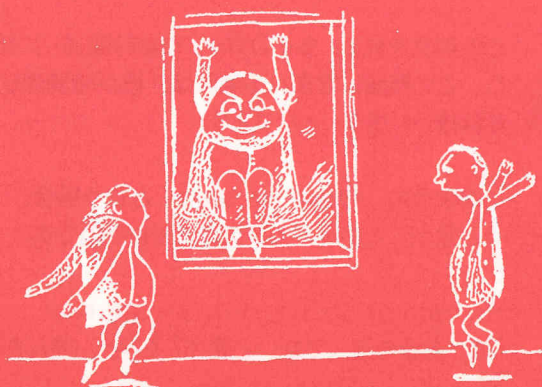
例えば、机にテーブル、椅子などが必要ですね。

# I know Bill, Mike, and some others.

例えば、ビル、マイクといった連中は知ってます。

ネイティブ  
英語の壁 5 章

知らずに使うと赤っ恥  
隠れた意味を持つ表現



# He said he finished on time.

**勘違い** 「彼は時間通りに終わらせたと言った」

**本当は** 「あいつ、結局時間通りにはできなかったんだよ」

## He said ににじむ疑惑の思い

He said he finished on time.



この英文を見て、多くの方が「彼は時間通りに終わった」と訳すでしょう。この英語に含まれる意味は、「彼が時間通りに終わったと言ったが、私は違うと思う」となります。

このように、会話で He said... という場合、「彼は～と言ったが、(違うと思う)」というニュアンスが加わるのです。

**He said he didn't steal the money.**

「彼、お金を盗んでないと言ってるけど、盗んだんだろうね」

**She said she loves you.**

「彼女、君のことが好きだと言ったけど、違うかもね」

**They said they'll call me back.**

「電話をかけ返してくれると言ったのに、全然電話がこない」

常にこのように解釈されるわけではありませんが、このニュアンスが感じられる場合が多いのです。“said” の部分を強めると、さらに疑惑の念が増します。

**そうだったの**



では、単に「～と言った」という場合はどんな表現を使うのでしょうか？ ネイティブはよく said ではなく、He says... と言います。過去の話題に触れていても says を使うのです。said だと、疑惑の思いがにじんでしまうため、区別するために says を使っているのです。

**He says he didn't steal the money.**

「お金を盗んでないと言っているし、私も盗んでいないと思う」



## She says she loves you.

「彼女は君のことが好きだって言っているし、信じたらいいと思う」

## They say they'll call me back.

「電話をかけ返してくれると言ったし、電話を待ちます」

まさか!

これは手紙や文書ではそれほど気にすることはありませんが、会話では注意してください。さもないと、「うそをついている」と、相手を非難しているように聞こえてしまう場合があります。

## One More Hint

go は「行く」という意味だと誰もが知っていると思いますが、ネイティブはよく次のように使っています。

I gave her some roses, and she goes, "Did you cheat on me?"

この場合の she goes とはどんな意味でしょうか？ 実はこれで「彼女はこう言った」という意味になります。軽く「彼女ったらこうきたよ」といったカジュアルなニュアンス。

Then I said I was going to quit, and he goes, "I'll double your salary."

「で、私が辞めるって言ったら、彼、『給料を2倍にする』ときた」

The bird landed right on my head, and I go, "Get it off! Get it off!"

「鳥がちょうど私の頭に止まったので、『あっち行け!』つてどなったの」

会話では go は「行く」という意味だけではないことも覚えておいてくださいね。

**PRACTICE**

イメ～字で聴き取りと発声練習

CD  
37

# He said he finished on time.

彼は時間までに終わったって言ってるけど、無理だったようだね。

# she said she loved you.

彼女、君のことが好きだって言ったけど、違うようだね。

# she says she loves you.

彼女はあなたのことを愛してるって言ってるし、信じたらいいと思う。

5

● 知らずに使うと赤っ恥隠れた意味を持つ表現 ●

# I don't care.

**勘違い** 「どちらでもかまいません」

**本当は** 「どっちだってどうでもいいよ」

## 関係をだめにするフレーズ

まさか!

私が社会学の勉強をしているときに使っていた教科書に、日本人女性とアメリカ人の男性のカップルの話が載っていました。あるとき男性は、女性に映画に行きたいか、それともボーリングをしに行きたいかと尋ねました。女性が、どちらでもかまわないと答えたところ、男性はこの返答に対して腹を立てました。なぜならこの女性の返答が男性とのつき合いに興味を持っていないように聞こえたからです。その結果、互いに惹かれているのに、2人は別れてしまったのです。

その教科書では、何かを決めるとき欧米の男性が女性にもっと積極的に加わってほしいと思っているのに対し、日本人女性は他人任せで、相手に従うのを好むと説明していました。

改めてこの話について考えると、教科書の著者は何か誤解をしていたように思えます。もしかしたら日本人の女性は英語で、

### I don't care.

というような言葉を使ったのではないのでしょうか。これだと「どっちだってたいして違わないのだから、どうでもいいわよ」と聞こえてしまうので、男性が怒るのも無理はありません。

もし女性が、

### Either is fine with me.

と答えていたなら、相手はポジティブな返答として解釈していたでしょう。こちらは「どっちも楽しそうだから、どちらでもいいわね」という意味なので、2人の交際は続き、もしかしたら結婚していたかもしれません。

I don't care. という言葉にはとてもネガティブな響きがあります。

興味がないと言っているのと同じで、しばしば喧嘩になったときに投げやりに使う言葉なのです。

「どちらでもかまわない」と言いたいときは、I don't care. という言葉は使わないようにしましょう。

使うとすれば、こんな状況で使います。

なるほど!



A: **I'm leaving you.**

B: **I don't care. We're finished!**

A: 「別れるわ」

B: 「かまうもんか。俺たちはもう終わりだ!」

また **It doesn't matter.** という言葉もあまりポジティブとは言えません。こちらも「どちらでもかまわない」というより、「どっちだっていいで変わりはない」と投げやりに聞こえます。

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
38

**I don't care.**

どうでもいいよ、そんなこと。

**I don't care what you do.**

勝手にすれば!

**Either is fine with me.**

どちらでもかまいませんよ。

**It doesn't matter.**

どっちだって変わりはないね。

5

● 知らずに使うと赤っ恥隠れた意味を持つ表現 ●

## He said something about you.

**勘違い** 「彼があなたについて何か言ってたなあ」

**本当は** 「あいつ、おまえの悪口言ってたぜ」

### 知らずに使うと相手が激怒しちゃうかも?!

なんでもないように見えて、実は裏に別の意味を持つ言葉があります。例えば **He said something about you.** とコソコソ言われたとしましょう。「彼は君について何か言っていた」ということですが、状況によってはこれはネガティブな言葉にもなるのです。この場合、something は something bad を指し、**He said "something bad" about you.** 「(何か悪いこと) を言っていたよ」という意味になってしまうのです。

まさか!

**For some reason, he left early.** というひと言は、たいてい「理由はわからないが、彼は早退した」と解釈します。しかし実は some の後には "evil" (よからぬこと) のようなネガティブな言葉が含まれています。実際は、「どうも怪しいが」という疑いのニュアンスなのです。悪いことを遠まわしに言う傾向は日本語でも同じですね。裏の意味があるその他の例も挙げておきます。

a relationship は、ただの関係ではなく、「肉体関係」。

**He had a relationship with her.**

= **He had a sexual relationship with her.** (肉体関係を持った)

exchange words は言葉の交換ではなく、「喧嘩する」。

**They exchanged words.**

= **They exchanged angry words.** (口喧嘩した)

behavior は行儀ではなく、「行儀が悪い」。

**What do you think of his behavior?**

= **What do you think of his bad behavior?** (行儀の悪さをどう思う?)

attitude は態度ではなく、「悪態」。

**He has an attitude.**

= **He has a bad attitude.** (態度が悪い)

なるほど!



また良いことを暗示するえん曲表現もあります。

did a lot of things は、あることをたくさんしたのではなく、「良いことをたくさんした」ということ。

**He did a lot of things.**

= **He did a lot of good things.** 「良いことをたくさんした」

## One More Hint

ネイティブは相手に何か提案したいときに、Say... と切り出すことがあります。おそらく、I have something to say. 「ちょっと言いたいことがあるんだ」というような言葉が短縮されたものでしょう。この場合、「…と言いなさい」という意味ではなく、「あのね…」程度の意味になります。

Say, why don't we go swimming?

「あのさあ、みんなで泳ぎに行かない?」

Say, maybe we should finish up early today.

「ねえ、今日は早く終わりにしようよ」

Say, there's a new restaurant near here.

「あのね、この辺りに新しいレストランがあるの」

5

● 知らずに使くと赤っ恥隠れた意味を持つ表現 ●

PRACTICE

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
39

**He said something about you.**

あいつが君の悪口言っていたよ。

**He had a relationship with her.**

彼と彼女はつき合っていたんだよ。

**He has an attitude.**

あいつは態度が悪いよ。

# I'm satisfied with your work.

**勘違い** 「あなたの仕事には大満足です」

**本当は** 「まあ、君の仕事はこの程度だろう」

## ネイティブは **satisfied** では満足できない!

まさか!

車の製造工場で翻訳者として勤務していたときのことです。

ある日本人の責任者が部下に向かって、**I'm satisfied with your work.** と言っているのを耳にしました。彼は部下に喜んでもらおうとして仕事ぶりをほめたつもりだったようでしたが、言われた当人はあまりうれしそうではありません。それもそのはず、彼の選んだ言葉がまずかったのです。「君の仕事には満足している」ではなく、「君の仕事はまあこんなもんだらうと納得した」と聞こえたからです。

**I'm satisfied.** は「満足している」ではなく、「納得した」とやや妥協のニュアンスが含まれる場合が多いのです。

### **I'm satisfied that this is the best policy.**

「これが最良の手段だと納得した」

### **I think your presentation satisfied him.**

「君のプレゼンで彼は納得したことだろう」

### **That's interesting, but I'm not satisfied.**

「面白いね、でも納得いかないな」

例文でおわかりのように、**satisfied** だけでは「満足している」どころか、「それほど満足しているわけではない」ときに使うのです。

「満足している」ことを伝えるには、通常副詞を加えて以下のように表現します。

そうだったの



### **I'm really satisfied.**

「満足している」

**I'm fully satisfied.**

「実に満足している」

**I couldn't be more satisfied.**

「これ以上ないくらい満足している」

I'm satisfied. とだけ言われると、ネイティブは無意識に「なぜ really や fully をつけないんだろう?」と思ってしまい、相手から批判されていると感じてしまうのです。

これは、satisfactory という形容詞についても同じことが言えます。日本語ではしばしば「十分な、申し分のない」というポジティブな訳がつけられますが、**Your work is satisfactory.** と言ったら、「君の仕事は大してよくない」、「君の仕事はぎりぎり合格ってところだ」というニュアンスになるのです。

仕事をほめようと思うなら、

なるほど!



**Your work is more than satisfactory.**

**Your work is excellent.**

などと言うといいですね。

**PRACTICE**

イメ～字で聴き取りと発声練習

CD  
40

**I'm really satisfied.**

満足しています。

**I'm fully satisfied.**

実に満足している。

**I couldn't be more satisfied.**

これ以上ないくらい満足している。

**Your work is excellent.**

すばらしい仕事ぶりだ。

## And where did you put the book?

**勘違い** 「それと、本はどこに置いてくれたの？」

**本当は** 「で、本はどこに置いたわけ?!」

### 問いつめるつもりはなかったのに…

少し前に、ある日本人が私にこう言いました。

#### And where did you put the book?

なぜかわかりませんが、私はちょっぴり焦ってしまいました。後日、客観的に会話を聞いていて、And...? という形は相手を非難するときを使うんだ、と思い当たりました。And...? には、「それじゃ～というわけ?」という、問いつめるようなニュアンスがあるのです。

実際、私の母などはよくこう言っていました。

#### And where are you going?

「それでどこに行くつもり?」

そうだったの



この言葉は単に「どこへ行くのか?」と尋ねているのではなく、「いったいどこに行くつもりなの?」という意味です。つまり間接的に「行くな」と言っているのです。





## One More Hint

~

相手が本音を言っていないな、と思うときは、ひと言 And? と聞き返すことができます。これには、「他にもっと言うべきことがあるでしょう?」という意味が含まれています。相手があなたに隠し事をしているときなどに使える表現です。

A: John called me yesterday.

B: And?

A: He said he had something to tell me.

B: And?

A: He said he wants to marry me!

B: Ha! I thought that's how he'd do it!

A: 「ジョンが昨日電話してきたの」

B: 「それで? (=他にも話すことがあるでしょう?)」

A: 「言いたいことがあるって」

B: 「で?」

A: 「彼ったら、私と結婚したいって!」

B: 「やっぱり! そうくると思ったわ!」

5

● 知らずに使うと赤っ恥 隠れた意味を持つ表現 ●

PRACTICE

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
41

# And where did you put the book?

それで、本をどこに置いたわけ?

# And why did you open the door?

何でドアを開けたの? =開けたらだめじゃないか!

# And where did you go?

それでどこに行ったの? =怪しいよ!

# And how much cake did you eat?

それでケーキはいくつ食べたの? =ケーキをたくさん食べたでしょう!

## What's next?

勘違い 「次はなんですか？」

本当は 「最悪だ！」

### What's next? は怒りを表すひと言?!

初級の英会話クラスを教えていたときのこと。

私が教室にその生徒を招き入れると、彼女は浮かない表情をしながら席に着きました。最初の課題を終え、次の課題に取りかかろうとしたところ、彼女は、

#### What's next?

と言ったのです。

私は「いったい何を怒っているんだろう？」と思いましたが、そのままレッスンを続けました。

レッスンを終えてから、何があつたのか事情を尋ねました。すると彼女は、浮かない表情をしていたのは朝から少々具合が悪かつただけで、What's next? と言ったのは、単純に「次のレッスンはなんですか？」と尋ねただけ、と説明してくれました。

そこで私は、What's next? の持つ意味やニュアンスについて教えてあげました。

What's next? は直訳すれば「次はなんですか？」ということですが、実際の会話ではネイティブの耳には「これ以上悪いことはない」「最悪だ」と文句を言っているように聞こえるのです。

例を挙げてみましょう。

A: **Your car broke down.**

B: **Oh no!**

A: Oh, and I'm afraid your dog is sick.

B: What's next?

A: 君の車が壊れた。

B: 何だって!

A: ああ、それから君の犬も病気みたいだよ。

B: 最悪!

なるほど!



会話では、What + 1語のフレーズは、ネガティブなシチュエーションで使うことが多くなります。あなたが立腹している、あるいはイライラしている、という印象を与えてしまうかもしれないので気をつけましょう。

Practice で確認してください。

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
42

# what happened?

どうしたって言うんだ?

# what then?

だめだったらどうだと言うんだ?

# what for?

なんでそんなことしなきゃならないんだ?

# what's next?

最悪!

5

● 知らずに使うと赤っ恥隠れた意味を持つ表現 ●

## Would you like a drink?

**勘違い** 「飲み物はいかがですか？」

**本当は** 「お酒でもいかがですか？」

### Would you like a drink? は 成人だけに許されるセリフ

日本では元旦はおとそで祝い、年末は忘年会で酒を飲みます。またビジネスにおいては、“17時以降のつき合い”が重要とよく言われています。ですから、「飲酒は日本の文化の一部になっている」と述べても、異論を唱える人はいないでしょう。

しかしこれは他国にはそのまま当てはまりません。例えばアメリカでは酒をめぐって絶えず議論が交わされています。アメリカには酒の製造および販売を、国を挙げて全面的に禁じたという歴史がありますし、その名残で今でも酒の販売を禁じている地域が少なくありません。

本当に?

“酒は悪”と考え、**Lips that touch alcohol shall never touch mine.**「酒に触れた唇は、私に触れさせはしない」と言つて、酒を飲む人と交際することすら避ける人々もいます。

あなたが誰かの家を訪れたときに、

#### Would you like a drink?

と聞かれることがあるかもしれません。「飲み物はいかがですか？」と尋ねているのですが、この場合の“飲み物”とは「酒」を指します。

他の人が酒を飲んでも、自分は飲まない、あるいは飲みたくないという場合は、**Sure, tea would be nice.**「ええ、お茶（紅茶）をいただきます」と答えておけばよいでしょう。

最初から **Would you like some alcohol?** とかなんとか、もつとわかりやすく尋ねればよいではないか、と思われるかもしれません。しかしネイティブがそのような表現を使うことはほとんどないのです。お酒ではない飲み物なら、**Would you like a drink?** ではなく、

**Would you like something to drink?** と尋ねます。  
ネイティブは特に意識せずに、この2つを使い分けています。

なるほど!



## One More Hint

その他のお酒に関する裏の意味を持つ文を見てみましょう。

### Let's get a drink.

表の意味: 「どこかで飲み物を買きましょう」

裏の意味: 「どこかで〈酒を〉飲もう」

### She likes to drink.

表の意味: 「彼女は飲むのが好き」

裏の意味: 「彼女はアル中」

### Drinking is dangerous.

表の意味: 「飲むのは危険」

裏の意味: 「酒は危険」

### What's your poison?

表の意味: 「あなたの毒は?」

裏の意味: 「好きなお酒はなんですか?」

5

● 知らずに使うと赤っ恥隠れた意味を持つ表現 ●

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
43

# would you like a drink?

お酒でもいかが?

# Let's get a drink.

お酒を買ってこよう。

# she likes to drink.

彼女はアル中だ。

# I expect you to come.

勘違い 「来るのを待ってるわ」

本当は 「絶対来いよ！」

## I expect you... は「期待」ではなく「強制」?!

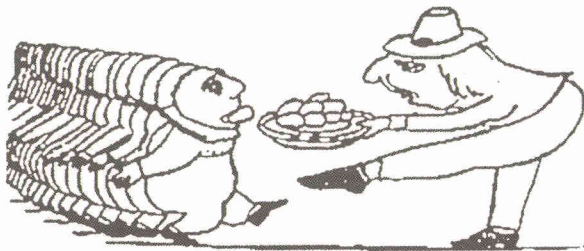
「パーティを開く予定なんだ」と、ある日本人の友人が言いました。彼は日程と場所を告げ、最後に、

**I expect you to come.**

とつけ加えたので私はかなりびびってしまいました。なぜなら「絶対来いよ!!」と脅されたように聞こえたからです。後で考え直すと、「来てくれるよう期待していますよ」と言いたかったのだらうと思いました。

ネイティブなら、怒って相手に強制するとき以外、I expect you to... とは言わないということを、知らなかったのでしょうか。

まさか!



例えば、遅刻常習犯の部下に対して上司が、

### I expect you to come on time.

と言う場合はこれにあたります。怒った上司が部下をにらみつけ、「定刻までに出社するように。わかったか」という場面が目に見えられます。

また子どもがうそをついたことに腹を立てたとき、ネイティブの大人は、

### I expect you to tell the truth.

と言うでしょう。「本当のことを言うように、いいね」と、子どもをジロリとにらみ、言い聞かせる感じです。

また expect を過去の形にすると、「期待」から「失望」に変化することも覚えておいてください。

### I expected flowers.

と言ったら、「花を期待していました」ではなく、「花をくれると思ったのに大はずれ」という意味になります。

## PRACTICE

イメ～字で聴き取りと発声練習

CD  
44

# I expected you to help me.

あなたが助けてくれると思っていたのに、何もしてくれなかったね。

# I expected this to happen.

やっぱりこうなった＝このような最悪の事態になった。

# I expect you to come.

絶対来いよ！

# I expected flowers.

花をくれると思っていたのに。

## You always forget.

勘違い 「いつも忘れませぬ」

本当は 「忘れ物ばかりして、いい加減にしてよ」

### You('re) always... は辛らつな非難の言葉

本当に?

恥ずかしい話ですが、私はよく忘れ物をします。英語のレッスンに必要なものをつい忘れてしまうのです。といっても、ビルの階上あるいは階下へ取りに行くだけなので、時間にすれば1分もかかりません。

授業のスケジュールがビッシリ詰まっているから、などといいわけるのは心苦しいのですが、休憩時間も取れずに立て続けに授業をしていると、よくそういうことが起こります。

先日もうっかりしてしまい、忘れ物を取りに行こうとすると、ある生徒がこう言いました。

#### You always forget.

軽い気持ちで「先生って、いつも忘れるんですね」と言いたかったのでしょう。しかし私は少々シュンとしてしまいました。私の耳には、「しょうがないな。忘れてばかりじゃないか」という、きつい非難の言葉に聞こえたからです。

〜

You('re) always... の後ろに、ネガティブな意味の動詞あるいは形容詞がつくと、「あなたはいつも忘れてる」ではなく、「君はいつだって〜だ。困ったものだな」というとても辛らつなニュアンスになるのです。例を見てみましょう。

#### You're always making mistakes.

「まったく、おまえはいつも失敗ばかりだな」



**You're always telling lies.**

「おまえはいつもウソばかりつくじゃないか」

また「いつも～しない」と批判するときは、You don't always...ではなく、You never...という形になります。

**You're never on time.**

「まったく、おまえは時間通りに来たことがないな」

You always...も You never...も、人を非難する表現なのです。

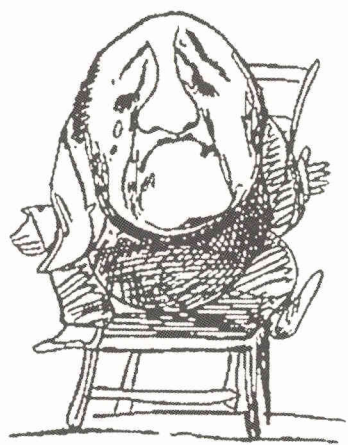


ですから、たとえあなたの英会話の先生が遅刻常習犯（私ではありませんよ、念のため）でも、**You're never on time.**とは言わないほうがいいでしょう。気まづくなってもかまわない、というなら話は別ですが…。

最初の話しに戻りますが、「いつも忘れ物しちゃうのね」と、嫌味にならない程度に指摘したいなら、

**You're always forgetting things.**

と言いましょう。



## One More Hint

なるほど!



You never know.

という文、あなたは どう訳しますか? 「あなたには決してわからない」 でしょうか?

そうではなくて、「まだ(どうなるか) わからない」という意味です。  
つまり、never know は「決してわからない」のではなく、「そのうちわかる」ということ。

**You'll never know.** だと、「あなたには絶対言わない」「死んでもばらさない」という意味になります。

A: How old are you?

「何歳?」

B: You'll never know.

「絶対に教えてあげない」

両者は大変よく似ているので、混同しないように注意してください。



イメ〜字で聴き取りと発声練習



# You always forget.

おまえってやつは忘れ物ばかりだな。

# You're always making mistakes.

まったく、おまえはいつも失敗ばかりだな。

# You're always telling lies.

おまえはいつもウソばかりつくな。

# You're never on time.

おまえは時間通りに来たことがないな。

## I should go now.

勘違い 「もう行かなければなりません」

本当は 「もう行かなければならないが、おそらく行かない」

### I should... は義務を語るだけ。 実行に移すかどうかは別の話

アメリカのテレビドラマのワンシーンで、パーティにいた女性が、

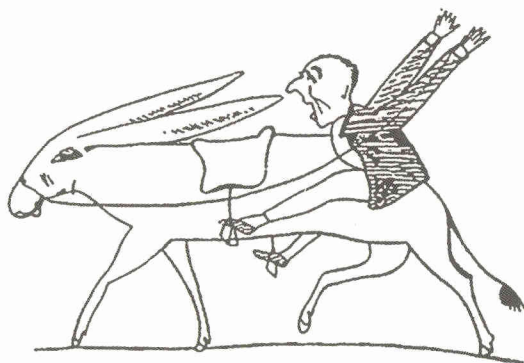
#### I should go now.

と言いました。しかし彼女はその場を離れようとはしません。さて、どうしてだと思いませんか？

多くの日本人がこの言葉を聞いて、「今行かないといけない、今行くべきだ」と訳すでしょう。でもネイティブは、「しなければいけないが、おそらくしない」というときによく使います。「わかつちやるけど…」というニュアンスです。

本当に？

● 知らずに使うと赤っ恥隠れた意味を持つ表現 ●



**I should eat this carrot.**

「ニンジン食べるべきだ (=でも食べられない)」

**I should study for the test.**

「テストの勉強をしなきゃ (=でもできない)」

**I should go to bed early.**

「早く床につくべき (=でもできない)」



You should... と言うときは、「あなたは～をするべきなのに、怠惰などといった、ネガティブな理由によりしない」という含みがあります。ですから、友人に対して使うことはあまりありません。

**You should study for the test.**

「テストの勉強したら? (=でもあなたのことだからしないでしょ)」

**You should go on a diet.**

「ダイエットしたら? (=無理でしょうけど)」

**You should clean up your room.**

「部屋を掃除したら? (=でもどうせいつも汚いし...)」

**なるほど!**



もちろんとても仲のいい友人同士の会話などで、あえて嫌味っぽく使うときなど例外はあります。また、このネガティブなニュアンスは簡単に取り除くことができます。

文頭に **Maybe** を加えるだけで、トゲのない提案に聞こえるようにすることができます。

**Maybe you should study for the test.**

「テストの勉強をしたほうがいいんじゃない?」

**Maybe you should go on a diet.**

「ダイエットしたほうがいいんじゃない?」

**Maybe you should clean up your room.**

「部屋を掃除したほうがいいんじゃない?」

## One More Hint

終わってしまったできごとなら、**should have** にします。

**Maybe you should've studied harder.**

「もっと勉強すればよかつたんじゃない？」

**Maybe you should've told me sooner.**

「もっと早く言えばよかつたんじゃない？」

**Maybe you should've done something.**

「何かしておくべきだつたんじゃない？」

そうだったの



You should have... は、過去にすべきことをしなかつたことに対する非難や後悔を表し、「～すればよかつた」というときに使います。Maybe がつかないと、相手を非難する攻撃的な言葉に聞こえてしまうので、くれぐれも注意しましょう。例えば、こんな状況です。

A: **You should've studied harder!**

B: **Well, you should've helped me!**

A: 「君はもっと勉強すべきだつたんだ！」

B: 「それなら、君が勉強を手伝ってくれりゃよかつたのに！」

**PRACTICE**

イメ～字で聴き取りと発声練習

CD  
46

# I should study for the test.

テストの勉強をしなくちゃ。(=でもできない)

# I should go to bed early.

早く床につかなくちゃ。(=でもできない)

# Maybe you should have studied harder.

もっと勉強すればよかつたんじゃない？

# Maybe you should have told me sooner.

もっと早く言えばよかつたんじゃない？

5

● 知らずに使っていると赤っ恥隠れた意味を持つ表現 ●

# I'm a little hungry.

**勘違い** 「ちょっとだけお腹がすいています」

**本当は** 「かなり空腹です」

## 控えめ表現の実態とは?!

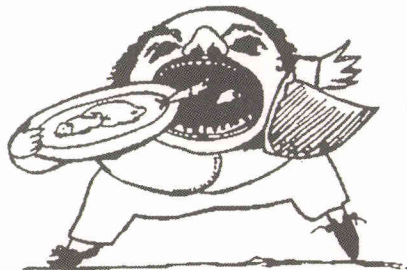
英語では、ちょっと口にしづらい状況で自分のことに触れるときや、他人のよくない点に触れるときは、しばしば控えめな表現法を用います。これを *understatement* または *litotes* (緩叙法; 控えめな表現) と呼んでいます。

〜

ただし、控えめなのは口だけで、その真意はまったく逆。例えば *a little*、*kind of*、*a bit* という表現を使うとき、実際は「ちょっと」ではなくて「大いに」という意味になることが多いのです。

例えば、ネイティブが、***I'm a little hungry.*** と言うとき、「ちょっとお腹がすいている」のではなくて、実際は「すごく空腹」と推測することができます。

他人について、***He's a little annoying.*** などと述べる時も、「彼にはすこしイライラさせられます」ではなくて、「あいつすごくむかつく!」という意味に解釈できます。



これらは表現としては控えめでも、実際は反対に語勢が強くなるので、相手に想像以上の不快感を与えます。会話で用いる際は注意してください。

その他の例を挙げてみましょう。



### **You're a little late.**

×「ちよつと遅いよ」

◎「かなり遅いよ、おまえ」

### **It needs a little more salt.**

×「もう少し塩がいる」

◎「味がぜんぜんないじゃないか」

### ● kind of の例

#### **It's kind of small.**

「えらく小さいじゃないか!」

#### **I'm kind of busy.**

「すごく忙しいからできないよ」

#### **I'm kind of worried.**

「どうしたらいいのか、さっぱりわからない」

### ● a bit の例

#### **It's a bit cold.**

「すごく寒い (からヒーターをつけて)」

#### **I'm getting a bit tired.**

「かなり疲れてきた (から帰ろうよ)」

#### **She's a bit rude.**

「彼女、すごく失礼よ」

#### **That's a bit expensive.**

「とても高くて (買えないよ)」

また not を用いて、次のようにも表現できます。

### **He's not my favorite teacher.**

そうだったの



この場合、「彼は私の好きな先生ではない」という意味ではなく、「あの先生は大嫌い」と推測できるのです。

**She's not the nicest person in the world.**

×「彼女はこの世で1番やさしいというわけではない」

◎「彼女はひど過ぎる！」

**He's not the best actor I've ever seen.**

×「今まで私が見てきた中で最高の役者というわけではない」

◎「あいつは大根役者」

**That's not the nicest hotel I've stayed at.**

×「これまで滞在したホテルの中で最高というわけではない」

◎「そのホテルは最悪だ」

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
47

**I'm a little hungry.**

お腹ぺこぺこ。

**It's kind of small.**

えらく小さいじゃないか！

**It's a bit cold.**

すごく寒いね。

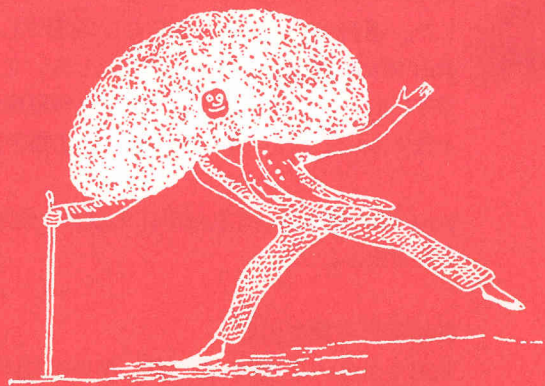
**He's not my favorite teacher.**

あの先生、大嫌い。



ネイティブ  
英語の **壁** 6 章

ネイティブが無意識に  
使っている表現



## You know, I might have to move.

**勘違い** 「私が引っ越すかもしれないこと知ってるでしょ」

**本当は** 「あのね、私ね、引っ越さなきゃならないかも」

### 便利な you know、使い過ぎには気をつけて

まさか!

ネイティブの中には、会話中に何度も you know とはさむ人がいます。先日、ネットであるネイティブがインタビューに答えている動画を見ました。返答に 20 秒もかからない場面でしたが、その中で実に 7 回も you know を繰り返し使っていました。この場合、日本語で「ね、そうでしょ、あのね、それでね」という程度の、ほとんど意味のないひと言になりますが、度が過ぎると大変聞き苦しいものです。

you know には、これ以外にも様々な用法があります。例をいくつか見てみましょう。

#### ●相手の注意を引く

You know... と言ってから話しを続ければ、相手はあなたの話を聞いてくれます。「ねえ、あのね」程度の呼びかけになります。

#### You know, I might have to move soon.

「ねえねえ、私、もうじき引っ越さなきゃならないかも」

#### You know, we have to work on Saturday.

「おい、俺ら土曜も出勤だつてよ」

#### You know, it rained every day this week.

「いやあ、今週はずっと雨降りだったよね」

へ～

#### ●思い出せないとき、相手の助けを求める

何か言いたいことがあったのにど忘れしてしまうことって誰にでもありますよね。そんなときに相手に you know と言って尋ねます。「ほら、あれだよ…」という感じになります。

A: **I bought a...you know...**

B: **A Tiffany ring?**

A: **That's it.**

A: 「あれ買ったの…ほら、あの…」

B: 「ティファニーの指輪のこと？」

A: 「そう、それ」

なるほど!



● 会話で言葉に詰まった

考えながら会話を進めるときや、言葉に詰まったときに使います。「ええと、あの…」という感じです。

**We'd like to go to...you know...to the carnival.**

「あれに行きたいんです…あの…カーニバルに」

**I'm studying...you know...geology.**

「勉強しているんだ…その…地学をね」

**Why don't we go to a...you know...a library?**

「あそこに行こうよ…ええと…図書館にでも」

ここにざっと挙げただけでも、3通りの使い方があります。しかし便利だからといってやたらに使うのは避けてください。あまり頻繁に使うのはスマートではありません。

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
48

**You know, I might have to move.**

あのね、私、引っ越さなきゃならないかも。

**You know, we have to work on Saturday.**

あのさあ、僕たち土曜も出勤だってよ。

**I bought a... you know...**

あれ買ったの…ほら、あの…。

## Well, that was fun.

**勘違い** 「ええ、楽しかったです」

**本当は** 「意外と楽しくてよかったです」

### Well のネイティブ流使い分けを学ぶ

本当に？

会話ではよく Well... と言ってから話題を変えます。日本語では「さて」という程度の意味です。Well... には、この他にも様々な使い道があります。電話で話していて、こちらは切りたいのに相手がなかなかそうさせてくれない…そんなときは Well... と言えば、相手は「あ、もう電話を切りたいんだな」と悟ります。

相手の話に驚きショックを受けたときには、Well... とひと言言うだけで、驚きと懐疑を伝達することも可能です。ネイティブはしばしばこの後に短い表現を加えます。例えば次のような感じです。

**Well, I can't believe it.**

「へえ、とても信じがたいな」

**Well, this is a shock.**

「えつ、それは驚きだ」

**Well, I don't know what to say.**

「ええつ、なんと言ったらいいか…」

〜

またポジティブな驚きを表すこともできます。例えば期待していなかったのに相手によいことをしてもらった、というとき、ネイティブは **Well, thank you.** と言います。

**Well, that was fun.**

「まあ、意外と楽しかったな」

**Well, that was delicious.**

「うん、思ってたよりおいしかった」

**Well, how nice!**

「あら、ありがとう / まあ、それはいいわね！」



なるほど!

Excuse me. は「すみません」という意味ですね。しかしこの前に Well... を加えて **Well, excuse me.** と言ったら、どうなるでしょう？ これは「すみません」という意味にはならず、「ああ、そうですか、これはこれはどうも失礼しましたね」というような皮肉の言葉になってしまいます。

**Well, I'm sorry.** と言っても、ニュアンスは同じです。この場合、Well... は「へえっ、悪いのは私のほうだって言うんですか？ こりゃ驚きだ」ということを示唆しています。どちらも謝るところか、「大げさだなあ、大したことはないじゃないか」と文句を言っているような口ぶりになってしまうのです。

自分の非を認め、素直に謝罪するときはくれぐれも Well... を加えないように注意してください。

相手のほめ言葉に対し、謙虚な姿勢を見せるときには、Well... が役立ちます。この場合、相手に「ほめられるなんてちよつと意外だった」という思いが伝わります。**Well, thank you.** と言えば、「あら、そう言ってくれるなんてありがとう」というトーンになります。

ここで取り上げた Well... の持ち味はごく一部に過ぎません。ネイティブは Well... をどんな場面でどのように使い分けているのか、注意しながら彼らの会話に耳を傾けてみてください。

**PRACTICE** イメ～字で聴き取りと発声練習



**Well, that was fun.**

まあ意外と楽しくてよかったです。

**Well, this is a shock.**

えっ、それは驚きだ。

**Well, that was delicious.**

うん、思ってたよりおいしかった。

## Say nothing.

勘違い 「何も言うな」

本当は 「礼にはおよびません」

### You're welcome. ばかりじゃ脳がない

私が日本の自動車メーカーに勤務していたころの話です。

急ぎの仕事を与えられ、少々パニックに陥っているある日本人の従業員の手伝いをしたことがありました。人の手助けができると気分がいいものです。

まさか!

後で彼から丁寧なお礼の言葉を受けたので私は、

**Say nothing.**

と返答しました。

ところが彼は少々驚いたような表情を見せました。私はすぐに、彼がこのひと言を直訳し、「何も言うな」というぶつきらぼうな言葉として受け止めたに違いないと悟りました。そこでこの言葉の持つ本当の意味やニュアンスについて説明しました。

そうだったの



この場合の Say nothing. は、単に「何も言うな」と言っているわけではありません。Say nothing of it. を省略した表現で、「礼にはおよびませんよ」「いいから、いいから」という意味なのです。つまり、「それ以上何も言わなくてもいいですよ。お気持ちはわかりますから」という、とても控え目で暖かい思いが込められたひと言なのです。

例を見てみましょう。

A: **Here's the money you lent me. I owe you a big one.**

B: **Say nothing. I'm glad I could help.**

A: 「これ、君が貸してくれたお金だ。本当に恩に着るよ」

B: 「礼なんていいさ。役に立ててよかった」

また、誰かに労苦を要する頼みごとをされた、あるいは遠慮がちに頼まれたときに、「わかりました。お引き受けしますよ」と、快く了解するときのひと言として使います。

なるほど!



6

● ネイティブが無意識に使っている表現 ●

相手からお礼の言葉を受けたときに、いつも **You're welcome.** 「どういたしまして」と返答していますか? この次は、**Say nothing.** と書いてみてください。きっと相手から好感を持たれるでしょう。例えば、こんな具合です。

**A: I hate to ask you this, but I need to get to the airport and...well...**

**B: Say nothing. I'll be happy to drive you.**

A: 「お願いするのは心苦しいのですが、空港に行かなければならないので… その…」

B: 「(相手の言葉を制止するように)わかりました。喜んで車で送りますよ」

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
50

**Say nothing.**

礼にはおよびません。

**Say nothing. I'm glad I could help.**

礼なんていさ。役に立ててよかった。

**Say nothing. I'll be happy to.**

わかりました。喜んでやりますよ。

**Say nothing. You're my friend.**

礼なんていいよ。友だちだろ。

## I need to buy a new car, I think.

**勘違い** 「車を買って替えなきゃ」

**本当は** 「車を買って替えなきゃな、でもなあ」

### I think の使い過ぎは優柔不断と思われる?!

少し前の話ですが、喫茶店に座っていると、1人の日本人の男性が流暢な英語で話しかけてきました。以来、その人と友人同士となり、よく話をするようになりました。

まさか!

話をしていて気づいたのですが、彼はしばしば会話中 **..., I think.** と言うのです。最初のころは控えめに発言しているのだらうと思いましたが、あまりにも頻繁に使うので、少し気になりました。

例えば、こんな具合です。

#### I need to buy a new car, I think.

「新しい車を買わなきゃならないかなあ、でもなあ」

#### I need to go to Shinjuku, I think.

「新宿に行かないといけないなあ、でもなあ」

へ～

..., I think. は、「私は～と思う」と主張するのではなく、「～かもしれないなあ」「～かなあ」と、遠慮しながら答えを曖昧にする、あるいははぐらかすときによく使う形なのです。

ですからネイティブの中には、「この人はなんて優柔不断なんだ」という印象を持つ人もいるかもしれません。

..., I think. が口ぐせのようにになっている方は気をつけてください。



## One More Hint

I think を文末ではなく文頭に置く場合、アクセントを置く位置によって意味が変化します。

I を強め、

**I think I need to buy a new coat.**

と言うときは、「とにかくコートを買わなければ」という意味になります。

think を強め、

**I THINK I need to buy a new coat.**

と言うときは、「新しいコートを買わなきゃならないかなあ、でもなあ…」という意味です。

buy を強め、

**I think I need to BUY a new coat.**

「新しいコートを買わないと意味がない」という意味。

ちなみに new を強く読むと「中古ではなく新品のコートを」となります。

6

● ネイティブが無意識に使っている表現 ●

PRACTICE

イメ～字で聴き取りと発声練習

CD  
51

**I think I need to buy a new Coat.**

とにかく新しいコートを買わなくちゃ。

**I think I need to buy a new Coat.**

新しいコートを買わなきゃなあ。

**I think I need to buy a new coat.**

新しいコートを買わないと意味がない。

**I think I need to buy a new coat.**

新品のコートが必要だな。

## Let's start with a round of beers.

勘違い 「ビールからはじめよう」

本当は 「とりあえずビール」

### 「とりあえず」を英語にすると…

「何飲もうか？」

「とりあえずビール」

本当に？

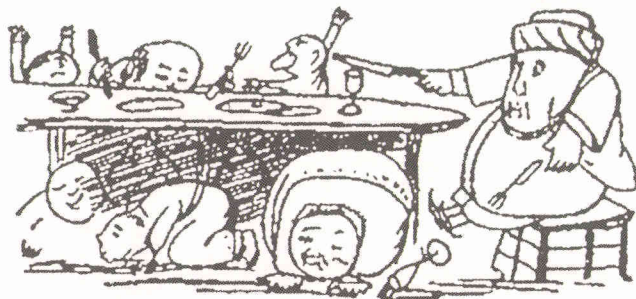
日本ではこのようなやりとりをよく耳にします。

さて、この場合の「とりあえず」は英語でなんと言うのでしょうか？「とりあえず」は、「まず第一に」「何をさしおいても」という意味です。しかしこれを first of all や for the present あるいは for the time being などと置き換えるのは、非常に不自然。

この場合は、start with ... (～では始める) という形を用い、次のような表現にすると「とりあえず」のニュアンスが出ます。

### Let's start with a round of beers.

「とりあえずビールだね」



a round は「一杯」という意味。実際に注文するときにもこの表現が **なるほど!** 使えます。

「とりあえず」にあたる表現は状況によって、start with.../start by... /I guess we'd better... といった英語で表すことができます。



**Let's start with an appetizer.**

「とりあえず前菜からいこうか」

**Let's start by doing some stretches.**

「ではまずストレッチから」

**I guess we'd better call the police.**

「警察を呼ぶのが先決だね」

6

● ネイティブが無意識に使っている表現 ●

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
52

**Let's start with a round of beers.**

とりあえずビールだね。

**Well, let's start by cleaning up.**

とりあえず、片付けましょう。

**I guess we'd better go.**

とりあえず行きましょうか？

**Why don't you start by talking with him?**

とりあえず、彼と相談したら？

## Talk about busy, I didn't even have time to eat.

**勘違い** 「忙しさについて話せ。私は食べる時間すらないのだ」

**本当は** 「忙しいといえば、私なんて食べる時間もないんです」

### 「～といえば」は talk about...

喫茶店で次の仕事の構想やレッスン・プランを練っているときに、隣席の人の会話がそれとなく耳に入ってくる場合があります。

なるほど!



盗み聞きする気はないのですが、会話の内容から互いの忙しさを自慢し合っているのがわかります。そんなときにはふと、「忙しいといえば、こっちのほうが大変だよ」とひとり言をつぶやいていることがあります。皆さんもきっと同じ気持ちになるのでは？

このひと言は簡単な英語で表すことができます。

Talk about... という形を使ってみましょう。



これは「～について話せ」ということではなく、相手の話を「～といえば」と受け、同じテーマで別の事例を持ち出すときに使う決まり文句です。一般的にポジティブな話題には使わず、あまりよくない話題を受け、さらに悪い話題に触れるときに使います。もつぱらカジュアルな会話で使います。

例えば、「疲れる」ことを話題にしているときは、**Talk about tired**, と受けます。このひと言は、**You can't talk about being tired, but I can.** 「君の場合は疲れたなんてとても言えないと思うけど、僕の場合はあてはまる」という言葉を短縮したものなのです。

ですから単に「疲れたといえば…」ということの意味するのではなく、「疲れただって？ こっちのほうが大変だよ」という含みを持つこともあります。

A: **I had three meetings this morning. I was really busy.**

B: **Talk about busy, I didn't have time to eat.**

A: 「今朝、会議が3つもあつたんだ。本当に忙しい朝だった」

B: 「こっちのほうが大変だよ。食事する時間すらなかったんだから」

**Talk about hot, my air conditioner is broken.**

「暑さでいったら、うちなんてエアコン壊れてるんだから」

そうだったの



**Talk about strict, my father is so strict it's scary.**

「厳しさでいったら、ウチの父なんて本当に厳しいんだから！」

このような表現が使えれば、もつと自分のことを相手に伝えることができますね。

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
53

**Talk about busy, I didn't have time to eat.**

こっちのほうが大変さ。食べる時間すらなかったんだから。

**Talk about tired, I haven't slept in three days.**

こっちのほうが疲れてるよ。もう3日も寝ていないんだから。

**Talk about cold, it's minus ten degrees here.**

寒さなら、こっちなんで-10度だよ。

## Guess what?

勘違い 「何か推測した？」

本当は 「ねえねえ、ちょっと聞いて」

### 相手を引きつけるイントロ表現を忘れずに

〜

「人が話をしているというのに、この人、ちつとも聞いてない」という経験をしたことはありますか？何か聞きたくない理由があったのでしょうか？それともあなたの英語の発音が悪いから？確かにそういうこともあるでしょう。しかしそれよりも、あなたが“相手を引きつけるイントロ表現”を知らなかったから、ということは考えられませんか？相手に話をするときは、話の内容が重要、あるいは興味を引かれるものでなければ、耳を傾けてもらえません。これはどの言語でも同じでしょう。

例えば、唐突に **I saw a bear today.**「今日熊を見たよ」と言っても、相手はどうリアクションしていいのかわかってしまうでしょう。これでは、ちつともエキサイトした様子が伝わりません。そんなときには、**You won't believe what I saw today!**「今日、何を見たと思う？」というイントロ表現で、まずは相手の興味を引いてみましょう。すると、相手は自動的に **What?**「なに、なに？」と尋ねるはずですよ。そこであなたは、**I saw a bear today.**と云うのです。これなら相手はきっとびっくりしてくれるはずですよ。

本当に？

ネイティブが会話で新たな話題を持ち出すときに最もよく使うのが、**Guess what?**というひと言です。guessは「推測する」という意味ですが、この表現は「ねえ、ねえ、ちょっと聞いて」という感じです。相手がこう言ったときは、**What?**「なに？」と聞き返します。これ以外の返答はありません。

日本では個人の肩書きがものを言います。名刺に **President**と書かれていれば、何もしなくても、相手は注意深く耳を傾けるでしょう。しかしアメリカをはじめとする欧米諸国では、肩書きはあまり重要ではありません。ですからこちらのお話を聞いてもらうには努力が必要です。

他にも相手の注意を促すときに役立つ表現を挙げておきます。相手があなたにこう言ったときは、**What?**と返答するのを忘れずに。

### I have an idea.

「そうだ、いい考えがある！」

### I know!

「そうだ！」

### Know something?

「ねえねえ」

### Know what?

「ねえ、ちょっと」

なるほど!



## One More Hint

店に入って店舗やレジに誰もいないとき、日本語では「すみませーん」と言って来店したことを知らせます。英語ではなんと言うのでしょうか？ 英語では、**Excuse me.**「すみません」や、**Hello.**「こんにちは」、**Is anyone here?**「どなたかいらっしゃいますか？」といった表現をよく使います。この他、**Ahem.**「ゴホンッ」と咳払いするように声を立てることもあります。意外に自然でやわらかい印象です。パーティなどで退屈したときに、友達に向かって Ahem. と言い、ドアのほうに目をやれば、相手はあなたが帰りたいんだと悟ってくれます。

6

● ネイティブが無意識に使っている表現 ●

PRACTICE

イメ～字で聴き取りと発声練習

CD  
54

## Guess what?

ねえねえ、ちょっと聞いて。

## You won't believe what I saw today.

今日、何を見たと思う？

## Know what?

ねえちょっと。

## The mobile phone is destroying the world.

**勘違い** 「携帯電話は世界を崩壊させている」

**本当は** 「かの携帯電話は世界を崩壊させている」

### the は畏敬の念の現れ

次の例を見てください。

**Mobile phones are destroying the world.**

**The mobile phone is destroying the world.**

本当に?

文法のテストなら、どちらも「携帯電話は世界を崩壊させている」という同じ意味であると答えても正解でしょう。しかし両者の間にはニュアンスの違いがあります。実際2番目の例文は少し変です。こちらには“the”がついていますが、“the”には「うやうやしさ」が含まれています。ですから、特に携帯電話を快く思っていない人が **The mobile phone is...** と言うのは奇妙に感じます。そのような人なら、**Mobile phones are destroying the world.** と言うでしょう。ある対象をけなすときには“the”はつけないのが普通です。

「天使は実在する」と言うときに、本当に信じているなら、

**Angels are real.**

**The angel is real.**

そうだったの



このどちらを使ってもかまいません。しかし天使の存在を信じていないなら、ネイティブは **The angel isn't real.** とは言わず、

**Angels aren't real.**

と言うでしょう。「天使なんかいない」といったニュアンスです。次の例も参考にしてください。

●車は自然環境にとって有害だ。

不自然：**The car is harmful to the environment.**

自然：**Cars are harmful to the environment.**



● 蚊はいやな虫だ。

不自然：**The mosquito is a terrible insect.**

自然：**Mosquitoes are terrible insects.**

● 女王は礼に欠けている。

不自然：**The queen is rude.**

自然：**Queen Elizabeth is rude.**



Queen に the を付けるならば尊敬している証拠なので、以下の例文のような使い方が自然です。

● 女王は素晴らしい人物だ。

自然：**The queen is a wonderful person.**

ネイティブはこの使い分けを常に意識しているわけではありません。潜在意識の中にある感覚だからです。この微妙なニュアンスさえ知っておけば、迷うこともだいぶなくなるでしょう。

**PRACTICE**

イメ～字で聴き取りと発声練習

CD  
55

**Mobile phones are destroying the world.**

携帯電話が世界を崩壊させている。

**Angels are real.**

天使は実在する。

**Mosquitoes are terrible insects.**

蚊はいやな虫だ。

**The queen is a wonderful person.**

女王は素晴らしい人物だ。

## Would you like a drink or something?

**勘違い** 「何か飲むか、それとも別のことしない？」

**本当は** 「何か飲まない、それか何か食べる？」

### ... or something は心配りの言い回し

まさか!

生徒の1人からこんな話を聞きました。

彼女は職場でアメリカ人の上司から、

**Would you like to go get a drink or something?**

と声をかけられたそうです。彼女は、...or something? の部分がよくわからなかったので、「これはセクハラに違いない」と思ったと言うのです。英語に慣れていない彼女には、この部分が妙に意味ありげに聞こえてしまったのですね。

本当に?

でも、心配は無用でした。これはセクハラでもなんでもなく、むしろ気遣いの表現なのです。...or something と加えることで、相手に選択する余裕を与える気軽な問いかけになり、押し付けがましさのない好印象な言い方になるのです。ネイティブはこのような表現を様々な機会に使っています。

お茶やコーヒーをすすめるときも、

**Would you like some coffee?**

と言うより、

**Would you like some coffee or something?**

と言ったほうが、心配りが感じられてマルです。

次の例で確認してみましょう。

**Let's go to a movie.**

「映画に行きましょう」

**Let's go to a movie or something.**

「映画でもどう? (映画でなくてもいいよ)」

**Why don't you copy those reports?**

「このレポートをコピーすれば？」

**Why don't you copy those reports or something?**

「このレポートとかコピーしといたら？(他にやることがなかったら)」

**I'm going hiking.**

「ハイキングに行くんだ」

**I'm going hiking or something.**

「ハイキングにでも行こうかと思って、(君がどこかに一緒に行きたいなら、ハイキングじゃなくてもいいよ)」

なるほど!



このように、言葉の裏に隠された気遣いの気持ちが理解できれば、ネイティブとの距離もグッと近づきますね。

PRACTICE

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
56**would you like a drink or something?**

何か飲む? それとも何か食べる?

**Let's go to a movie or something.**

映画でもどう? 映画でなくてもいいけど。

**why don't you copy those reports or something?**

このレポートとかコピーしといたら?

**Let's go hiking or something.**

ハイキングにでも行こうかと思って。

## I would like to buy... え~と ...two books.

**勘違い** 「本を、えっと、2冊ください」

**本当は** 「本を 82冊ください」

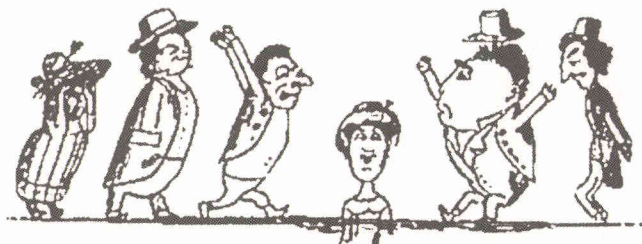
### 間違いは、すぐに正せば No problem!

自分のミスに気づくようになれば、かなり英語ができるようになってきたという証拠。「文書中でのミスは書き直せるけど、会話のときはどうするの?」と考えているあなた。

本当に?

すぐに言い直せるなら、そうしてもかまいません。**I went shopping for a present...** と言いかけてから、**...to buy a present for my friend.** と言い直すのはかまわないし、ネイティブだってそうしています。

ワンクッション置くような、ひと言を添えて訂正しておけば、会話がブツツと途切れずにすみます。ただしあまり頻繁に使うのは避けましょう。最初から正しく話すことができれば、それにこしたことはないのですから。



しかし、いざという時のためにも、次のような表現を覚えておくと、とても自然に訂正できて便利です。

(何か言いかけてから)

...uh... 「え〜と…」

...or uh... 「あ、え〜つと…」

...I mean... 「つていうか…」

...I mean, uh... 「なんというかその…」

そうだったの



話している途中で訂正するとき特に気をつけてほしいのが、日本語のフレーズを混ぜてしまうことです。例えば「え〜と…」という言葉は英語の eight と似ているので、ネイティブを混乱させます。

例えば日本語を全く知らないネイティブに、I'd like to buy... え〜と ...two books. などと言えば、彼らの耳には「本を 82 冊購入したいのです」と聞こえてしまうかもしれません。

PRACTICE

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
57

I would like to buy...uh... two books.

本を、え〜と、2冊ください。

we'd better renew...I mean... remodel our kitchen.

台所を新しく、じゃなくて、リフォームしたほうがいいね。

He's still a child...or, uh... teenager.

彼はまだ子ども、あ、え〜つと、10代だから。

I need a napkin...I mean, uh... a towel.

ナプキン、じゃなくてタオルをください。

6

● ネイティブが無意識に使っている表現 ●

# Maybe, I don't know.

**勘違い** 「知らないかもしれません」

**本当は** 「さあねえ、どうなのでしょう」

## I don't know. でやんわりと

先日、翻訳業をしている生徒を指導しているときのこと、

**Maybe, I don't know.**



というフレーズを彼女は、「私は知らないかもしれない」と訳していました。この表現、しばしば不自然な日本語訳が当てられがちです。本来なら「さあ、知らないな」というような訳にすべきでした。最初の Maybe は、「さあねえ」「どうかなあ」というニュアンスで、I don't know. は「よくわかりません」という意味だからです。

また、質問に対して Maybe./Perhaps./Possibly. と答えると、若干ネガティブなニュアンスを与えることがあるということを覚えておきましょう。声のトーンによっては、質問の答えとしてはややぶつきらぼうで、相手を見下したような印象を与えるのです。ですから、ネイティブは初対面の相手、あまり親しくない相手には、返答としてこういった表現の使用を避ける傾向にあります。

なるほど!



しかし、会話ではこういった表現がつつい口をついて出てしまうことがあります。そんなときは、後ろに I don't know. と続けると、ネガティブなニュアンスがやわらぎます。こんな具合です。

A: **Is that painting by Van Gogh?**

B: **Perhaps. I don't know.**

A: **It sure looks like a Van Gogh.**

A: 「それ、ゴッホの絵ですか?」

B: 「だと思えますよ」

A: 「ゴッホでしょう」

A: **Are they going to get married?**

B: **Perhaps. I don't know.**

A: **They'd make a good couple.**

A: 「あの2人、結婚するの?」

B: 「そうなるんじゃないかなあ」

A: 「お似合いのカップルになるんじゃないかな」

そうだったの



また答えを曖昧にはぐらかしたいときに、...but I don't know. と後ろにつけることがあります。このひと言を添えることで、相手はあなたの考えや意見に反対したり、別の意見を述べやすくなるのです。相手が違う意見を述べる余地を与えるので、特に友人との日常会話でも役に立ちます。しかし、ビジネス交渉の場などでは優柔不断な印象を与えるので使わないほうがいいでしょう。

A: **Are you going to the party?**

B: **I'd like to, but I don't know.**

A: **I don't think I'm going.**

A: 「パーティには行くの?」

B: 「行きたいけど、どうしようかな」

A: 「私は行かない」

A: **Does she have a nice home?**

B: **Pretty nice, but I don't know.**

A: **I'd like to see it.**

A: 「彼女の家っていいの?」

B: 「とても素晴らしいけど、どうかな」

A: 「見てみたいな」

A: **How is your mother doing?**

B: **Better, I think, but I don't know.**

A: **I hope she gets better soon.**

A: 「お母さんの具合はどう?」

B: 「よくなっていると思うけど、う〜ん(どうだろう)」

A: 「お大事に」



## One More Hint

文末ではなく、文頭に **I don't know.** を置くと、「いやあ、困ったことに」というニュアンスが加わります。

**I don't know. It seems like everything's going wrong.**

「いやあ、困ったことに、何をやってもうまくいかないみたいで…」

**I don't know. I haven't been feeling well lately.**

「困ったことに、ここのところ体調が悪くてさ」

**I don't know. Maybe I should quit.**

「困ったなあ、やめたほうがいいかなあ」



イメ〜字で聴き取りと発声練習



**Maybe. I don't know.**

さあねえ、どうなのでしょう。

**I'd like to, but I don't know.**

そうしたいけど、どうしようかな。

**Pretty nice, but I don't know.**

すごくいいけど、でもどうかなあ。

**Better, I think, but I don't know.**

よくなっているとは思うけど、う〜ん（どうだろう）。



## Now I need to make an announcement.

勘違い

「今、私は発表しなければなりません」

本当は

「ところでみなさん、発表があります」

### now って意外と便利かも

now は誰でも知ってるシンプルな副詞ですよ。では、次の文はどんな意味になるのでしょうか？

#### Now I need to make an announcement.



この場合、「今発表しないとイケない」というよりも、「さて/ところで(みなさん)、発表することがあります」と解釈するほうが自然です。now は使い方によって、周囲の人の注意を引くために使う well と同様の意味になるのです。以下、使うときによってニュアンスが変化する例をいくつか挙げておきます。

#### Now what'll you do with your old car?



×「今、古い車はどうするの？」

◎「じゃあ、古い車はどうするの？」

#### Now where did I put my book?

×「今、本はどこに置いた？」

◎「あれ～、本、どこに置いたんだろう？」

#### Now we won't have time today.

×「今はそれを今日やる時間はない」

◎「あのさあ、今日それをやっている時間はないよ」

それでは、次のような場合はどちらの意味になるのでしょうか？

#### Now I have to call my office.

この場合は、

- ①今オフィスに電話しないと。
- ②さてと…オフィスに電話しなきゃ。

なるほど!



①と②のどちらにも解釈でき、混乱を招きます。

「今～」と言う場合、ネイティブは now を right now に変え、

**Right now, I have to call my office.**

と言うことが多いですね。これで誤解は避けられます。

## One More Hint

now や right now を文頭ではなく文末につけると、「急いでいる」、「ぐずぐずするな」、「焦っている」というニュアンスが加わります。それぞれ比べてみましょう。

**Now I have to go.**

「もう行かないと」

**Right now, I have to go.**

「今、行かないと」

**I have to go right now.**

「もう行かないと本当に困るんだ」



Now we have to call him.

「そうそう、彼に電話しないと」

Right now we have to call him.

「今、彼に電話しないと」

We have to call him right now .

「もう待てないよ。今すぐ彼に電話しないと」

Now I'd like to think about it.

「ちよつと、考えたいんだ」

Right now I'd like to think about it.

「今はね、考えたいんだよ」

I'd like to think about it right now.

「後じゃなくて、今、考えたいんだよ」

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
59

Now I **need** to make an announcement.

ところで、みなさんに発表があります。

Now **what'll** you do with your old car?

じゃあ、古い車はどうするの？

Now we **won't** have time today.

あのね、今日はそれをやっている時間はないよ。

**Right now**, I have to call my office.

今、オフィスに電話しないと。

# actually

勘違い 「実は」

本当は 「私なんかまさかと思うでしょうが」

## actually は謙遜の現れ

本当に？

日本語には自分の謙虚さを示す表現がたくさんあります。英語も同様ですが、ネイティブはその点についてあまり意識せずに使っています。例えば **actually** という語がそうです。日本語では、「実は…」とよく訳されています。しかしすべてにその訳が当てはまるわけではありません。例えば誰かが、

**You have a nice garden.** 「立派な庭をお持ちですね」

とほめたとします。あなたが **I did it myself.** と答えたなら、「私が自分で手入れしたんですよ」と鼻高々に答えているような印象を受けます。しかし、

**Actually, I did it myself.**

と答えれば、自慢げなニュアンスが薄らぎます。**actually** は、「まさかと思うでしょうけれど」という腰の低い印象を与えるからです。同様の例を挙げてみます。

そうだったの



A: **That's a beautiful ring.**

B: **Actually, it was my grandmother's.**

A: 「きれいな指輪ですね」

B: 「実はその… (=私にはこれを買うセンスはないのですが) 祖母からもらったものなのです」

A: **You did a great job.**

B: **Actually, I had a lot of help.**

A: 「よくやってくれた」

B: 「実を言いますと… (=自分だけではできず) みんなの助けでなんとかできたのです」

A: **You're good at math.**

B: **Actually, everyone in my family is good at math.**

A: 「数字が得意なんだね」

B: 「いやあ、(=本当に) ただの遺伝ですよ」

相手の意見や考えに反対するときには、actually は反対の度合いをやわらげる効果があります。

**Osaka is the biggest city in Japan.**

「大阪は日本一の大都市だ」

と言う相手に、

**Tokyo is.** 「東京だ」

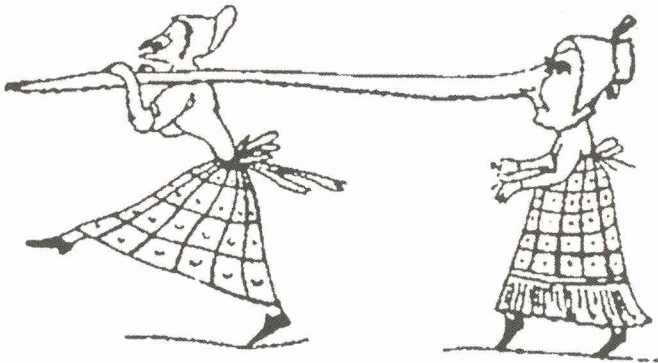
と答えたなら、「東京に決まってるだろ」とぶつきらぼうな印象を与えます。

しかし、

**Actually, Tokyo is the biggest city.**

にすると、ぶつきらぼうさが取れ、「いや、本当は東京だと思いますよ」というニュアンスになるのです。

まさか!



## One More Hint

人からほめられたときなどに、**No.**とか、**No, that's not true.**と返答しているのをよく耳にします。謙遜のつもりなのでしょうが、これだとまんざらでもないように聞こえ、相手は何度もあなたをほめなければならなくなります。

相手からほめてもらったときは、**Thank you.**と言って返答するのがよい方法です。相手もあなたのこのひと言で気分をよくします。日本語ではお世辞に対して「ありがとう」と言うのはやや居心地が悪いかもしれませんが、英語では極めて自然ですし、高慢な印象もありません。

次の例も「腰の低さ」を感じさせる返礼の言葉です。

**Thank you for the compliment.**

「ほめてくださってありがとう」

**You're too kind.**

「あなたは（私が受けるに値する以上に）優しい人です」

**That's a nice thing to say.**

「（私にはそのような言葉はもつたいないが）お言葉はありがたく頂戴します」

**That means a lot coming from you.**

「（私はそうは思いませんが）そう言ってもらえてうれしいです」

なるほど!



**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
60

# Actually, I did it myself.

まさかと思うでしょうが、自分でやったんです。

# Actually, I had a lot of help.

実を言いますと…（＝本当は自分ではできず）みんなの助けでなんとかできたのです。

# Actually, everyone in my family is good at math.

いやあ、家族はみんな数学が得意なんです。

# Actually, Tokyo is the biggest city.

いやあ、東京が最大の都市ですよ。

## 父母は **father and mother** ではない

日本語では両親を「父母」の順でよく呼びますよね。「母父」という人はいません。これはかつての日本の家父長制が影響しているのでしょうか。

ところが英語では逆に、**“father and mother”** という順序で並べることはほとんどなく、**“mother and father”** とするのが普通なのです。

またステージなどからの呼びかけなどによく使われる **Ladies and gentlemen!** も逆の言い方はあまりしません。これも日本語に訳されると「紳士淑女のみなさん」となっていますね。

この他にも同様の例がありますが、理由を説明することはできません。日本語と英語では言い回しが異なるという点に注意して、このまま覚えてください。

### **black and white**

「白黒 (をはつきりとさせる)」

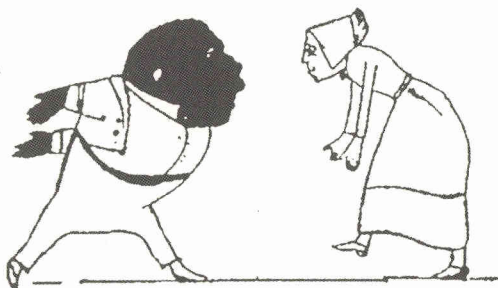
### **this and that**

「あれこれ」

### **supply and demand**

「需要と供給」

ちなみに「少年少女」は **boys and girls** と言い、日本語の順と一緒です。







ネイティブ  
英語の **壁** 7 章

微妙な英語の使い分け



# I walked a hundred miles.

**勘違い** 「私は 100 マイルぴったり歩きました」

**本当は** 「約 100 マイルも歩いたんだよ」

## a million と one million って 同じじゃないの？

まさか!

かなり以前のことになりますが、私に校正を頼んだクライアントさんと議論になり、負けてしまったことがあります。議論の種となったのは次のような文です。

**Approximately a hundred people attended the conference.**

私はこの文が少しおかしいと思ったので、

**A hundred people came to the conference.**

と修正しました。

するとそのクライアントさんは、「Approximately... は必要だ」と主張しました。私は不要だと思ったのですが、理由をうまく説明できなかつたので、元の文に戻しました。その理由がわかっている今なら、議論になっても勝つ自信があります。

そうだったの



100km ちょうど歩いたなら、**I walked one-hundred kilometers.** と言います。「だいたい、おおよそ」という場合は、ネイティブは “a” を用います。例えば「約 100km 歩いた」というときは、**I walked a hundred kilometers.** と言います。

例を挙げてみます。

**I sent out a thousand invitations.**

「おおよそ 1,000 通の招待状を送った」

**We had a million dollars in sales last year.**

「去年の売り上げは約 100 万ドルだった」

**The deficit rose by a hundred-million yen this month.**

「今月の赤字は約 1 億円増加した」

また文書では、数字がはっきり示されていないことがあります。例えば、**100 people came to the party.** と英語で書いたなら、読者にはおおよそ 100 人なのか、100 人ちょうどなのか判断できません。ちょうどではない場合は、**Approximately 100 people came to the party.** と書くほうが親切と言えます。



## One More Hint

量の多さを強調したいがために、時には実際より多くの数を示すことがあります。誰かが **I have a hundred things to do.** あるいは **I have a million things to do.** と言うときは、実際に 100 も 100 万もやるべきことがあるというわけではなくて、「忙しい」ことを強調しています。

同様の例を挙げてみましょう。

**I talked to a dozen people about it.**

- × 「12 人と話した」
- 「たくさんの人と話した」

**I've worked here for a hundred years.**

- × 「100 年働いている」
- 「長く働いている」

**I wouldn't do it for a billion dollars.**

- × 「100 億ドル以下ならやらない」
- 「いくらもらってもやらない」

## PRACTICE

イメ～字で聴き取りと発声練習



**I walked a hundred miles.**

100 マイルくらい歩いたよ。

**I sent out a thousand invitations.**

1,000 通くらいは招待状を送ったよ。

**we had a million dollars in sales.**

売り上げは約 100 万ドルだった。

# I'm so glad you came.

**勘違い** 「来てくれてうれしいよ」

**本当は** 「来てくれて助かったぜ」

## うれしさいろいろ。英語表現もいろいろ

多くの人、ネイティブでさえ、「happy と glad は同じ意味だ」と言っています。でも実は違うのです。

まさか!

あなたが誰かの家のパーティに招待されたとします。訪れた家の人はドアで、**I'm so happy you came.** というような言葉で歓迎するでしょう。パーティには既に他のゲストが来ていましたが、皆互いのことを知りません。そこで、もし誰かが知人であるあなたをその中に見つけたら、相手はおそらくこう言うでしょう。**I'm so glad you came.** さて、I'm so happy you came. と I'm so glad you came. の違いがわかりますか？

そうだったの



happy は純粹な喜びを表します。しかし glad には「ほっとする」という気持ちが含まれます。ですから玄関であなたを歓迎してくれたホストの I'm happy you came. は「来てくれてうれしく思います」といううれしい気持ちを表し、知らない客の中にあなたを見つけた知人の I'm glad you came. は、「あなたが来てくれてよかった～」とほっとした気持ちをそれぞれ表すのです。

いつもそうだと決まっているわけではありませんが、使われている状況に注意していれば、この2つがどのように使い分けられているか、わかるようになります。もう1つ例を挙げてみましょう。

「友人が事故に遭ったがケガはなかった」、という場合は、**I'm so glad you weren't hurt.** (ケガがなくてよかった) と述べるのが正解です。ネイティブは **I'm so happy you weren't hurt.** とはあまり言いません。

逆に知人が結婚するということは **I'm so happy for you.** と言うのが普通です。この状況で **I'm so glad for you.** と言うネイティブはいません。



## One More Hint

glad は、「よくないことが起こらずにすんでよかった」というニュアンスを含みますので、思っているよりポジティブな単語ではないかもしれません。

**I'm glad it didn't rain.**

「雨が降らなくてよかった=ほっとした」

**I'm glad she's not coming.**

「彼女が来なくてよかった=ほっとした」

**I'm glad he didn't find out.**

「彼に見つからなくて(バレなくて) よかった=ほっとした」

少々品がありませんが、子どもが口ずさむこんな歌があります。

**Birdie, birdie, in the sky.**

**Let a turdy in my eye.**

**Gee, I'm glad cows don't fly.**

鳥さん、鳥さん、大空をはばたき

僕の目にうんちを落とす

ああ、牛が空を飛ばなくてよかった

7

● 微妙な英語の使い分け ●

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
62

**I'm so happy you came.**

来てくれてうれしく思います。

**I'm so glad you came.**

来てくれて助かったぜ。

**I'm so glad you weren't hurt.**

ケガがなくてほっとしたよ。

## I was very hungry.

**勘違い** 「とてもお腹が空いていました」

**本当は** 「とにかく腹が減ってたんだよ！」

### very と really のネイティブ流使い分けを学ぶ



生徒が **I was very hungry.** と言うと、私はちよつとだけ困惑します。そのようなときは、「そうではなくて、**I was really hungry.** と言いましよう」と教えています。

「very と really は同じでしょう？ なぜいけないの？」と不思議に思うでしょう。でも実は両者には微妙な違いがあります。

会話において、ネガティブな形容詞を強調するために very を使うと、イライラ感が含まれてしまうのです。

#### **She was very angry.**

「彼女、すごく腹が立ってたんだよ」（イライラ感）

#### **It's very hot.**

「まったく暑いよ」（イライラ感）

しかし否定文になると、このイライラ感はほとんど感じられません。

#### **She wasn't very angry.**

「たいして立腹していなかった」（イライラ感なし）

#### **It's not very hot.**

「たいして暑くはない」（イライラ感なし）

なるほど！



またビジネス文書、公文書、論文などでは really ではなく、very を用いるほうが適切です。

#### **The test results were very helpful.**

「検査の結果が非常に役立つ」

#### **The client was very interested in our new product.**

「顧客は新製品に大変興味を示した」

それに対し **really** は口語においてよく使われ、肯定でも否定でも特にイライラ感は伴いません。

**She was really angry.** 「彼女はとても怒っていた」

**She wasn't really angry.** 「彼女はそれほど怒っていなかった」

**It's really hot.** 「とても暑い」

**It's not really hot.** 「それほど暑くはない」

そうだったの



口語においては **really** のほうが好まれますが、フォーマルな文書で使うと、やや稚拙に聞こえます。

日本語と違って、英語は書き言葉と話し言葉にそれほど違いはありませんが、**very** と **really** は例外のひとつといえます。覚えておきましょう。

## One More Hint

スピーチ、プレゼンテーション、論文などでは、**extremely** という語の使用をおすすめします。会話、文書を問わず使えますが、友人や知人とのカジュアルな会話では大げさで、少し嫌味に聞こえてしまうかもしれません。

**I was extremely hungry.**

「極端に空腹だった」

**It's extremely hot.**

「極端に暑い」

**The client was extremely interested in our new product.**

「顧客は新製品に非常に興味を示した」

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
63

# I was really hungry.

すごくお腹が空いちゃって。

# It's not very hot.

たいして暑くはないよ。

# It's ~~not~~ really hot.

それほど暑くはない。

7

● 微妙な英語の使い分け ●

# I'm thinking of you.

**勘違い** 「あなたのことを考えています」

**本当は** 「あなたのことを思いやっています」

## いとしい気持ちが含まれます

へ～

英語の歌には、**lying in my bed, thinking of you** というような歌詞がしばしば登場します。「ベッドに横たわり、あなたを思う」、つまり好意を寄せる相手のことを思っています。私はふと、「なぜ **thinking about you** ではなく、**thinking of you** なのだろう？」と考えました。歌のリズムを崩さないため、というのも理由として考えられるでしょうが、それだけではなさそうです。両者にはわずかながら、違いが感じられます。次の例を見てください。

- ① **I think about Albert Einstein all the time.**
- ② **I think of Albert Einstein all the time.**

どちらの文も成立しますが、ネイティブならほとんどが例文①を口にするでしょう。これだと「アルバート・アインシュタイン自身、加えて彼の理論や彼の業績について考えている」という意味になります。

一方②のほうは、アルバート・アインシュタインを個人的によく知り、気遣っている、という人だけが使う言葉です。彼の奥さんや恋人なら、こちらを使うでしょう。

その他の例を見ましょう。

なるほど!



わがままな男性とおつき合いしている女性が、**Think of me.** と言えば、「私のことを大事にして」という意味です。もし **Think about me.** と言ったなら、「私の立場をよく考えてほしい」という意味になります。Think about... には、相手を思いやるという感情は含まれません。感情や思いよりも相手の置かれている状況や立場を考慮します。



自分が好意を寄せている人が自分のことをどう思っているか、共通の友人に尋ねたい場合、

**What does she think of me?**

会社の上司などが自分を好ましく思っていないか心配で、その点について上司をよく知っている同僚に尋ねるとき、

**What does he think about me?**

特に親しい友人に宛てて手紙を書くとき、

**I think of you all the time.** 「いつもあなたのことを思っています」

大切なクライアント宛ての場合、

**We think about you all the time.**

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
64

**I think of you all the time.**

いつもあなたのことを思っています。

**I'm thinking of you.**

あなたのことを思いやっています。

**Think of me.**

私のことを大事にして。

**what does he think about me?**

私の仕事ぶりはどう思っているのかな？

# I'm sad.

**勘違い** 「悲しいよ～」

**本当は** 「悲しい気持ちなのです」

## 感情表現のバリエーションを増やして コミュニケーションの達人に!

日本語でも感情をうまく表現できない人っていますよね。それが英語ならなおさらです。

まさか!

学校英語では、悲しいときは **I'm sad.** うれしいときは **I'm happy.** 腹が立ったときは **I'm angry.** などと言うと習ったと思います。ですが、実際、ネイティブが単に **I'm sad. / I'm happy. / I'm angry.** などと言っているのはあまり聞いたことがありません。これだけでは、表現する側も聞く側も何かすつきりしないのです。

例えば、ひとくちに「悲しい」と言っても、

**That's too bad.** 「残念だったね」

**I wish I hadn't done that.** 「あんなことしなきゃよかった」

**Oh, no...** 「しまった」

**I feel like crying.** 「泣きたいわ (女性のみ)」

**My life is over.** 「もうおしまいだ」

**Nothing ever goes right.** 「何をやってもうまくいかないよ」

と、ネイティブは最低でもこれだけの表現を頭に思い浮かべるでしょう。

「怒った!」なら、

**I can't stand this!** 「がまんできない!」

**No way!** 「とんでもない!」

**I can't believe it!** 「冗談じゃない!」

**What?!** 「なんだって?」

**Brother!** 「なんてこった!」

**Damn!** 「くそっ!」

「うれしい」だと、

**This is great.**「本当にすごいよ」

**That's great.**「すごいね」

**Wow, that's wonderful.**「それはいい！」

**Wow!**「へえ！」

**Great!**「いいね！」

**Fantastic!**「素晴らしい！」

なるほど!



という具合です。

これらの表現を上手に使って、豊かに感情を表現してみてください。きっとネイティブの友達も増えるはずです。

7

● 微妙な英語の使い分け ●

PRACTICE

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
65

**That's too bad.**

残念だったね。

**I wish I hadn't done that.**

あんなことしなきゃよかった。

**I can't stand this.**

がまんできない!

**wow, that's wonderful!**

それはいい!

## I have to go.

**勘違い** 「もう行かなくちゃ」

**本当は** 「残念だけど、もう行かなくちゃ」

### I have to go. と I need to go. は何が違う？

出席していたパーティで、他の人よりも先にいとまを告げるとき、**I have to go.** と言って帰るのがいいのか、それとも **I need to go.** と言うべきなのでしょう？

へ～

**I have to...** という言い方は多少ネガティブなニュアンスがあります。(P180 参照) ならば、**I need to...** のほうがより丁寧かと思われかもしれませんが、この場合、**I have to go.** と言えばネイティブは、「本当は帰りたくはないけど、帰らないといけない」というあなたの心理状態を読み取ってくれます。つまりこちらのほうがあなたの残念な気持ちが伝わるのです。

他の例を挙げてみましょう。

#### **I have to give you some bad news.**

「残念だが / 知らせたくはないんだが、悪いニュースがあるんだ」

#### **I have to disagree with you.**

「残念だが / そうはしたくないが、君には反対だ」

#### **We have to talk about something else now.**

「残念だけど、ちよつと話題を変えないとね」

もうひとつ面白い表現を取り上げてみます。

本当に？

**I have to thank you.** というひと言はよく使われているのですが、「残念だが / 言いたくないが、ありがとうと言わなければならない」という意味ではありません。

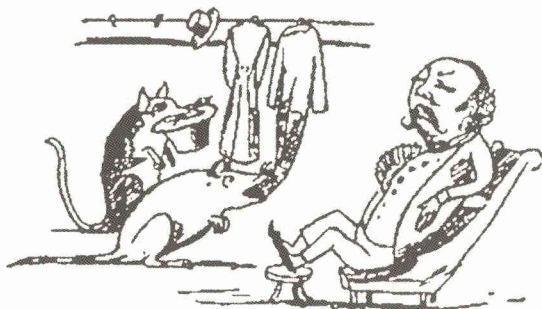
直訳すれば、「私はあなたに謝意を表さなければならない立場にある」となりますが、これはこちらの謝意を伝えるときの言葉なのです。こ

のひと言には、「私はなんにでもありがとう、と言う人間ではないが、あなたの助けがあまりにも大きいので、ただお礼を述べる他ない」という心理が隠されているのです。

そうだったの



こういった大人の表現も身につけておきたいですね。



7

● 微妙な英語の使い分け ●

PRACTICE

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
66

I have to give you some bad news.

知らせたくはないんだが、悪いニュースがあるんだ。

I have to disagree with you.

残念だけど、君の意見には反対だ。

We have to talk about something else now.

残念だけど、ちょっと話題を変えないとね。

I have to thank you.

ありがとうを言わせて。

# I'm boring.

勘違い 「退屈だな」

本当は 「私は退屈な人間です」

## 退屈なのは、あなた？ それとも私？

まさか!

「退屈だなあ」と言うとき、つい **I'm boring.** と言ってしまっていないか。「退屈」と言っても、この言い方だと退屈なのは自分、つまり「私は退屈な人間だ」という意味になります。ネイティブは **You're boring.** 「あなたは退屈な人だ」と言うことはあっても、**I'm boring.** とは言いません。

「私は退屈している」と言うときは、**I'm bored.** となります。bored は過去分詞（動詞の語形が変化したもので、形容詞のように使う）で、「退屈している状態」を表します。

似たような例をいくつか挙げておきましょう。

〜

**I'm interesting.**

「私は面白い / 興味深い人間です」

**I'm interested.**

「興味があります」

**I'm so tiring.**

「私は人を疲れさせる人間です」

**I'm so tired.**

「疲れた〜」

**I'm so exciting.**

「私は他人をわくわくさせる人間です」

**I'm so excited!**

「わくわくします」

## One More Hint

本当に?

**be interested in...** は、ふつう「〜に興味がある」と訳されます。でもネイティブがこう言う場合には、ニュアンスがちょっと異なります。実際には、単なる「興味」以上の関心があるときに使われています。

例えば、

**I'm interested in buying a new computer.**

と言った場合には、「コンピュータをぜひとも買いたい」という訳をあてるとぴったりきます。

**I'm interested in meeting you.**

「ぜひ会いたい」

**I'm interested in this job.**

「この仕事はぜひやりたい」

**I'm not interested in going.**

「絶対行きたくない」

7

● 微妙な英語の使い分け ●

PRACTICE

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
67

# I'm bored.

退屈だな。

# He's so boring!

あいつは退屈な男だね。

# I'm really interested.

すごく興味あります。

# Did anything interesting happen?

何かおもしろいことあった?

## Can anyone speak Japanese?

**勘違い** 「誰か日本語を話せる人はいますか？」

**本当は** 「誰でもいいから日本語を話せる人をお願い！」

### any と some のネイティブ流使い分けとは？



日本で予約しておいたホテルに到着しました。ところがホテルの受付にいる係員の英語がさっぱりわからない…。こんなときあなたなら、次のどちらの例文を用いて尋ねますか？

① **Can someone speak Japanese?**

② **Can anyone speak Japanese?**

ふつうに尋ねるのであれば、①の例文でよいでしょう。こちらは「誰か日本語を話せる人はいますか？」という意味です。

②は「誰でもいいから日本語ができる人はいないのか?!」という意味になります。やや大げさに聞こえますね。

someone は「誰か」、anyone のほうは「もう誰でもいいから」というイメージです。別の例を挙げてみます。

① **Did you go somewhere?**

② **Did you go anywhere?**

なるほど!



① は「どこか楽しいところでも出かけた？」というニュアンスですが、② は「とにかく家から外に出た？」というニュアンスです。

その他、some と any の使い分け例をいくつか挙げておくので参考にしてください。

**Is there something to eat?**

「何か食べるものある？」

**Is there anything to eat?**

「食べるものは何かないの？」



**Did you buy something?**

「何か買ったの?」

そうだったの



**Did you buy anything?**

「何も買わなかったの?」

**Did you do something?**

「何かしたの?」

**Did you do anything?**

「何かやらかしたのか?」

7

● 微妙な英語の使い分け ●

**PRACTICE**

イメ〜字で聞き取りと発声練習

CD  
68

**Can someone speak Japanese?**

誰か日本語を話せる人はいますか?

**Can't anyone help me?**

誰も助けられないの?

**Is there something I can do?**

何かできることがありますか?

**I didn't do anything!**

何もしていないよ!

# If it rains, we'll stay home.

**勘違い** 「雨が降ったら、家にいるつもりです」

**本当は** 「雨が降らなきゃいいのにな～」

## if を置く位置でニュアンスが変わる

学校の英語の授業で、

**If it rains, we'll stay home.**

「雨が降ったら、家にいる」

というような表現を習ったことがあるでしょう。その際、カンマで区切られた部分を入れ替え、

**We'll stay home if it rains.**

としても同じだと習いませんでしたか？ 基本的には間違いではありませんが、ネイティブの耳には両者はかなり違って聞こえます。

最初の文は、「雨が降る確率が少ないことを願っている」という気持ちが込められているように感じます。それに対して次の文は「もし雨が降ったら家にいる」という単なる陳述にしか聞こえません。

上のような例なら、どちらを使っても問題になることはありません。しかし状況によっては、使い分けをしたほうが良い場合があります。

**You can come if you want.**

と言うときは、相手に来てほしいという思いが感じ取れます。つまり誘っているのです。しかし、

**If you want, you can come.**

と入れ替えると、「どうしても来たいというなら、まあ来てもいいよ」というニュアンスになり、逆に相手に来てほしくないということを示唆します。

**I'll call you if I have time.**

「時間があつたら電話する」

**If I have time, I'll call you.**

「時間はないと思うけど、あつたら電話する」

まさか!

～

**We'll be rich if this works.**

「これがうまくいけば金持ちになれる」

**If this works, we'll be rich.**

「もしうまくいったとしたら、お金持ちになれるかもね」

なるほど!



**She'll call you if she loves you.**

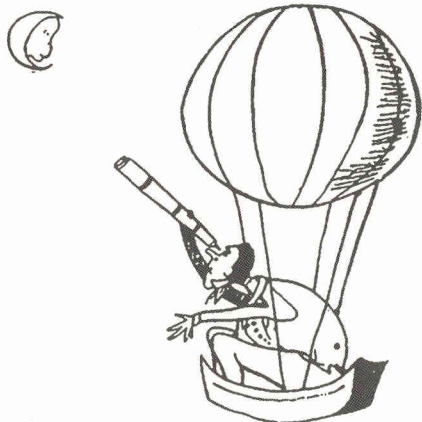
「彼女が君を愛しているなら電話するでしょう」

**If she loves you, she'll call you.**

「ないとは思うけど、彼女がもし君を愛しているなら電話するでしょう」

7

● 微妙な英語の使い分け ●



## One More Hint

次のような例文では、ネイティブの耳には2番目の例文のほうが自然に聞こえます。

**If you are unable to finish by Friday, please contact me as soon as possible.**

「金曜日までに終わることができなければ、できるだけ早く連絡してください」

▶ **Please contact me as soon as possible if you are unable to finish by Friday.**

「金曜日までにできないという事態になれば、できるだけ早く連絡してください」

**If you would like to know more, don't hesitate to send me an e-mail.**

「詳細を知りたいければ、遠慮なくメールしてください」

▶ **Don't hesitate to send me an e-mail if you would like to know more.**

「もっと詳しく知りたいということであれば、遠慮なくメールしてください」

文章では一般的に、メインとなる動詞が文頭に近いほどよいとされています。if を後に持つていくことで、その目標が達成されます。これはあまり参考書に載っていませんが、書くことに慣れたネイティブは無意識のうちにこのルールに従い、文章を書いているのです。



イメ〜字で聴き取りと発声練習



# We'll stay home if it rains.

雨なら家にいます。

# If it rains, we'll stay home.

もし雨が降っちゃったら家にいるよ。

# I'll call you if I have time.

時間があったら電話する。

# If I have time, I'll call you.

時間はないと思うけど、あったら電話する。

# I watched a cat climb a tree.

**勘違い** 「木に登っている猫を見た」

**本当は** 「木に登っている猫をしばらく眺めていた」

## watch、look、see の ネイティブ流使い分けを学ぶ

watch、look、see はどれも「見る」という意味ですよね？ これは誰でも知っていること。でも、それぞれどんな違いがあるかわかりますか。日本語でも「見る」というときには異なる漢字を当てはめ、それぞれ意味も違ってきます。英語の場合、その使い分けは「時間」と関係があるようです。

例えば、「木に登っている猫を見た」というのをそれぞれ、watch、look、see を当てはめ、例文を作ってみましょう。

誰かが、**I watched a cat climb a tree.** と言ったら、そのできごととは5分ぐらいかかったと考えます。例えば、「猫がゆっくりと木に登り、さらに上に行くかどうか躊躇しながら、また少しずつ登っていくのをしばらく眺めている」様子を思い浮かべられるのです。

やや不自然ですが、誰かが、**I looked at a cat climbing a tree.** と言えば、1～2分ぐらいのできごとだと考えます。「木に登っていることはあまり気に留めず、猫をじっと見ていた」様子が浮かびます。

もし、**I saw a cat climbing a tree.** と言えば、「車を運転してふと横を見ると、木によじ登っている猫がいた」という短い間の出来事を思い浮かべます。

climbing を climb にし、**I saw a cat climb a tree.** とすると、「見た」時間はさらに短くほんの数秒間、しかも見る気はなく、たまたま目にしたという印象になります。



まとめると、次のような時間配分になります。

●「夕焼けを見た」

A: **We watched the sunset.** (30 分間ぐらい)

B: **We looked at the sunset.** (およそ数分間)

C: **I saw the sunset.** (数秒)

A: 旅行者が海岸かどこかに座り、沈んでいく夕日を眺めているというイメージ。

B: 研究者か誰かが、夕日を観察しているというイメージ。

C: 都内の道路を運転していて、ビルの合間からのぞく夕日が視界に入ったというイメージ。

なるほど!



ただし映画や演劇といったものを観たときには、数秒のできごとではなくても **saw** を使います。

**I saw / watched a movie.** どちらも「映画を観た」という意味ですが、この2つはニュアンスがちょっと異なるので注意が必要。

「上映時間に合わせて映画館に出かけて行って観た」という場合、見た時間の長さに関係なく、**I saw a movie.** と言います。それに対し、レンタルをして自宅で都合のよいときに見るという場合は、**I watched a movie.** というのが普通です。

また「聞く」という動詞の **listen** と **hear** も区別が難しいとこぼす人が多いようですが、これも簡単に言うと、短い時間なら **hear**、長い時間は **listen** というような区別もできます。

●「話を聞いた」

**I listened to his speech.**

「演説を聞いた(数十分以上)」

**I heard him talking.**

「彼が話しているのを聞いた(数秒間)」

## One More Hint

「英語の聴き取りテストを受けた」と言いたいときに、**I took a hearing test.** と言う人が大勢います。私には、これがたいてい「英語の聞き取りテスト」のことを指しているとわかります。しかし一般的なネイティブなら、「この人、耳が悪いのかな?」とってしまうでしょう。なぜなら、これでは「私は聴力検査を受ける」という意味になるからです。

また **I have a listening test tomorrow.** などと言う人もいますが、これでも十分ではありません。これだと、

- ①英語の聴き取りテスト(言語について話している場合)
- ②人の話を聞く適性があるか否かのテスト

の2通りに解釈できてしまいます。

少々長くなりますが、**I have an English listening comprehension test.** と言えば「英語の聴き取りテストがあるんだ」と、確実に理解してもらえます。hear= 耳に自然に入ってきたもの、listen= 耳を傾けて意識的に聞いたもの、というイメージです。

PRACTICE

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
70

I watched a cat climb a tree.

猫が木に登っていくのをしばらく眺めていた。

we watched the sunset.

夕焼けをしばらく眺めた。

I saw the sunset.

夕焼けをちらっと見た。

I listened to his speech.

彼の演説を聞いた。

7

● 微妙な英語の使い分け ●

# I have to take my dog for a walk.

**勘違い** 「犬を散歩させなくちゃ」

**本当は** 「イヤだけど犬の散歩に行かなくちゃ」

## I have to take my dog for a walk. は犬嫌いの人のセリフ

次の2つの例文を見てください。

**I have to take my dog for a walk.**

**I need to take my dog for a walk.**

**まさか!**

どちらも非常によく似ていて、「私は犬を散歩に連れて行かないといけない」と訳することができます。しかしどちらを選ぶかで、犬好きかそうでないかがわかるのです。まず相手が **I have to take my dog for a walk.** という場合、犬が好きではないので、いやいやながら散歩に行く聞こえます。

**have to...** は「やりたくないのに強要された」というときに用います。ビジネスの場などでクライアントに向かって、**You have to fill out this form.** などと言うと、「この用紙は嫌でも記入してもらわないとだめです」と聞こえてしまいます。クライアントに使う言葉にしては少々きつ過ぎて、中には怒り出す人もいるでしょう。敏感な相手なら、**You can't make me.** 「やらせようたってやるもんか」と、かみつくかもしれません。

**そうだったの**



「**have to...** がだめなら、**must** は？」と考えたあなた、文法的には間違いではないと言っておきます。でも **You must fill out this form.** と言うネイティブはほとんどいないでしょう。これでは「あなたはこの用紙に記入する義務があるのだ」と聞こえてしまい大げさすぎます。



**I must take my dog for a walk.** や **I must go shopping today.** のように、日常のちよつとしたことを言うのに **must** を使うと、ネイティブにはとても不自然に聞こえるのです。

ではネイティブはどんなときに **must** を用いるのでしょうか？ 自然な使い方が2通りあります。まずは、**must + have...** の形で、過去にしてしまったことに気づいたときに使う場合。



まず、**I must have lost my wallet.** という例を取り上げてみましょう。この形はしばしば「～したに違いない」と訳されていますが、「財布をなくしちゃったんだろうな」とするほうがいいでしょう。

**I must have overslept.**

「寝過ぎしちゃったな」

**She must have lost her ticket.**

「彼女、チケットをなくしちゃったんだろうな」

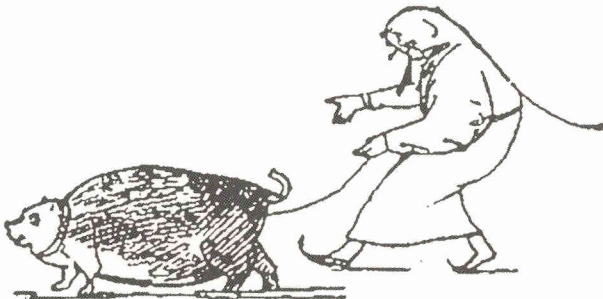
**You must have made him mad.**

「彼を怒らせたんでしょう」

2番目は、相手に何か喜ばしいこと(もの)を勧める場合。



**You must try the cake.** という例を取り上げます。この **must** は相手に「～しなければならぬ」と強要しているわけではなく、「ぜひ～してみてください」と勧めているのです。したがって「あなたはこのケーキを食べなければならない」ではなく、「ぜひこのケーキを食べてみてよ、おいしいから!」という意味になります。



## You must come to Japan someday.

「いつかぜひ、日本に来てくださいね！」

## You must go to Kyoto.

「京都にはぜひとも行ってみて」

最初に挙げた例のうち、残っているもう1つの例文、**I need to take my dog for a walk.**に戻りましょう。こちらは、おそらく相手は犬が好きで、犬を散歩に連れて行かなければならない状況にあり、自分自身も連れて行きたい、という気持ちが含まれます。つまり、話し手は犬好きと言えるでしょう。

### One More Hint

ネイティブは must をスピーチなどでよく用います。著名人のスピーチの中で使われた例を挙げると…。

#### We must be bold.

「大胆でなければいけない」(John F. Kennedy)

#### We must stand together.

「共に立ち上がらなければいけない」(Margaret Thatcher)

#### We must be staunch in our conviction.

「信念を貫かねばならぬ」(Ronald Reagan)

#### We must, and we will, confront threats to America.

「アメリカを脅かすものには立ち向かわなければいけない、これからも」(George Bush)

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
71

# I need to take my dog for a walk.

犬の散歩に行かなくちゃ。

# we must be bold.

大胆でなければいけない。

# You must go to Kyoto.

京都にはぜひとも行ってみて。

## We went to store.

勘違い 「店に行った」

本当は 「ストアという場所へ行った」

### a の心理学

不定冠詞の “a” / “an” の用法に苦労している英語学習者が非常に多いと聞きます。

例えばあなたが、**We went to store.** と言ったとします。

本当は **We went to a store.** 「店に行った」と言いたかったのですが、“a” を落としてしまいました。このときネイティブは、「冠詞の “a” が抜けている」とは考えず、「“store” って、Store (ストア) という都市か何かの名前かな?」と考えます。“a” がなかったために、固有の名前だと判断するのです。

このような混乱を避けるために “a” が大切になってくるのです。もう一例取り上げてみましょう。

「ハンバーガーを買った」と言うつもりで、**I bought hamburger.** と言ったとします。でも、ネイティブはおそらく、「肉屋でひき肉を買ったんだな」と考えます。あるいは「ハンバーガー」という名称の品物を買ったと判断するでしょう。“a” が欠けているので、hamburger (挽いた肉のこと)、あるいは Hamburger という固有の商品名と考えるのです。

まさか!

また混乱をさけるため、“s” をつけて複数にすることがあります。

例えば **She likes tree.** と言ったとすると、

- ① 彼女は Tree さんという名前の人が好き。
- ② 彼女は Tree という商品が好き。
- ③ 彼女は tree の味が好き。

と、実に3通りもの解釈ができてしまうのです。tree を複数にし、**She likes trees.** とすると、「彼女は木 / 森林が好きだ」という意味になります。

そうだったの



“a”をつけて **She likes a tree.** ということはありません。「彼女は  
ある木が好き」と言うのは不自然だからです。

**She likes a painting.** 「ある絵が好き」とするのは変ではありません。

a のあるなし、単数複数で意味が変化する例をいくつか挙げておきます。

**He has cup.**

「彼は cup という名の病にかかっている」

**He has Cup.**

「彼は cup (という商品) を持っている」

**He has Cup.**

「彼は Cup さんの担当」

**He has a cup.**

「彼はカップ (コーヒー茶碗) を持っている」

**She cooked a rice.**

「彼女はひと粒のご飯を炊いた」

**She cooked rices.**

「“Rices” という料理を作った」

**She cooked some rice.**

「ご飯を炊いた」

**I took book.**

「Book さんという名の人を連れて行った」

**I took Book.**

「Book (という商品) を持って行った」

**I took a book.**

「1冊の本を持って行った」

**I took some books.**

「数冊の本を持って行った」



## One More Hint

“the”について考えてみましょう。the について書かれた本がいろいろと出回っていますが、the の用法はひと言で説明できます。話し手が全部述べなくても聞き手が理解できるという場合など、ものごとが省略されているときに the を使うのです。

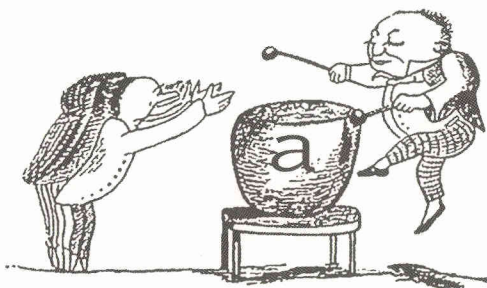
「ほら、あれ。全部言わなくてもわかるでしょう」と言うときの、the がつく例を挙げておきましょう。

I went to a store that I frequently go to.

「よく行く店に行った」

▶ We went to the store.

「いつもの店に行った」



7

● 微妙な英語の使い分け ●

PRACTICE

イメ～字で聴き取りと発声練習

CD  
72

# She likes trees.

彼女は森林が好き。

# Do you need a cup?

カップほしい?

# Let's COOK some rice.

ご飯を炊こう。

# I bought a book.

本を買いました。

## **I might do that. →する可能性 40%** **I'll probably do that. →する可能性 70%**

### 可能性は何%?

「～するかもしれない」と言うとき、英語では選ぶ語によって可能性の度合いが変化します。例えば、**I might do that.** と言えば、可能性は40%ぐらいです。**I'll probably do that.** だと70%程度にアップします。※必ずこの数字になるということではありません。個人差もあるので、あくまでも目安です。

最近、**I just might do that.** という表現を使うネイティブが多いことに気づきました。“just might” だどどの程度の可能性になるのでしょうか？

**I might do that.** なら40%ぐらいの可能性でしたが、**just might** だと、潜在意識の中ではそれよりもずっと下の10%ぐらいに感じます。つまり **just** を加えると、可能性が下がるということです。**It might work.** なら、「大丈夫かもしれない」というニュアンスですが、**It just might work.** だと、「大丈夫だという可能性がないことはない＝可能性はごくわずか」という感じです。

また、**I might do that.** という場合、自発的にする可能性の他、「第三者によってさせられる可能性もある」とも聞こえます。例えば、誰かが **I might go to New York.** と言ったとすると、

- ① 旅行でニューヨークに行く(=自発的)
- ② 仕事の出張で行く(=行きたくはないが、第三者〈会社〉によって行かされるのかもしれない)

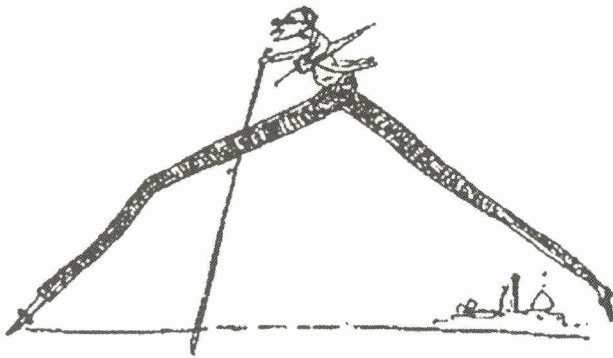
という2通りの解釈ができます。

might と may にはそれほど差異はないと考えている日本人が多いようです。しかしネイティブは可能性という意味で may を使うことはほとんどありません。理由は簡単。混同しやすいからです。例えば、**He may use my computer.** と言ったとしましょう。この場合、

- ① 彼は私のコンピュータを使うかもしれない。
- ② 彼は私のコンピュータを使ってもかまわない。

と2通りに解釈できるので、どちらなのかはつきり分かりません。

可能性を示唆するときネイティブなら、**He might use my computer.** と言います。



## 僕ら、友だちじゃなかったの？

日本に来てからまだ日が浅いころ、英語と日本語とのギャップを痛感したエピソードがあります。私がある日本人の友人と買い物をしていたときのこと。彼はある品物を私に見せてこう言いました。

**“I'm going to give this to my friend. What do you think?”**

私はショックを受けました。彼が別のの人に贈り物をするのが悲しかったのではなく、彼が私を「友人とは思っていない」と勘違いしたからです。my friend だと、「友人が1人しかいない」という意味になります。つまり、私は彼の友人だと思っていたのに、彼は「誰か私の知らない唯一の友人」にそれをあげると聞こえたのです。もちろん今ではそれは些細なミスだったとわかっていますが、その場合、

**I'm going to give this to one of my friends.**

と言ってくれれば誤解はなかったでしょう。





ネイティブ  
英語の **壁** 8 章

英語の意外な一面



1

## You're it.

**勘違い** 「あなたがソレです」

**本当は** 「君が鬼だよ」

### 辞書には載っていない it の特別な意味

it はよく使われる英単語のひとつですが、この it は最も理解が困難な語でもあります。なぜなら、it にはたくさんの意味が隠されていますが、そのほとんどが辞書には詳しく載っていないからです。「成功する」という意味もそのひとつです。

「それ」という意味以外を指す例文をみてみましょう。



**We did it!**

「成功だ!」

**I have it!**

「成功につながるアイデアがあるよ!」

**You can do it!**

「成功するよ!」



もちろん例外もありますが、成功を意味する、あるいはそのニュアンスを感じさせるフレーズが多いのです。

またアメリカの芸能界、ファッション業界では、itは「何か光るもの、特別な才能」を意味する語として使われています。ファッション業界ではトップ・モデルはしばしば、“**The it girl**”と呼ばれていますが、この語句には「他を圧倒するキャリアを築いている＝大成功している」という意味も含まれています。また、**She's really it.**などと、「彼女はただものじゃないな」とたぐいまれな才能を持つ人に対して使うこともあります。

このitがなぜそのような意味を持つに至ったかは、はっきりはわかりません。アメリカでは、「鬼ごっこ」の鬼をitと呼び、子どもたちは**I want to be it.**「僕/私が鬼だ」とか、**You're it.**「君が鬼だ」などと言って遊びます。ひょっとしたら、“鬼ごっこ”と関係があるのかもしれないですね。

そうだったの



なるほど!



8

● 英語の意外な一面 ●

PRACTICE

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
73

# You're it!

君が鬼だよ。

# we did it!

やった!

# I have it!

成功につながるアイデアがあるよ!

# You can do it!

絶対にできるよ!

## He's not very good.

**勘違い** 「彼はいい人じゃないよ」

**本当は** 「彼は下手くそだよ」

### good の意味は「よい」だけじゃない

何かを強調したいときには、very を加えるのはご存知ですよね。例えば、**He's smart.**「彼は利口だ」を強調する場合、**He's very smart.**「彼は本当に利口だ」とすることができます。しかし否定文で "good" という形容詞を用いる場合は例外です。

**He's not very good.** は、**He's not good.** を強調した文ではないのです。

〜

good は古い語で、元来 'god' (神) と深い関係があります。ですから、昔 good person といえば、信仰心の厚い人を意味し、godly person とほぼ同じ意味でした。現在でも単なる「よい人」ではなく、「モラルをわきまえた人」を意味します。ネイティブが、**He's not good.** という場合、「モラルに欠ける人間」を指しているのです。

**She's not a good person.** 「彼女はモラルに欠けた人だ」

まさか!

**He's not very good.** は、**He is not very good at...** 「彼は〜があまり上手ではない」という文を短縮したものです。こちらの場合は、単に「相手の技術が劣っている、それほどでもない、下手だ」と言っているだけで、相手が道德心の高い人かどうかということにはまったく触れていないのです。

**She's not good. I don't trust her at all.**

「彼女はモラルに欠けるから、信用しません」

**She's not very good, but she'll get better if she practices.**

「彼女は上手ではないが、練習すれば上達します」

**It's not good to cheat.**

「カンニングはよくない」

**He's not very good at cheating.**

「彼はカンニングしてもすぐにバレる」

**One More Hint**

そうだったの



good は「よい」ことを意味するだけではありません。例えば、

**Good grief!**

たとえば、「重大な悩み」という意味になり、「こいつは困ったぞ!」というときによく使われます。

**She gave him a good slap in the face.** という場合、「よい平手を食らわした」のではなく、「しっかりとひっぱたいた」という意味になります。つまり、**She gave him a hard slap.** 「きつい平手をお見舞いした」ということ。

他にも例を挙げておきます。

**I got a good electric shock.** (= I got a major electric shock.)

「高電圧のショックを受けた」

**He has a good hangover.** (= He has a serious hangover.)

「彼はひどい二日酔いだ」

**It'll take a good 15 hours to get there.** (= It'll take at least 15 hours to get there.)

「到着するのに少なくとも15時間はかかるだろう」

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
74**He's not very good.**

彼は下手くそだよ。

**It's not good to cheat.**

カンニングはよくない。

**He's not very good at cheating.**

彼はカンニングが下手だ。

**She's not a good person.**

彼女はモラルに欠けた人間だ。

# I ain't going.

**勘違い** 「私は行きません」

**本当は** 「私が行くのはいやだ」

## ain't 実はけっこう使われています

辞書で ain't と引けば、たいていは「あまり適切な表現ではない」と説明されています。しかしネイティブはよく使っています。例えば、I'm not.../She isn't.../と言う代わりに、I ain't.../She ain't... と言っています。

本当に？

歴代のアメリカの大統領を始め、ブッシュ現大統領でさえも繰り返し使っている使いやすい語なのです。ain't の歴史はかなり古く、200 年前のチャールズ・ディケンズの小説で既に使われています。ただし小説では、イギリスの下層階級が使うものとされていました。この見方が現在に至っているというわけです。ことにイギリスではその傾向が強く、イギリスよりもアメリカでよく使われています。

しかしあまり品がよくない、とされる ain't をネイティブが使い続けるのはどういう理由からでしょうか？

おそらくそれは、I'm not... と I ain't... が同じではないからでしょう。例えば、**I'm not going.** と言えば、単に「私は行きません」と聞こえます。でも、

### **I ain't going.**

だと、「私が行くのはいやだ」と聞こえ、より強く感情が込められたひと言になるということです。

なるほど！



頻繁に使うと教養のない人間と思われる可能性もありますが、知識として頭に留めておけばネイティブ英語の理解に役立ちます。

### **If it ain't broken, don't fix it.**

「いかれてないなら、直すことはない」

**It ain't over 'til it's over.**

「最後の最後までわからんさ」

**I ain't perfect.**

「僕は完全な人間なんかじゃない」

**I ain't going to do nothing.**

「な〜んにもする気はない」



8

● 英語の意外な一面 ●

**PRACTICE**

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
75

**I ain't going!**

私が行くのはいやだ。

**If it ain't broken, don't fix it!**

いかれてないなら、直すことはない。

**I ain't perfect!**

僕は完全な人間なんかじゃない。

**I ain't going to do nothing.**

な〜んにもする気はない。

## I'd kill for a big steak right now.

**勘違い** 「ステーキのためなら人殺しもできる」

**本当は** 「ああ、ステーキ食いてえ〜！」

### 英語って野蛮かも…

まさか!

「英語は暴力的な言語だ」と言った生徒がいました。残念ながら、その通りという他ありません。日常会話で私たちは“kill”（殺す）をはじめ、しばしば暴力的な語を使っています。例えば、**I'd kill for a big steak right now.** は直訳すると「ステーキのためなら今ここで人を殺してもいい」となります。

もともと、本当にそうしたいという意味ではなく、それぐらいステーキが食べたいという比喩表現に過ぎません。別の表現に置き換えるなら、**I'd really like a big steak.** 「ああ、でかいステーキが食べたいな」といったところでしょうか。

へ〜

“kill” を使った表現には以下のようなものがあります。

#### **I'm going to kill him.**

直訳「あいつを殺してやる」

本当の意味「あいつ、ただじゃおかないぞ！」

= I'm really angry with him.

#### **I could kill him.**

直訳「あいつを殺してたかも」

本当の意味「あいつには本当に頭にくる」

= He makes me so angry.

#### **You're killing me.**

直訳「俺を殺すつもりか」

本当の意味「そんな言い方はないだろ」

= That's not very nice.



またイギリスでは、強調するときに “bloody” (血まみれ) という語をよく使います。

### He's a bloody liar.

直訳「あいつは血まみれのうそつきだ」

本当の意味「あいつはとんでもないうそつきだ」

= He's a terrible liar.



### It was bloody difficult.

直訳「それは血まみれで難しかった」

本当の意味「本当に難しかった」

= It was really difficult.

### Where's that bloody guy?

直訳「あの血まみれの男はどこ行った？」

本当の意味「あの間抜け野郎はどこ行った？」

= Where's that stupid guy?

---

## One More Hint

他にも色々な表現があるので、見てみましょう。もちろん美しい表現とは言えないので、時と場所は選んでくださいね。

### I want to chop off his head.

直訳「あいつの頭を切り刻んでやる」

本当の意味「あいつには本当に頭にくる」

### I'm going to cut him up into little pieces.

直訳「あいつを切り刻んでやる」

本当の意味「あの野郎、許せない」

### Don't bite off my head.

直訳「俺の頭を食いちぎるな」

本当の意味「怒らないで！」

### I'd like to beat his brains in.

直訳「脳みそをぺしゃんこにしてやる」

本当の意味「ぶん殴ってやる」

I thought I was going to die.

直訳「死ぬかと思った」

本当の意味「恥ずかしくて死にそうだった」

そうだったの



He's a hell of a guy.

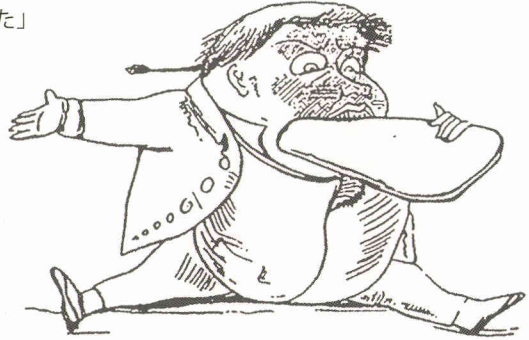
直訳「彼は地獄の男」

本当の意味「彼はすごくいい人」

I pissed myself laughing.

直訳「自分におしっこをかけて笑った」

本当の意味「ゲラゲラ笑った」



PRACTICE

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
76

I'd kill for a big steak right now.

ああ、ステーキ食いてえ〜!

You're killing me.

そんな言い方はないだろ。

Don't bite off my head.

怒らないで!

I thought I was going to die.

恥ずかしくて死にそうだった。

## toilet

勘違い 「トイレ」

本当は 「便器」(アメリカ英語)

なんでもズケズケと言え  
いいってものではありません

まさか!

「日本語ではものごとをストレートに表現するのは遠慮する傾向があるけど、英語ならその心配はいらない」という意見を時折耳にします。これは間違いではないでしょうが、英語圏の人々がいつも遠慮のない表現を使っているわけではありません。

例えば「トイレ」。イギリスでは、toilet と言っても差し障りはありませんが、アメリカではあまりにもあからさまなので、眉をひそめる人が多いのです。アメリカでは、bathroom (bath〈浴槽〉がなくとも、bathroom と呼びます)、あるいは restroom (ここで“rest”〈休憩する〉人はほとんどいないのに…) という婉曲表現を使うのが普通です。

その他の例を挙げてみます。

① **He died.** 「彼は死んだ」

このままではあまりにもストレートですよ。

\* 婉曲表現

**He has passed on.**

**He passed away.**

直訳：旅立ちました。

**He's no longer with us.**

直訳：ここにはいません。

**He went to a better place.**

直訳：天国にいます。

まさか!

② **She's unemployed.** 「彼女は無職だ」  
このままでは無礼です。

\* 婉曲表現

**She's between jobs.**

直訳：求職 / 休職中です。

**She's looking for other opportunities.**

直訳：別の選択肢を探しています。

**She's keeping her options open.**

直訳：よい機会を物色中だ。

そうだったの



③ **He's stupid.** 「彼はバカだ」  
これではあまりにもストレートにものを言い過ぎです。

\* 婉曲表現

**He's slow.**

直訳：彼はのろい。

**He's special.**

直訳：彼は特殊。

**He's not a fast thinker.**

直訳：頭の回転はあまり速くはない。

④ **He's a liar.** 「うそつきだ」  
もう少し知的な言い方をしたいところ。

\* 婉曲表現

**He's not completely honest.**

直訳：すべて明かしているわけではない。

**He's less than honest.**

直訳：正直とはほど遠い。

**He can't be taken at face value.**

直訳：彼の言うことは額面どおりには受け取れない。

**He bends the truth.**

直訳：真実を曲げている。

⑤ **She's on the toilet.** 「トイレに行ってます」

こんなデリカシーに欠けた言い方はぜひとも避けていただきたいです。

## \* 婉曲表現

**She's powdering her nose.**

直訳：鼻に粉をたたいています。\*女性のみ。

**She had to excuse herself.**

直訳：ちよつと失礼させていただいています。

**She'll be back in a minute.**

直訳：すぐに戻ります。

なるほど!



このような婉曲表現を使えるようになれば、かなりネイティブ英語に近づいたと言えるでしょう。

場をわきまえることは、コミュニケーションをとる上で世界共通のルールと言えます。

## PRACTICE

イメ〜字で聴き取りと発声練習

CD  
77

**He's no longer with us.**

彼は亡くなりました。

**She's between jobs.**

彼女は、求職中です。

**He's not a fast thinker.**

彼はおバカさん。

**He's less than honest.**

彼はうそつきだ。

## ネイティブを英語でぎゃふんと言わせるチャンス!

今度、チャンスがあったらネイティブに **What's a spree?** (spree って何?) と尋ねてみてください。きつと答えに窮すると思いますよ。spree は特別な語だとか言つて、言い訳するかもしれません。そしたら、すかさず **What's a shopping spree?** と聞いてみてください。今度はすぐに「買い物三昧ってことだ」と答えられるはずです。

彼らがこの spree という単語についてうまく説明できないのは、その語が特定の表現でしか使われないためです。英語にはこのような例がたくさんあります。以下にその例を集めてみました。いつも英語で引け目を感じているあなた、同じように質問して、時にはネイティブを困らせてやりましょう!

**aback** (逆帆、裏帆、後方へという意味)

**I was taken aback by his answer.**

「彼の答えに面食らった」

\* be taken aback 不意をくらう、まごつく

**amok** (または amuck / 怒り狂う)

**When I was gone, my son ran amok.**

「私がいないうちに、息子は暴れまわった」

\* run amok/amuck 逆上する

**bygones** (過去のこと)

**(Let's) let bygones be bygones.**

「すんだことは水に流そう」

**cahoots** (共謀)

**Those two are in cahoots.**

「あの2人はグルだ」

\*be in cahoots 共謀して

**hunker** (しゃがむ)

**Let's hunker down and study.**

「気合いを入れて勉強しようぜ」

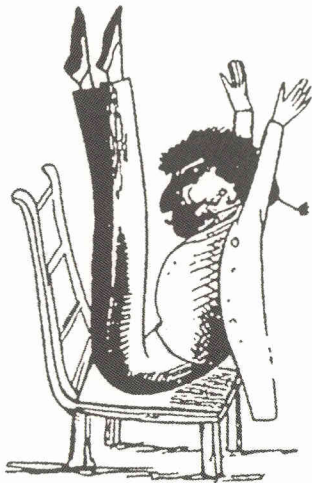
\* hunker down 気合いを入れる

**shebang** (ものごと、事件)

**She went into the store and bought the whole shebang.**

「店に行って何もかも買いつくした」

\* whole shebang 何もかも







## 著者紹介

### デイビッド・セイン (David A. Thayne)

米国出身。社会学修士。豊富な教授経験を活かし、数多くの英会話関係書籍を執筆。著書は『イメ〜字でわかる! ネイティブ英語のしゃべり方』『イメ〜字でわかる! ネイティブ英語の24時間』(小社刊)、『その英語、ネイティブにはこう聞こえます』(主婦の友社)、『英語ライティングルールブック』(DHC)、『敬語の英語』(ジャパンタイムズ) など70点以上。現在、英語を中心テーマとしてさまざまな企画を実現するクリエイターグループ、エートゥーゼットを主宰。東京根津にてエートゥーゼット英語学校校長も務める。

エートゥーゼットのHP <http://www.english-live.com>

indigo

## ネイティブ英語の壁

あなたは勘違い英語で損をしていませんか？

2007年2月24日 初版発行

著者 デイビッド・セイン

©2007 A TO Z Co., Ltd.

発行元 株式会社インディゴ出版  
「イメ〜字」は商標登録出願中です。

発売元 株式会社イースト・プレス  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-19 ポニービル6F  
電話 03-5259-7321  
FAX 03-5259-7322

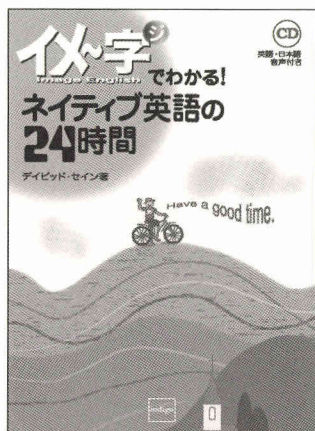
印刷所 中央精版印刷株式会社

定価はカバーに表示してあります。

乱丁・落丁本は小社へご連絡ください。お取り替えいたします。

Printed in Japan ISBN978-4-87257-762-4 C0082





# イメ～字でわかる! ネイティブ英語の 24時間 **CD 付き**

大好評! デイビッド・セインの  
「イメ～字」シリーズ第2弾!

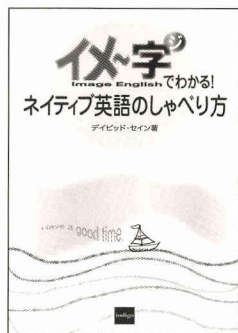
「イメ～字」シリーズ第2弾は、朝起きてから夜寝るまでの間に、ネイティブがよく使う生活感たっぷりの日常英語表現を、時間帯別に収録! 探したいフレーズがすぐ見つかる! 手間が省ける!

デイビッド・セイン著

インディゴ出版刊 定価: 本体 1,143 円+税

ISBN978-4-87257-762-4 C0082

**好評発売中!**



# イメ～字でわかる! ネイティブ英語の しゃべり方 **CD 付き**

デイビッド・セイン著

インディゴ出版刊 定価: 本体 1,143 円+税

ISBN4-87257-748-5 C0082

イメ～字でネイティブ英語のしゃべり方を完全マスター!

# イメ～字 **好評シリーズ 続々刊行予定!**





indigo

<http://www.indigobooks.co.jp>

インディゴ出版

ISBN978-4-87257-762-4

C0082 ¥1143E



9784872577624

定価 (本体 1,143 円+税)

発行元 インディゴ出版  
発売元 イースト・プレス



1920082011437

indigo

<http://www.indigobooks.co.jp>

インディゴ出版

